盛岡地区 救急医療体制 のあゆみ

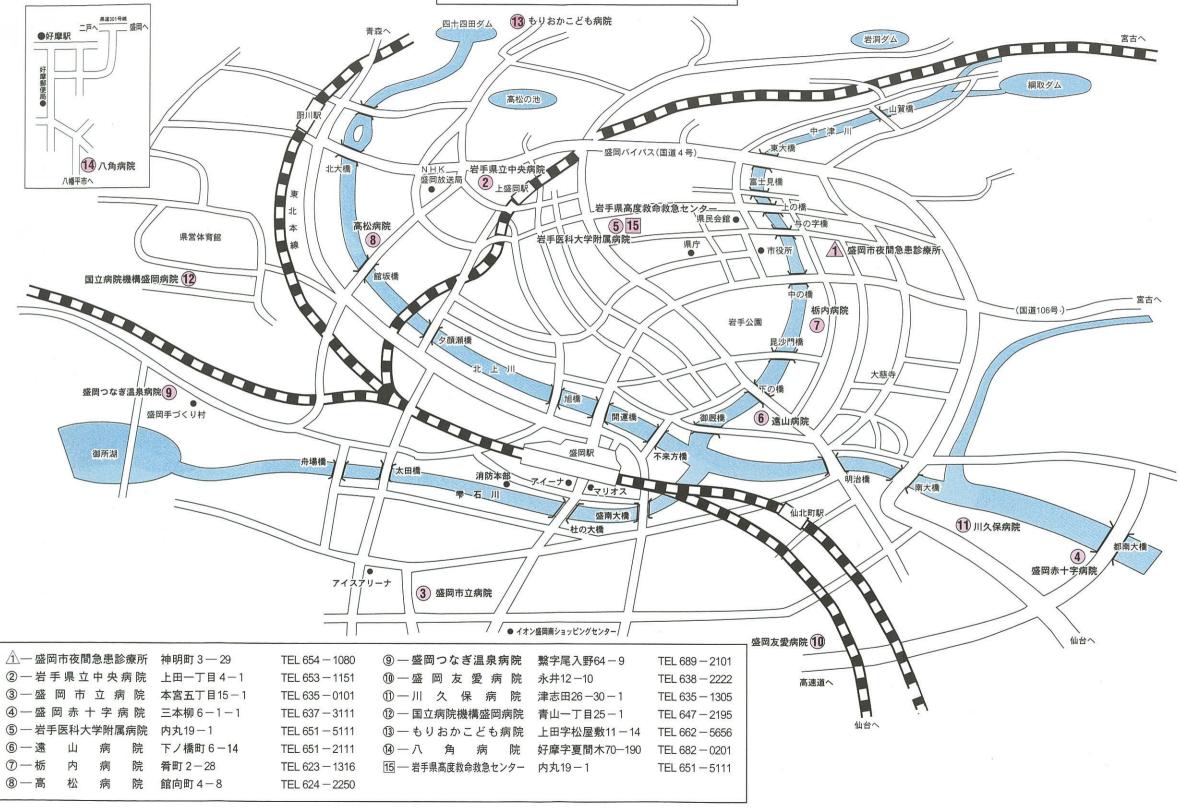
2018

 盛
 岡
 市

 盛
 岡
 市
 医
 師
 会

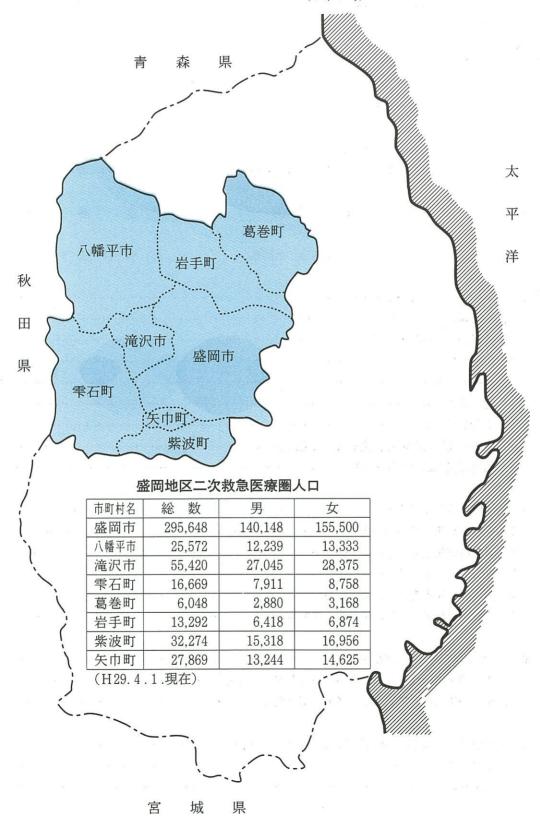
 盛岡地区二次救急医療対策委員会

盛岡地区救急医療施設配置図



盛岡地区二次救急医療圏

(3市5町)



「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」2018年版

E	次		
序		盛岡市医師会会長 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長 和 田 利 彦	6
挨	拶	岩手県県央保健所 所 長 野 原 勝	7
		盛岡地区広域消防組合 消防長 髙 橋 邦 夫	8
1. 2. 3. 4. 5. 6. II. 若 2. 3. 4.	実経診診①②盛盛 手疾来地搬報報所所動職市市 高傷時別先の 度別間入・搬入の で	发	9 9 13 14 23 24 25 26 33 33 33 33 33
		年始の救急医療	3
		6盆休み期間中の外来患者実態調査報告	3
2.	平成29年度年	F末年始外来患者実態調査報告 ····································	3
IV. A	基岡地区二次 非	改急医療体制38年目のあゆみ	41
1.	実態報告		4

3. 平成29年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議	95
4. 盛岡地区二次救急医療対策委員会	97
5. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会	• 103
6. 第14回盛岡救急医療人のつどい	· 104
7. 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会議	
8. 第35回救急医療学術講演会(初期・二次・高次救急医療研修会)	
9. 二次救急病院事務長会議	· 112
10. 平成29年度岩手県総合防災訓練(盛岡市総合防災訓練と合同実施)	· 115
11. 岩手県小児救急電話相談事業(平成29年1月から12月までのまとめ)	120
V. 救急医療年譜 ······	· 126
Ⅵ. 規定・協定書及び設置要項等資料	
1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則	
2. 災害時の医療救護活動に関する協定書	
①岩手県と岩手県医師会との協定書	
②岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書	
③盛岡市と盛岡市医師会との協定書	
3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会設置要項	136
VII. 編集後記 ······	· 138



序 「盛岡地区救急医療体制のあ ゆみ」2018の発刊にあたって

盛岡市医師会会長 盛岡地区二次救急医療対策委員会 委員長 和 田 利 彦

「あゆみ2018 | 発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

盛岡地区救急医療体制のあゆみは、昭和51年に「夜間急患診療所」が開設、昭和54年に「盛岡地区二次救急医療体制」の運用が開始、昭和55年に「高次救急センター」が開設、さらに平成24年5月よりドクターへリの本格運行が開始されました。盛岡地区の初期、二次救急医療のみならず、岩手県全域の住民のために運営され続けられています。これまで、救急医療に関わってこられましたすべての関係者に心より感謝申し上げます。

今回の「あゆみ2018」は、盛岡市夜間急患診療所41年目のあゆみ、岩手県高度救命救急 センター報告、盛岡地区二次救急医療体制38年目のあゆみなどを報告致します。

30年以上になる盛岡地区救急医療体制のあゆみは、様々な課題を乗り越え全国的にも恵まれた状況の中運営されて参りました。来年9月の岩手医科大学附属病院矢巾移転に伴い、救急受け入れ体制の整備が必要となります。初期救急を効率よく対応できるように準備を行い、現在の二次救急医療体制を堅持する必要があります。今後も盛岡地区救急医療体制を守るために努力を続けてまいります。関係各位のより一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



「盛岡地区救急医療体制 のあゆみ-2018-」に寄せて

岩手県県央保健所

所長 野原 勝

『盛岡地区救急医療体制のあゆみ-2018-』の発刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。 盛岡保健医療圏域の救急医療対策事業の推進につきましては、盛岡市、岩手西北及び紫 波郡の各医師会、管内の各医療機関、そして消防機関及び行政機関並びに多くの関係団体 のご協力とご支援のもと、圏域における救急医療体制の円滑な運営がなされており、関係 各位のご尽力の賜物と御礼を申し上げます。

当圏域の救急医療体制は、昭和51年の「夜間救急診療所」の開設を皮切りに、昭和54年に「盛岡地区二次救急体制」の運用が始まり、翌昭和55年には岩手医科大学附属病院に「高次救急センター」が併設され、救急医療体制の礎が築かれました。この後も、東日本大震災津波という未曽有の災害を経た平成24年にドクターへリの本格運航が開始され、救急医療体制はさらに充実しました。当圏域は県内に先駆けて救急医療体制を立ち上げ、一次、二次救急患者に加えて県下の三次救急患者を受け入れ、県全域の高度救命救急医療の提供に大きく貢献しているところであり、圏域の関係各位の熱意と努力に心から感謝を申し上げます。

当圏域内、特に盛岡市の人口集積地は医療機関数と医療従事者がともに他圏域に比べて 恵まれ、患者の求めに応えることができる医療環境を保っているとの理解が一般的ですが、 救急医療だけでなく日常の医療提供においても、医療資源が限られたものであり、適正な 受診姿勢が地域の医療を守るために有効であることについて、行政及び消防機関が中心と なって地域の理解を深める取組を進める必要があります。折しも、平成31年9月には、岩 手医科大学附属病院が盛岡市から矢巾町に移転開設することから、圏域のみならず全県的 に医療提供の仕組みが変化していくと予想されます。先輩諸先生方が築き、たゆまぬ努力 で運営されてきた救急医療が適切に確保されますよう、保健所は地域の皆様にご理解をい ただくよう努めてまいります。

また、高齢者が増えることにより県民医療の疾病構造が変化し、高齢者が医療機関と居宅(施設)とを行き来する例が日常化しました。高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう、医療と介護に福祉を加えた関係機関の連携が求められる中、医療と介護とを橋渡しする連携部門を設ける医療機関も増えておりますが、高度急性期をはじめ全県の医療機能を当圏域が支える構図は変わらないと推察されます。救急患者等に適切な医療が提供できる体制を保つために当所も努力してまいりますので、救急医療に携わる皆様には引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、盛岡地区で救急医療体制の運営に携わる盛岡市医師会の諸先生をはじめ関係各位のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



「盛岡地区救急医療体制のあゆみ-2018-」に寄せて

盛岡地区広域消防組合

消防長 高 橋 邦 夫

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ-2018-」の発刊に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

日頃から当消防本部の救急業務の円滑な推進につきまして格別のご理解とご協力をいた だいておりますことに厚くお礼申し上げます。

救急需要が増大するなか、昨年4月から盛岡中央消防署松園出張所にも高規格救急自動車と救急救命士が配置になり、管内の救急隊18隊すべて救急救命士が救急車に乗車し、医師の指示により必要な特定行為を実施しながら医療機関に搬送することが出来るようになりました。

また、当消防本部の救急救命士の人数も100名を超え、さらに救急体制が充実強化されたことに対しまして、改めて関係者の皆様のご支援に感謝を申し上げます。

盛岡地区の救急医療体制につきましては、盛岡市医師会、岩手西北医師会、紫波郡医師会及び関係医療機関のご尽力により、初期救急医療、二次救急医療及び三次救急医療の体制が確立されるとともに、二次救急病院や小児救急病院の輸番体制が定着し、救急医療が円滑に行われておりますことに対しまして、深く感謝を申し上げます。

さて、全国的に救急出動件数は年々増加しておりますが、当消防本部の平成29年における救急出動件数は17.009件で、前年に比べて544件増加しております。

このような状況にあって、当消防本部といたしましては、消防機関と医療機関の協議の場である「盛岡地域メディカルコントロール協議会」の結果に基づきまして、特定行為プロトコールの一部変更を行い、さらなる救命率の向上を図るとともに、救急隊員の教育訓練の充実と、岩手県で策定した傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準の円滑な運用、岩手県ドクターへリとの連携による救急体制の強化など、関係医療機関等のご理解とご協力をいただきながら、さらなる救急業務の高度化に向け、積極的に取り組んでまいります。

さらに、救命率の向上を図るためには、一般住民に対する応急手当の普及が極めて重要でありますことから、住民がより受講しやすいように講習の追加を図るなど、AEDの使用を含む心肺蘇生法等の普及啓発を積極的に推進してまいります。

また、バイスタンダーによる応急手当の実施率向上を図るため、救急現場において、傷病者に対する応急手当を行った一般住民に感謝の意と窓口相談を記載したバイスタンダーサポートカードを配布し、応急手当を行ったことによる不安や悩みをサポートするバイスタンダーサポート制度を昨年9月から運用しております。

結びに、引き続き、救急隊員に対するより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、盛岡市医師会のますますのご発展と皆様方の更なるご活躍をお祈り申し上げまして、ご挨拶といたします。

I 盛岡市夜間急患診療所 41年目のあゆみ

1. 実態報告

盛岡市医師会、盛岡市夜間急患診療所運営協議会委員

和 田 利 彦 ・ 金 子 博 純 ・ 本 間 博 金 濱 誠 己 ・ 久保田 公 宜 ・ 小 林 有 一

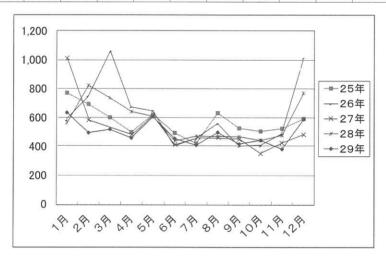
臼 井 由紀子 · 吉 田 研 一

盛岡市、盛岡市夜間急患診療所運営協議会事務局 ※H29.12.31現在

図1 過去5年間の月別患者分布

(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	一日平均
25年	771	693	601	499	622	493	421	632	526	505	524	592	6,879	18.8
26年	582	751	1,058	672	651	402	454	559	404	410	490	1,016	7,449	20.4
27年	1,014	583	520	481	610	410	459	461	453	352	421	479	6,243	17.1
28年	563	823	736	641	609	437	472	469	468	442	477	771	6,908	18.9
29年	635	495	518	459	606	455	409	497	418	443	382	589	5,906	16.2



表(1) 患者総数及び科別実績

(人)

X	分	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	者総数 日患者数)	635 (20.5)	495 (17.7)	518 (16.7)	459 (15.3)	606 (19.5)	455 (15.2)	409 (13.2)	497 (16.0)	418 (13.9)	443 (14.3)	382 (12.7)	589 (19.0)	5,906 (16.2)	100.0	6,908 (18.9)	△ 1,002 (△ 2.7)
科	内科	351 (11.3)	211 (7.5)	193 (6.2)	163 (5.4)	216 (7.0)	159 (5.3)	135 (4.4)	142 (4.6)	107 (3.6)	147 (4.7)	123 (4.1)	209 (6.7)	2.156 (5.9)	36.5	2,611 (7.2)	△ 455 (△ 1.2)
91	小児科	284 (9.2)	284 (10.1)	325 (10.5)	296 (9.9)	390 (12.6)	296 (9.9)	274 (8.8)	355 (11.5)	311 (10,4)	296 (9.5)	259 (8.6)	380 (12.3)	3,750 (10.3)	63.5	4,297 (11.8)	△ 547 (△ 1.5)

- ・患者総数は5,906人で前年より1,002人の減。
- ・一日の患者数は平均16.2人。年間を通じては1月が最も多かった。
- ・内科と小児科との利用割合は、内科36.5%、小児科63.5%。患者の約6割が小児科で占められている。

表(2)年齡別患者分布

(人)

年	-	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	0	31	18	30	42	45	37	35	39	43	40	25	32	417	7.1	425	△ 8
	1 ~ 5	156	137	186	172	227	168	175	227	189	164	146	192	2,139	36.2	2,282	△ 143
	6 ~ 12	72	96	81	60	94	74	62	77	70	72	71	131	960	16.3	1,305	△ 345
年	13 ~ 15	27	33	28	25	32	17	9	15	10	20	18	26	260	4.4	313	△ 53
	16~24	96	61	48	38	55	46	25	32	30	45	28	51	555	9.4	606	△ 51
齢	25~34	76	54	48	41	52	42	38	33	26	29	44	54	537	9.1	667	△ 130
	35~44	84	39	45	32	40	28	26	25	22	33	16	42	432	7.3	589	△ 157
别	45~54	50	27	31	28	24	16	18	18	9	19	14	30	284	4.8	358	△ 74
	55~64	17	15	10	8	16	7	6	15	3	10	7	15	129	2.2	172	△ 43
	65~74	16	9	5	8	7	13	7	8	9	6	7	7	102	1.7	105	△ 3
	75~	10	6	6	5	14	7	8	8	7	5	6	9	91	1.5	86	5
	<u>2</u> f													5,906	100.0	6,908	△ 1,002

[・]年齢別では、1~5歳児が最も多く、全体の36%を占めている。

表(3)地域別患者分布

(人)

地		29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	盛岡市	459	389	370	346	449	335	290	338	319	339	276	450	4,360	73.8	5,118	△ 758
	雫石町	3	5	10	7	12	2	6	11	5	9	5	10	85	1.4	91	△ 6
	葛巻町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	2	△ 2
地	岩手町	4	3	4	4	1	5	2	5	3	2	2	0	35	0.6	35	0
4-4	八幡平市	8	6	9	7	7	10	10	3	7	4	6	5	82	1.4	63	19
域	滝沢市	54	36	34	33	51	43	50	54	36	31	40	46	508	8.6	657	△ 149
別	紫波町	28	29	35	20	24	23	10	26	17	19	14	20	265	4.5	321	△ 56
70.3	矢巾町	33	12	33	27	24	27	21	25	22	29	25	29	307	5.2	334	△ 27
	その他の県内	13	9	8	6	15	5	8	8	6	2	7	6	93	1.6	117	△ 24
	県 外	33	6	15	9	23	5	12	27	3	8	7	23	171	2.9	170	1
	<u> </u>													5,906	100.0	6,908	△ 1,002

[・]地域別で1番多いのは盛岡市の4,360人(全体比73.8%)。前年より758人減。 ・盛岡市に次いで2番目に多いのは滝沢市の508人(同8.6%)、3番目が矢巾町の307人(5.2%)。

(人)

表(4)曜日別患者分布

曜		29年 1月	2月	3 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	月	105	51	67	54	85	68	69	69	46	66	46	50	776	13.1	826	△ 50
nete	火	78	61	47	38	71	41	37	64	38	61	29	52	617	10.4	731	△ 114
曜	水	75	62	79	43	98	62	44	81	53	52	61	68	778	13.2	942	△ 164
日	木	69	63	81	49	86	63	48	68	51	50	70	59	757	12.8	869	△ 112
别	金	56	49	68	60	68	56	33	41	50	33	58	82	654	11.1	751	△ 97
力リ	土	107	113	84	116	112	87	90	106	90	92	63	134	1,194	20.2	1,544	△ 350
	H	145	96	92	99	86	78	88	68	90	89	55	144	1,130	19.1	1,245	△ 115
						計								5,906	100.0	6,908	△ 1,002

[・]曜日別では、土・日曜が多くなっており、合わせて39.3%を占めている。

表(5)時間帯別患者分布

(人)

時間		29年 1月	2月	3 月	4 月	5 月	6 月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
n-t-	午後7:00~	291	236	242	212	290	184	174	234	181	193	166	292	2,695	45.6	3,156	△ 461
時	午後8:00~	174	128	134	121	154	134	110	126	122	109	94	133	1,539	26.1	1,809	△ 270
間帯	午後9:00~	111	88	97	87	103	92	81	78	63	89	69	117	1,075	18.2	1,298	△ 223
別	午後10:00~	59	43	45	39	59	45	44	59	52	52	52	46	595	10.1	644	△ 49
ומ	午後11:00~	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0.0	1	1
						計								5,906	100.0	6,908	△ 1,002

時間帯別では、午後7:00~9:00までが多く、7割を占めている。

表 (6) 時間帯別有救急度患者分布

(人)

時間		29年 1月	2月	3 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
n-t-	午後7:00~	50	31	29	20	17	8	22	23	21	21	17	38	297	44.1	483	△ 186
時間	午後8:00~	20	13	22	11	19	7	12	10	16	7	3	13	153	22.7	254	△ 101
間帯	午後9:00~	12	21	17	10	12	11	8	10	7	13	13	12	146	21.7	206	△ 60
別	午後10:00~	11	3	7	6	7	5	4	6	4	4	10	10	77	11.4	99	△ 22
力リ	午後11:00~	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
						計								673	100.0	1,042	△ 369

[・]有救急度患者は患者全体の11.4%を占め、時間帯別では、午後7:00~8:00までが多く、44.1%を占めている。

表(7) その他事項別人数

(人)

事		29年 1月	2月	3 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
部	医師指導	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3	0.1	7	\triangle 4
電話問合	看護師等助言	266	238	252	214	278	238	242	274	231	213	171	250	2,867	96.9	3,156	△ 289
救急	急車搬入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
二次	救急転送	4	10	7	7	5	7	8	8	10	9	8	7	90	3.0	107	△ 17
		計													100.0	3,270	△ 310

[・]電話問合に対する看護師等の助言件数は2,867件で前年より289件減少した。

表(8) 転送先二次・三次救急病院別診療料別患者分布(平成29年1月~12月)

(人)

診療科 内科 | 小児科 | 外科 | 耳鼻科 | 泌尿器科 | 眼科 | 産婦人科 | 歯科 計 救急病院 岩手県高度救命救急センター 0 岩手県立中央病院 8 22 30 盛岡市立病院 0 盛岡赤十字病院 5 5 岩手医科大学附属病院 32 18 50 遠 山 病 院 0 栃 内 病 院 0 高 松 病 院 0 盛岡つなぎ温泉病院 0 盛岡友愛病院 0 川久保病院 4 4 国立盛岡病院 0 もりおかこども病院 1 1 計 40 50 0 0 0 0 90 比率 (%) 44.4 55.6 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 100.0

表 (9) 転送患者疾患別分類 (平成29年1月~12月)

疾患名	人	疾患名	人
上気道炎(急性他)	7	尿管結石	1
肺炎(急性他)	2	腎盂腎炎	0
気管支炎(急性・喘息様他)	5	クモ膜下出血・脳出血等(疑)	1
気管支喘息(発作含む)	4	中耳炎(急性他)	0
クループ (仮性含む)	1	蕁麻疹	1
気胸(左/右)	1	不明熱	1
扁桃炎(滲出性他)	0	食物アレルギー	2
インフルエンザ	1	高血圧症	0
胃•腸炎(急性・感冒性他)	21	脱水症	2
急性虫垂炎(疑)	4	めまい	1
急性腹症	10	その他	21
心臓病(心不全・狭心症他)	4	計	90

[・]呼吸器系が約2割、消化器系が約4割を占めている。

[・] 小児科が半数以上を占めている。

2. 経過報告•決算•予算

経過報告

平成29年7月8日

平成29年度盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会 平成30年2月15日 平成29年度第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

予算•決算

歳入

(円)

科目	28年度決算	29年度予算	説 明
使用料	80,118,711	85,461,000	診療報酬収入
県補助金	1,968,000	1,598,000	運営費補助金
雑入	1,000	1,000	事務手数料等
合 計	82,087,711	87,060,000	

歳出

科目	28年度決算	29年度予算	説明
幸促香州	48,591,130	49,310,000	管理者、医師、看護師報酬
共済費	906,007	953,000	社会保険料
賃金	0	226,000	臨時補助員賃金
報償金	153,600	96,000	運営協議会委員謝金
旅費	0	740,000	研修会参加旅費
需用費	8,667,618	7,526,000	消耗品、燃料、食糧、印刷、修繕、医薬材料
役務費	438,428	383,000	医療事故賠償保険、電話料、洗濯代
委託料	8,512,241	8,511,000	医療事務委託料、連絡調整委託料等
使用料及び賃借料	2,019,230	1,946,000	タクシー使用料、医事会計システム借上料
備品購入費	1,000,576	410,000	機械器具購入費(HEPAフィルター付き空 気清浄機 28年度)
合 計	70,288,830	70,101,000	

3. 診療日誌から

内科

平成29年1月2日(月) M.S 約30名の患者さん。インフルエンザ、感染性胃腸炎、 蕁麻疹、帯状疱疹、感冒

平成29年1月7日(土) Y.S 12名デシタ。インフルエンザばっかし。(かと言って 不満はありません)

平成29年1月8日(日) Y.A 14名。おやすみなさい。

平成29年2月6日(月) H.K 来院時、凍り付く様な部屋の寒さだった。もう少し、暖かく。イソフルエンザ患者などには、かなり厳しいものがある。

平成29年2月18日(月) K.N WiFiがあるといいのに---! (便利です) ※設備上の問題で、インターネットもWiFiも使用できません。申し訳ありません… (保健所企画総務課より)

平成29年3月20日(月) Y.K 5人でした。持ってきた雑誌すべて読んでしまった。ゴルゴ13があってよかった。

平成29年3月23日(木) Y.Y 去年の12月23日の夜間急患診療所当番が最後 と思っていましたのが勘違いで、本日の出番 が本当の最後になります。昭和54年からなの で、37~38年の間、夜間急患診療所でお世話 になった計算となります。どうもお世話にな りました。 3月11日(土)は仕事をぶん投げ て津波被害の慰問として、山田町船越浦の浜 仮設を訪れました。97才のNさん、集会所の8 24人の犠牲者のため、同じ数のエドヒガンを 植え続けていたFさんの三人に会うことが出 来ました。宮古市田老では亡くなった知人の 墓参りを常運寺でお花・線香をあげて拝みま した。コンクリートで海の見えない小本海岸 を後に台風10号で壊滅的被害を受けた岩泉に 向かいました。ボロボロになった道の駅岩泉 では小さな仮設販売所に寄りお花・福田パン・ 盛岡長沢屋の黄精飴を差し入れて岩泉カリン トウを買い求めました。

三田貝分校は吹雪、早坂では一面の銀世界、 前が見えない猛吹雪で岩洞湖、外山までは真 冬なのでした。

大船渡では梅・桜が開き始めたようですが盛 岡はまだ春には早いようです。それでも私は 蕗のとうをとって蕗ミソ(盛岡ではバッケミ ソ)を楽しみました。4月に入ればカンゾウ をつんで酢味噌あえとなるでしょう。そして 苦土石灰を散布して2週間後には堆肥撒き、 耕運畝作りをして5月連休の野菜(男爵)の 植付にそなえます。

※7時から8時までは立続けにインフルエンザ(A)を含めて6人。そして全部で8人の患者さんでした!! それではサヨウナラ…。

平成29年3月24日(金) T.O

先日、市長さんにホテルニューカリーナに呼ばれ、75歳になってもまだ夜間診療所へ出務してくれてありがとうと云われご馳走にな

りました。皆さん辞めちゃってるんですね。 先輩のS先生がまだやっているのに辞める訳 にはいかないと思い出動しているだけだった んですが、ま、体はまだ動きますのでこの1 年位は頑張りたいと思っています。本日は高 熱の高校生:インフルエンザではない。アサリのお 汁を飲んだところ、4~5時間してから吐気 と腹痛があったとのことです。

平成29年6月2日(金) T.S

本日の患者無し、長いこと出務しているが初めてではないか。

将棋界が今、騒然としている。中学3年生の 藤井聡太四段が話題の主で、何しろプロ四段 になってから公式戦で負けなしの19連勝をし ている。難関の奨励会三段リーグを一年で通 過してプロとなり、本日が20戦目となる。現 在PM10:30位だが、テレビでは結果がまだ出 ていない。何でも千日手になって差し直し局 を闘っているらしい。まだ年度初めだから、 各棋戦の予選の最中だが、竜王戦の予選を勝 ち抜き、本戦トーナメントに入ったことも驚 異的なこと。今年の終わり頃には、蜂の巣を つついたような騒ぎになっていることだろう。 子ども達への影響も大きく、各地の将棋道場 関連も盛況を呈していると聞く。藤井四段の 素質は将棋界では既に知られているようで、 その理由として「詰将棋大会」全国レベルに 二年連続優勝している実績がある。この大会 にはプロの九段クラスも参加している公式大 会で、いずれにしてもこれからが楽しみであ る。

平成29年 6 月17日(土) K.I

昨日に引き続き、本日もインフルエンザ (B) 感染あり。医療機関(耳鼻科)受診と保育園のどちらかが怪しそうですが…保育園でのインフルエンザの報告は無いそうです。(全8名)

平成29年7月15日(土) K.O

6 名でした。バラエティーに富んでいました。 (感染性胃腸炎、接触性皮膚炎、腺蓉性扁桃炎、 急性咽頭炎、適応障害、熱中症)

平成29年7月24日(月) M.I 本日患者さん0でした!!

平成29年8月1日(火) K.K.

今日よりさんさ踊りが始まります。恐らく、明日より梅雨明となります。短い夏を楽しみましょう。しかし、地球温暖化の影響で東北の梅雨明けが遅れたり、ゲリラ豪雨が多発している事が心配です。

平成29年8月13日(日) M.I

1. 28才 M:急性咽頭炎(39.5℃の発熱)、
 2. 34才M:急性咽頭炎(38.3℃)、3. 39才 F:急性化腺性咽頭炎(39.4℃)。3の女性は 授乳中で投薬について薬剤師さんからアドバイスをいただきました。有難うございました。

平成29年8月21日(月) T.S

昨日8月20日(日)、今回の甲子園でベスト8まで勝ち進んで来た「盛大附」が敗れてしまったが、その健闘を称えたい。今回は東北勢が頑張ってくれたので、お盆のテレビも面白かったし、応援のしがいもあったと思う。しかし、盛大附の選手達の出身地を見てみると県内の中学出身者は少ないので如何に全国区の高校であるかがわかる。その意味では残念なところではあるが、例えばプロ野球などでは地域の球団だからその地区の選手が多いということは全くないので、そういうことに目を向けるのは間違いなのかもしれないし、東北勢悲願の優勝ということもあまり考えない方がいいか?

平成29年9月8日(金) O.S 0名。

平成29年9月14日(木) K.K.

平成29年9月10日(日) T.K 38才♂ 下痢・脱水、腎移植後のため医大泌 尿器科にTEL診察依頼した。本日1名でした。

八幡宮の祭りのため、市内はあちこちで渋滞している。抜け道を見つけて行ってみると通行止めとかで通勤時間はいつもの倍。それにしても最近の山車、ナンとゴムタイヤが付いていて軋み音はスピーカーで流している気味悪さ、子ども達も無表情で機械的にタイコを叩いている…。年々つまらなく感じるのはこ

ちらが年をとったためばかりで無いような… 夏以降、私としては初めてのインフルエンザ。今年 もついに来たか。紫波のあたりで流行してい るらしい。

平成29年11月22日(水) T.O

肺炎の高校生、明日、新体操の試合があるとのこと。ここで出場してはいけないと云うと彼の人生が変わる様な気がするし、出ても良いと云ってしまえば又悪化したりすると大変なことになるので、一応、明日の状態で監督や両親の意見や当日の会場保健室の医師に相談しろと云って逃げた。明日勝てば全国大会に行けるというS高校のキャプテンだった。

帯状疱疹の高校生は明日、駅伝がありM高校の第一走なのだそうだ。前胸部から脇、背にかけ真赤になっていて、腕を振ると脇の患部に腕が触れすごく痛むと云う。やはりこれも出るなとか、出ろとか云えなかった。今回は困った患者が来てしまった。やはり二人には出るなと云った方が良かったか?

平成29年12月31日(日) K.I

発熱11名(インフルA:3名/B:2名)、胃腸炎:

小児科

平成29年1月1日(日) Y.M 急患27名

明けましておめでとうございます。 今年もよろしくお願い致します。 県外の小児科医会報、机の引き出しの中に入 れておきます。どうぞお読み下さい。

平成29年1月2日(月) Y.U 皆様、今年もよろしくお願い致します。 二日は初仕事の吉日とされているそうです。 今年はいい事がいっぱいあるといいですね。 16名(インフルエンザは2名 嘔吐、下痢 が多い印象でした)

平成29年1月5日 (木) M.S 5名でいずれも軽症、Fluを疑わせる児はいま せんでした。

インフルエンザも冬休みに入り、一段落。 3 学期がはじまればまた流行するのでしょう。 学校閉鎖は有効な予防策なのですね。

平成29年2月2日(木) M.S 12名。いずれも軽症

エコー コンベックス 5 hzのプローベ付、 助かります。

胃腸炎が多い中、腸重積症うたがいの児にエコーができました。結果否定されました。 ロタのワクチンが有効で、点滴を必要とする 児が少なく助かります。

平成29年2月8日(水) T.T 1人腸 降雪の予報あり。立秋とはなったがまだ春は ました。 遠い。

週末の安倍・トランプ会談は注目

小児科 9 名 内科10名 本日はインフルエンザA 4名 最後に腸重積の疑いの 2 才児受診。中央病院I dr.に紹介。多謝!!

平成29年2月13日(月) K.O 急患6名 fluA 2名/5名 先日、夜間診療所から腸重積疑いの紹介を1 人診させていただきました。 腸重積で同日、整復できました。T先生ありが とうございました。

平成29年3月13日(月) J.M 本日、初勤務となります。 M小児科副院長のJ.Mと申します。今後ともよ ろしくお願いします。 患者さんは8名、インフルエンザAが1名で した。

平成29年3月19日(日) W.Y 春のお彼岸の連休なので予想通り混みました。 23名

10:00頃 1歳4か月の女児 血便 持って来た赤い便がおむつ一杯に広がっている。来る前腹痛を訴えていた。腸重積の疑いにて県中に送りました。

→結果は何でも無かった由 後日報告あり

平成29年3月28日(火) S.K 小児科7名

1人腸重積疑いで中央Hp N先生へお願いしました。

平成29年4月7日(金) M.K 委嘱状交付について。

以前にもあったが、机の上にポンと置いておくとは無礼千万!!

ひとりの医師を1年間、委嘱するということ が、いかに重大なことかと認識すべきだ。

責任ある立場の者が、ひとりひとりに「一年間よろしくお願い致します」と手渡すべきです。

平成29年4月14日(金) T.Y 10名の来院でした。

永井方面の学校でインフルエンザ B 流行あり。 学級閉鎖になったとのこと。今夜 1 年生 1 名 来院しました。

もちろんインフルエンザBでした。

もう一人、お母さんがインフルエンザBで療養中という家族。お父さんと2人の子供来院。お兄ちゃんB、妹は(-)、お父さんは明日近医へと話しましたが、ちょっと具合わるそう…。私のテリトリーでは最近インフルエンザとはお会いしません。とくにB型にはお目にかかりません。

可能な限り、出動なさった先生方の所でのいるんな情報かいていただくといいのかな~。 ちなみに滝沢方面はヒトメタニューモウィルス感染かなと思われる症状の児、散見します。

平成29年4月21日(金) M.K 人数は少ないですが、様々な症状の子供がき ました

インフルエンザA 9才女子 インフルエンザB 14才男子

熱性痙攣 1才女子

水痘 3 才男

アナフィラキシー 4 才男 初めてのパルミコートの吸入中に(発熱 発疹 咳) 中央病院へ

嘔吐 高熱+熱性痙攣

平成29年5月7日(日) T.Y

患者さん13名 発熱・下痢・嘔吐・咳などで した。

ちょっと気になること どなたかお教え下さい。

①4月18日のデカドロンの吸入 注射薬の吸入でしょうがどうなのでしょうか? 保険請求も…

②4月21日のパルミコート吸入

これはこの診療所で単回吸入でアナフィラ キシー様症状とのことですが、パルミコート の発作時吸入はありですか?

(パルミコートを自宅で吸入し、途中で発疹が出たので来所されました。パルミコートはこちらで処方したのではなく、開業医のDr.に初めて処方されたそうです。)

U先生 4日当番医117名 5日夜間診療所 6日は自院でのご診療でしたか?ごくろう様でした。今日はぐったりでしたかしら?ご無理なされません様に。つっぱしると…のんびり、ふりわけて…。

平成29年5月19日(金) Y.F

診療室の脇の給湯室では順番待ちの患者・家族がTVを見ています。「健康エンターテイメント番組」を大音量で見てます。その内容「心筋梗塞」「大動脈瘤」「モヤモヤ病」など…。ゲスト出演者は大声でわらい、ナレーターは深刻ぶって語りかけ…待合室のTVはやめる見識が必要です。(私の通院する眼科でもその立派な見識だったのですが、患者の声にまけてTVがかかっています!)家族・患者がリモコンをもって、他の番組、他のチャンネルとかえてみていました。 8名小児来院。

平成29年6月14日(水) T.T

3ヶ月振りの出務、インフルエンザBが未だ 出ています。先週、大慈寺小では学級閉鎖と なったようです。発熱の患児が多くみられ、 水痘が2名来院。 小児科14名、内科3名

平成29年7月2日(日) A.M 小児急患13名、特に気になる患児なし。 先月(6月下旬)より再びMRワクチンが手にはいらなくなりました。どうやら国立感染症研究所の指導で海外旅行の前に麻疹ワクチンを1度しか受けていない方は2回目を受けるようにアナウンスが行われているとの事。前回(昨年11月~3月)も同じ事が起こりました。定期接種を受けられない児がおります。優先されるべき児をさしおいて、大人の2回目接種はそれほど意味があるとは思えません。県庁の保健部(?)に連絡し対応をせまるしかありません。 \rightarrow 一応、説明はしましたが、皆さんも納入不良の場合は県庁(相談窓口?)に抗議をおすすめします。(ココの保健所へも

Telしましたが、何もする気はないようです…。

平成29年7月5日(水) T.K 梅雨で毎日鬱陶しい様相です。

期待はしてなかったデスけど)

九州は大雨の被害がTVで放映されています。 発熱の児がほとんどでした。何ウィルスが流 行っているのでしょうか?RS、ヒトメタニュー モウィルスの検査の制限をなくする様、学会 レベルで働きかけていただきたい!!宜しくお願 い致します。

平成29年7月13日(木) T.T

猛暑の毎日、疲れます。高校野球の予選の最中、熱中症などにならなければよいが、季節に関係なくRSVが流行している。

小児科9名 1名輸液実施 内科2名

平成29年8月2日(水) H.M 9名来院。 病院はRSVの流行でベッドコン トロールが大変です。

平成29年8月11日(金) T.Y 山の日だから私でしょうか?

今日は、じんましん、食物アナフィラキシー様の患者さん(電話もあり)とRSウィルス感染症の細気管支炎、ヘルパンギーナのこの3つでした。

HFMDの姉(全身の発疹・発熱)

その姉からうつったのでHFMDではないですか?という患者さん。 発疹は何もない…。 今シーズンのHFMDといわれている発疹 要するに躯幹に発疹なく、腕とか足全体に発疹がでているという症状ですよね。そして高熱があるという人もあり、私はウィルス性発疹症といっているのですがHFMDという病名でいいのでしょうか?

平成29年8月14日(月) Y.G 15名→20名 手足口病の患者が多い、10人以上 RSVもまだいそう 即時型の食物アレルギー 1人

平成29年8月22日(火) Y.M 小児救急電話相談の事例検討会に夜間診の希望する看護師さんたちも研修できる機会を与えてもいいのではと思います。

平成29年9月20日(水) T.Y 三女の医大での同級生が、そのご主人(歯科医)と共に娘さんつれて来所なさいました。 手足口病なのですが、のどが赤くいたいそうでたべずに心配で受診したと。 たべなくてもそう簡単には栄養失調にならないけど水分はしっかりとお話ししたら安心しましたとお父さんがおっしゃり帰られました。

新米のお父さんお母さんがんばって~。

平成29年10月3日(火) T.T

低温になって来ました。インフルエンザも出 現して来ています。

小児科 9 名 1 名ソ径ヘルニア整復し小児外 科紹介

内科1名

平成29年10月23日(月) Y.K

小児科16名

発熱のための受診が多かった。本日の日中に クリニックを受診し、すでに薬は処方ずみだ が40℃台に熱があがったり、解熱剤を使って も下がらないことから不安になっての受診が 多々みられた。

全身状態は悪くなかったので、診察のみで処 方なしで帰宅とした。

家庭での看護力があれば、自宅で様子を見れるケースと考えられた。

平成29年11月21日(火) M.S

昨晩からの積雪をうけて、本格的に冬になったと小より思いはじめました。

本日はまさかの1名のみ。(昨日はURIで受診された子が、本日病院いけなかったと…。)

平成29年12月2日(十) T.Y

1人めの患者さん発熱でした。となりのクラスがインフルエンザで閉鎖。一緒に登校している児も今日fluで欠席…。インフルエンザBでした。お父さん そうですBが流行していますとのこと。M南小学校です。

しょっぱなのschokでした。

そのあと 2 人も高熱で。親御さんの希望も入れflu test。 2 人とも(-)でした。 1 人はA小、 1 人はT小でした。

そのあと、ぜんそく発作、感染性胃腸炎、溶 連菌感染症、食物アレルギー(発疹のみ)ム ンプス じんましん。

I中の女子生徒 インフルエンザA 4人位いる様。

次に溶連菌感染症児(この児は2日前に私み ていて発疹あったのに…)

今日は多彩です。

平成29年12月16日(土) T.K 24名

Flu流行の様でいまひとつ。流行らない方がよい。年末で民族の大移動で流行が加速する可能性あり。

過去にもRSV、ヒトメタウィルスなどが流行 していたハズ。先輩の先生はこれをどの様に 対応していたのであろう。先輩の先生は我々 よりも患者を診る力があったと考えたいです。

平成29年12月23日(土) Y.U

- ・流行性耳下腺炎がN小学校の1クラスで流行
- ・インフルエンザ検査 13名(A型1名、B型1名)

発熱からの期間が短いのに検査希望が多い。 明日の当番医が思いやれます…。

手足口病、溶連菌感染症 各1名いました。

4. 診療所の現状

①夜間急患診療所出動医名簿

平成29年1月1日~12月31日

Ш	洋	wasser?	向中野二丁目54-18	ゆい内科呼吸器科クリニック
倉	慎		茶畑一丁目8-2	あさくらクリニック
倉	賀	子	内丸19-1	岩手医大 小児科
部	弘	*******	菜園二丁目5-29	あべ菜園内科クリニック
部	隆	志	肴町6-6 熊長t゙ル1F	あべ神経内科クリニック
部	珠	美	内丸19-1	岩手医大 消化器肝臓内科
部	佳	子	北飯岡一丁目2番25号	ゆうあいの町クリニック
部	礼	司	長橋町17-45	あべ内科・消化器科クリニック
\boxplus	亘	政	上太田弘法清水10-3	池田内科
田	富	好	本町通三丁目19-32	真山池田医院
井	基	嗣	中ノ橋通一丁目4-20 水晶堂ビル4F	いしい内科・糖尿病クリニック
井	基	弘	東緑が丘23-26	石井内科消化器科医院
泽	IE.	明	中央通一丁目7-25 1F	ポランの内科クリニック
藤	步	惟	内丸19-1	岩手医大 小児科
藤	俊	******	津志田26-30-1	川久保病院 内科
藤	雅	天	津志田26-30-1	川久保病院 内科
東	宗	行	紫波郡矢巾町大字煙山24-1	みちのく療育園
井	Œ	勝	北飯岡3-20-3	もりおか往診ホームケアクリニック
井	由紅	子	松園二丁目2-10	臼井循環器呼吸器内科
塚		健	緑が丘四丁目1-7	えいづか内科胃腸科クリニック
村	洋	弘	城西町7-33	江村胃腸科内科医院
藤		樹	大通三丁目9-3	開運橋消化器内科クリニック
Ш	寬	太	上田一丁目18-38	おいかわ内科クリニック
Ш	慶		上田一丁目18-38	おいかわ内科クリニック
Ш	慶	介	内丸19-1	岩手医大 小児科
浦	雅	之	津志田西二丁目-13-3	大浦内科・歯科クリニック
庭	英	樹	盛岡駅前通13-8	盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック
平	篤	志	梨木町2-2	おおひら内科循環器科クリニック
屋	敬一	一郎	西青山一丁目16-43	大屋内科胃腸科クリニック
田田	真	玄	内丸19-1	岩手医大 循環器内科
田	健	男	清水町3-5	岡田消化器科内科医院
野	義	信	本宮一丁目6-12	荻野病院
	倉部部部部部田田井井澤藤藤藤東井井塚村藤川川川浦庭平屋田田	倉倉部部部部部田田井井澤藤藤藤東井井塚村藤川川川浦庭平屋田田慎賀弘隆珠佳礼亘富基基正歩俊雅宗正由 洋昌寬慶慶雅英篤敬真健	倉倉部部部部部田田井井澤藤藤藤東井井塚村藤川川川浦庭平屋田田慎賀弘隆珠佳礼亘富基基正歩俊雅宗正由 洋昌寬慶慶雅英篤敬真健一子一志美子司政好嗣弘明惟一天行勝子健弘樹太一介之樹志郎玄男	倉 慎 一 茶畑一丁目8-2

盛岡さくらクリニック

みたけ四丁目36番32号

小 田 淳 一

小	田	翔		八幡平市田頭22-79-1	八幡平市国民健康保険西根病院
桂		永	行	本宮字小板小瀬13-2	かつら内科クリニック
加	藤	隆	幸	天神町11-8	加賀野消化器内科・内科クリニック
金	澤		格	上堂一丁目18-24	かなざわ内科クリニック
金	Ш	広	海	浅岸一丁目12-22	かなやま内科医院
金	子	博	純	△部13-135-3	金子胃腸科内科
金	濱	誠	己	向中野三丁目10-6	杜のこどもクリニック
鎌	田	潤	也	大通二丁目7-23	おおどおり鎌田内科クリニック
鎌	田	広	基	本宮二丁目20-1	鎌田内科クリニック
上	原	充	郎	岩手郡雫石町八卦1-16	上原小児科医院
]1]	村	光	郎	志家町4-4	川村内科医院
Ш	村	みゃ	产子	紫波郡矢巾町大字煙山24-1	みちのく療育園
菅	野	啓	*******	山岸二丁目11-36	菅野小児科医院
菅	野	恒	治	山岸二丁目11-36	菅野小児科医院
菊	池		均	材木町2-26-3F	旭橋クリニック菊池循環器内科
木	村	幸	博	北飯岡3-20-3	もりおか往診ホームケアクリニック
草	野	修	司	内丸19-1	岩手医大 小児科
工	藤	卓	次	前九年三丁目16-15	くどう医院
I.	藤	宏	紀	上田一丁目4-1	県立中央病院 小児科
工	藤	真	大	中/橋通一丁目7-13	工藤内科ハートクリニック
久	果田	公	宜	大館町26-3	久保田医院
黒	澤	照	男	北飯岡四丁目8-50	岩手県予防医学協会
郷	内	賞	弘	内丸19-1	岩手医大 消化器肝臟内科
肥	田	龍	彦	菜園一丁目4-7	菜園循環器内科医院
小	坂		崇	永井19-258-1	小坂内科消化器科クリニック
児	島	陽	-	みたけ三丁目11-36	児島内科小児科医院
後	藤	悠	輔	上田一丁目4-1	県立中央病院 小児科
√/\	林		<u></u>	盛岡駅西通二丁目9-1	マリオス小林内科クリニック
小	林	有		三本柳 11-12-4	小林小児科クリニック
漈	藤	明	宏	月が丘二丁目2-60	さいとう小児科クリニック
酒	井	秀	行	上田一丁目4-1	県立中央病院 小児科
佐	々木		透	高松二丁目27-27	おはようクリニック
佐	々木	E	孝	中野一丁目27-10	ささき医院
佐	々木	美	香	上田字松屋敷11-14	もりおかこども病院
佐	藤		治	向中野一丁目11-25	さとう胃腸科内科
佐	藤	公	也	大通三丁目1-24	佐藤内科クリニック
佐	藤	ま	りの	内丸19-1	岩手医大 糖尿病•代謝内科
佐	藤	由有	香子	下/橋町4-15	船山内科クリニック
佐	藤	芳	行	本町通一丁目12-7	内丸病院 内科
				- 22 -	

沢		勢 .	良	内丸19-1	岩手医大 消化器肝臓内科
澤	田	哲	伸	上田1-6-11	澤田内科医院
塩	畑	,	健	内丸19-1	岩手医大 小児科
小豆	豆嶋	立	頼	永井12-10	盛岡友愛病院
白	倉	Œ.	博	内丸19-1	岩手医大 小児科
鈴	木	 j	彦	滝沢市鵜飼字御庭田 65-2	鈴木小児科
鈴	木	恒:	男	大通一丁目3-4	大通胃腸科内科
鈴	木	知	己	八幡町2-17	鈴木内科医院
鈴	木	<u>.</u>	昇	緑が丘三丁目2-34	緑ヶ丘消化器内科医院
鈴	木	康	之	北松園二丁目15-4	内科クリニックすずき
外	舘	玄一	朗	内丸19-1	岩手医大 小児科
高流	青水	奈	央	内丸19-1	岩手医大 小児科
髙	野	長	邦	三本柳6-1-1	盛岡赤十字病院 小児科
高	橋	j	進	下米内二丁目4-12	中津川病院
高	橋	1	保	北飯岡3-20-3	もりおか往診ホームケアクリニック
滝	Щ	佐波	子	西松園三丁目22-1	西松園内科医院
武	H	3	黨	花卷市東宮野目第13地割112	介護老人保健施設サンホーム
田	中	į	洋	永井22-29-6	田中循環器内科クリニック
Ξ	村	悦 -	子	下/橋町6-14	遠山病院 内科
王	村	j	茂	津志田26-30-1	川久保病院 内科
干	\blacksquare	明	紀	東安庭1-23-60	ちだ内科・外科クリニック
千	葉	!	知	下/橋町6-14	遠山病院 内科
Ŧ	葉	太」	郎	永井12-10	盛岡友愛病院
干	葉	直	樹	中央通三丁目1-10	ちばクリニック
千	葉	芳 :	久	向中野三丁目10-3	本宮Cクリニック
辻		佳 :	子	内丸19-1	岩手医大 循環器内科
寺	井	健		紫波郡矢巾町南矢幅7-451	寺井こどもクリニック
寺	井	泰	彦	山王町1-9	寺井小児科医院
外	舘	祐 :	介	内丸19-1	岩手医大 糖尿病・代謝内科
栃	内	秀	貴	神明町10-35	栃内内科医院
豊	島	浩	志	内丸19-1	岩手医大 小児科
中	島	i	淳	月が丘二丁目8-30	中島内科クリニック
中	村	富力	雄	上厨川字杉原50番地47	中村こどもクリニック
中	村	義	玥	若園町2-5	中村内科医院
西	島	浅	香	上田一丁目19-5	西島こどもクリニック
西	見	早映	子	内丸19-1	岩手医大 小児科
	宮		見	愛宕町2-47	二宮内科クリニック
原	田	達!	男	山岸3-2-1 山岸中央ビル1階	原田内科脳神経機能クリニック
藤	井	i	裕	八幡平市柏台2-8-2	東八幡平病院

藤	島	敏	智	愛宕町4-18	藤島内科医院
細	Ш	俊	-	本町通一丁目12-7	内丸病院
本	誾		博	上田二丁目20-13	本間内科医院
本	間	博	之	内丸19-1	岩手医大 糖代謝内科
前][滋	新田町9-11	前川内科クリニック
前	多	治	雄	盛岡駅前通9-10 丸善ビル 5 階	前多小児科クリニック
蒔	苗		剛	津志田26-30-1	川久保病院 小児科
松	嶋		大	仙北二丁目1-20	なないろのとびら診療所
松	本	裕	樹	内丸19-1	岩手医大 循環器内科
=	浦	義	孝	中野一丁目16-10	みうら小児科
	上		仁	上田一丁目4-1	県立中央病院 小児科
水	沼	吉	美	中央通二丁目11-12 明治生命館 1F	水沼内科循環器クリニック
武	者	毅	彦	北飯岡一丁目2-70	たけ循環器内科クリニック
村	井	智	美	内丸19-1	岩手医大 糖尿病 • 代謝内科
村	田		淳	紺屋町3-4	村田小児科医院
村	\mathbb{H}		望	北飯岡3-20-3	もりおか往診ホームケアクリニック
村	松		親	東仙北一丁目3-7	むらまつクリニック
森	田		順	緑が丘四丁目1-50 アスティ緑が丘1階	森田小児科医院
森	田	友	明	緑が丘四丁目1-50 アスティ緑が丘1階	森田小児科医院
森	谷	耕力	大郎	高松三丁目11-29	森谷医院
丌		淑	子	淹沢市穴口377-1	山口クリニック
山	田	宏	之	津志田中央2-18-31	やまだ胃腸内科クリニック
山	田	行	夫	中央通一丁目13-8	山田クリニック
Ш	田	わた	"子	淹沢市狼久保688	山田小児科内科医院
吉	田	絵	担子	内丸19-1	岩手医大 糖尿病・代謝内科
吉	田	研		梨木町2-13	吉田小児科
吉	H	信		西仙北一丁目30-50	よしだクリニック
吉	田	俊	巳	東見前8-20-16	吉田消化器科内科
和	田	利	彦	菜園一丁目3-6 農林会館3F	和田内科医院
渡	邊	活	見	高松三丁目9-8	わたなべ内科・神経内科クリニック

② 役 職 員 名 簿

(平成29年 12月31日現在)

			 	•		
開設者	盛岡市長		谷	藤	裕	明
管理者	盛岡市医師会	会長	和	田	利	彦
運営協議会						
	会長	盛岡市保健所長	高	橋	清	実
	副会長	盛岡市医師会副会長	金	子	博	純
	委員	盛岡市医師会理事	本	間		博
	"	"	金	濱	誠	2
	<i>"</i>	"	久伊	田	公	宜
	"	"	小	林	有	
	<i>"</i>	盛岡市医師会小児科医会会長	曰	井	由新	子
	"	盛岡市医師会小児科医会幹事	吉	田	研	
	"	盛岡薬剤師会副会長	畑	澤	Ħ	美
	"	盛岡薬剤師会副会長	佐々	水	Ē	好
	"	岩手県看護協会会長	及	Ш	吏智	子
	"	盛岡市保健福祉部長	村	Ŀ	秀	樹
	事務局	盛岡市医師会事務局長	及	Щ	敬一	-郎
		盛岡市医師会事務局次長	水	本	達	彦
		盛岡市医師会事務局係長	佐	藤	泰	之
		盛岡市保健所次長兼企画総務課長	藤	井	優	子
		盛岡市保健所企画総務課長補佐	佐々	木	_	藗
		盛岡市保健所企画総務課企画総務係長	清	見	則	行
		盛岡市保健所企画総務課企画総務係主査	鈴	木	佳	子
		盛岡市保健所企画総務課企画総務係主任	向	田	瑠	夏

5. 運営協議会·薬品選定会議 平成28年度第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時: 平成29年2月11日(土) 午後3時30分場 所: ホテルニューカリーナ2階クローバー



冒頭、同運営協議会会長の高橋清美盛岡市保健所長より「このたび夜間急患診療所が無事40周年を迎えることができたこと、多くの関係者の方々に感謝申し上げたい。報道等でご存じの通り、インフルエンザが猛威を振るっている。定点による調査でも警報値を超えている模様である。幸い夜間診療所は例年通りに推移しているが、今後も引き続き、ご支援ご協力をお願いしたい」との挨拶があった。

管理者の和田利彦盛岡市医師会会長は「本診療所の運営に当たっては、薬剤師会はじめ、関係団体の皆様のご支援に感謝申し上げたい。昨年11月末からインフルエンザが流行ったが、冬休みが間に入ったことで、15歳以下の発症は抑えられているようだ。お陰様で順調に運営されているかと思うが、ご審議をよるしくお願いしたい」と述べた。

【報告】

1. 平成28年度夜間急患診療所利用状況及 び収入状況 (1月までの集計)について 事務局から報告があった。平成28年度の 患者数は、各月において前年を上回って おり、総患者数は前年度を上回る見込み で、収支についても今年度の総収入は前 年度を上回る見込みである。

2. 薬品等の導入について協議した。新規に要望のあった、温湿布、散剤の抗アレルギー剤、消化性潰瘍治療薬(配合剤)について協議した。温湿布と消化性潰瘍治療薬(配合剤)については不採用となり、今年度廃止薬のペリアクチン散の代替として、ジルテックDSが採用となった。

【協議】

インフルエンザ拡大体制の一部変更について協議した。1階プレイルームが閉鎖され、レベル4の際の診療ブースとして使えなくなったため、7階第3会議室に診療ブース2箇所を設け、大会議室を待合室として使用することとなった。

運営協議会後に、場所を移動して「盛岡

市夜間急患診療所開設40周年祝賀会」が開催された。40周年を記念して、「開設40周年記念誌」が発行された。詳細は盛岡市医師会報3月号をご覧ください。

(小林有一)

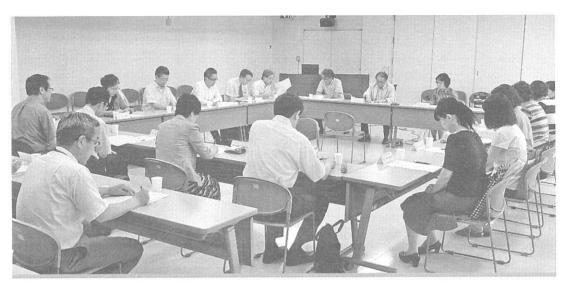
席者 管 理 者 吉 田 研 一 小児科医会 副会長 和 田 利 彦 盛岡市医師会 会長 畑 澤 昌 美 盛岡薬剤師会 副会長 佐々木 宣 好 盛岡薬剤師会 理事 運営協議会 会長 及 川 吏智子 岩手県看護協会 会長 高 橋 清 実 盛岡市保健所 保健所長 村 上 秀 樹 盛岡市保健福祉部長 運営協議会 副会長 事務局 金 子 博 純 盛岡市医師会 副会長 永 井 亮 盛岡市医師会事務局 事務局長 水 本 達 彦 盛岡市医師会事務局 次長 委 員 佐 藤 泰 之 盛岡市医師会事務局 係長 藤 井 優 子 盛岡市保健所 次長兼企画総務課長 本 間 博 盛岡市医師会 理事 金 濱 誠 己 盛岡市医師会 理事 梅原 格 盛岡市保健所 企画総務課長補佐 久保田 公 宜 盛岡市医師会 理事 清 見 則 行 盛岡市保健所 企画総務係長 小 林 有 一 盛岡市医師会 理事 鈴 木 佳 子 盛岡市保健所 主査 臼 井 由紀子 小児科医会 会長 岩瀬張 友 花 盛岡市保健所 主事補

6. 従事者打合せ会

平成29年度盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会

日 時:平成29年7月8日(土) 午後4時10分

場 所:盛岡市保健所7階大ホール



1) 平成29年度夜間急患診療所災害発生時 緊急連絡体制について、事務局から報告が あった。平成29年度の新しい連絡網を確認し た。次に、2) 平成28年度夜間急患診療所利 用状況について報告。平成28年度の総受診者 数は6.434名で、前年度の6.248名を上回った。 曜日別では週末の土日で約4割を占め、時間 帯別では7-9時で7割を占めた。小児科の 「救急度あり」は全体の7.4%で、ここ数年減 少傾向である。内科の「救急度あり」は全体 の7.4%で、ここ数年横ばいである。地域別 では盛岡が7割を占めているが、矢巾、紫波 は増加傾向にある。各種検査、処置の状況は、 昨年度に比べ吸入が減り、インフルエンザ検 査が増えていた。紹介状は40件で、昨年度よ り減少した。年間最多患者数は49人で昨年度 より少なく、ピークらしいピークも無かった ため薬剤師を増員するケースはなかった。救 急患者の転送人数は年々減少しており、平成 28年度は98人だった。消化器疾患が半数近く を占めた。今年度の総収入は前年度を上回っ た。

薬品等の導入について、新規に要望のあったカロナール錠(500mg)、シムビコート(30吸入分)について協議した。カロナール錠(500mg)については、カロナール錠(200mg)で調剤上対応可能なため不採用となった。シムビコート(30吸入分)については、喘息の長期管理薬であり、夜間救急では不要ということで不採用となった。また、トイレのエアータオルのペーパータオル化について検討。感染予防の立場からペーパータオルに変更することとなった。

(小林有一)

平成28年度夜間急患診療所利用状況

診療科別・年齢別の状況

左 / 日		28年度			参考:27年度					
年/月	合 計	小児科	内科	合 計	小児科	内科				
28年 4 月	641	365	276	481	295	186				
5月	609	383	226	610	387	223				
6月	437	306	131	410	270	140				
7月	472	336	136	459	316	143				
8月	469	328	141	461	318	143				
9月	468	323	145	453	294	159				
10月	442	314	128	352	225	127				
11月	477	322	155	421	288	133				
12月	771	442	329	479	299	180				
29年1月	635	284	351	563	310	253				
2月	495	284	211	823	450	373				
3月	518	325	193	736	418	318				
合 計	6,434	4,012	2,422	6,248	3,870	2,378				
毒成比(%)	100.0	62.4	37.6	100.0	61.9	38.1				

会議資料より抜粋

出 度 者

和 田 利 彦 夜間急患診療所管理者

運営協議会 会長

高 橋 清 実 盛岡市保健所長

運営協議会 副会長

金 子 博 純 盛岡市医師会 副会長

委 員

本間 博 盛岡市医師会理事 久保田 公 宜 盛岡市医師会理事 小 林 有 一 盛岡市医師会理事 臼 井 由紀子 盛岡市医師会小児科医会会長 吉田 研 — 盛岡市医師会小児科医会幹事 畑澤昌美 盛岡薬剤師会副会長 佐々木 宣 好 盛岡薬剤師会副会長 及 川 吏智子 岩手県看護協会会長 村上秀樹 盛岡市保健福祉部長

オブザーバー

吉 田 耕太郎 盛岡市医師会副会長

従事者

千 葉 真喜子 夜間急患診療所主任看護師 長 山 秋 子 夜間急患診療所主任看護師 佐 藤 由美子 夜間急患診療所看護師 中鉢良子 夜間急患診療所看護師 藤澤孝子 株式会社メディカルサポート事務員 松美衣 株式会社メディカルサポート事務員 植 橋 恵美子 株式会社メディカルサポート事務員 高

事務局

及川敬一郎 盛岡市医師会事務局事務局長 水本達彦 盛岡市医師会事務局次長 盛岡市医師会事務局係長 佐藤泰之 藤井優子 盛岡市保健所次長兼企画総務課長 佐々木 一 感岡市保健所企画総務課企画総務課長補佐 憲 清 見 則 行 盛岡市保健所企画総務課企画総務係長 鈴木佳子 盛岡市保健所企画総務課主査 向 田 瑠 夏 盛岡市保健所企画総務課主任

Ⅱ 岩手県高度救命救急センター報告

(平成29年1月~12月)

診療状況

- 1. 疾病別患者数
- 2. 来院時間帯別入院患者数
- 3. 地域別入院患者数
- 4. 搬入先 · 搬入方法別入院患者数
- 5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

診療状況

1. 疾病別患者数

1) 平成29年1月~12月

全身疾患	患者数	患者数
感染症 寄生虫病 新生物	33 (15) 栄養疾患 0 (0) 代謝疾患 89 (3) 免疫異常	1 (0) 84 (22) 13 (13)
内分泌疾患 小 計	0 (0)	220 (53)

系統疾患	患者数		患者数
血液·造血器疾患	8 (2)	泌尿器生殖器疾患	92 (18)
精神障害	195 (8)		0 (0)
神経・感覚器疾患(てんかんを含む)	410 (86)	皮膚皮下組織	27 (4)
心不全・不整脈など	278 (115)	筋骨格•結合組織	65 (22)
虚血性心疾患など	136 (17)	先天異常	0 (0)
(心筋梗塞・狭心症・動脈瘤)		妊娠	2 (1)
脳血管障害	288 (144)	症状・徴候	43 (13)
呼吸器疾患	161 (77)	診断不明確	0 (0)
消化器疾患	466 (200)	その他	18 (2)
小 計			2,189 (709)

損傷・中毒 患者数

	交通	事故	その他	その他の事故		事故の後遺症		故意的加害		計
骨折	82	(71)	239	(164)	0	(0)	12	(10)	333	(245)
関節脱臼	0	(0)	5	(0)	0	(0)	0	(0)	5	(0)
捻挫	10	(3)	5	(1)	0	(0)	0	(0)	15	(4)
頭蓋内損傷	31	(28)	146	(100)	0	(0)	2	(0)	179	(128)
内臟損傷	32	(25)	27	(19)	0	(0)	3	(2)	62	(46)
開放創	9	(3)	96	(9)	0	(0)	14	(7)	119	(19)
血管損傷	1	(0)	2	(1)	0	(0)	1	(1)	4	(2)
表在損傷	1	(0)	11	(0)	0	(0)	0	(0)	12	(0)
挫創	9	(4)	8	(2)	0	(0)	0	(0)	17	(6)
圧挫損傷	44	(13)	120	(16)	0	(0)	8	(2)	172	(31)
異物	0	(0)	14	(7)	0	(0)	0	(0)	14	(7)
熱傷	0	(0)	28	(15)	0	(0)	2	(2)	30	(17)
神経損傷	8	(7)	24	(21)	0	(0)	0	(0)	32	(28)
中毒•薬物中毒	0	(0)	22	(9)	0	(0)	90	(26)	112	(35)
毒作用	0	(0)	17	(5)	0	(0)	0	(0)	17	(5)
後遺症	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)
その他・外因作用	0	(0)	24	(7)	0	(0)	11	(2)	35	(9)
外科•内科合併症	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
小 計	227	(154)	789	(376)	0	(0)	143	(52)	1,159	(582)
合 計									3,568	(1,344)

総患者数 3,568人 () はセンター入院患者数 1,344人 СРА (来院時心肺停止状態) 79人

2. 来院時間帯別入院患者数

1) 平成29年1月~12月

時間・ 性別	AM 0 時	~ AM 6 時	AM 6 時	~ AM 9 時	AM 9 時~ PM 5 時				PM 8 時~ PM12時		小	計	∧ =	L
月	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合 計	Г
1月	3	8	3	3	29	23	4	15	7	2	46	51	(97
2月	4	4	2	5	40	16	12	7	6	12	64	44	10	08
3 月	8	4	4	1	34	36	9	5	7	6	62	52	13	14
4月	9	3	5	5	40	17	5	12	4	6	63	43	10	06
5月	7	5	4	3	43	27	14	7	4	4	72	46	1.	18
6月	6	3	5	1	33	22	16	8	5	8	65	42	10	07
7月	10	3	5	2	33	26	10	6	4	5	62	42	10	04
8月	9	8	4	2	37	25	13	7	9	9	72	51	13	23
9月	1	2	2	5	41	16	10	4	6	9	60	36	Ç	96
10月	9	2	5	5	45	32	15	7	6	6	80	52	1:	32
11月	2	1	3	5	47	25	12	11	7	2	71	44	1	15
12月	7	6	7	4	39	32	9	7	7	6	69	55	1	24
【合計】	75	49	49	41	461	297	129	96	72	75	786	558	1,.3	44

3. 地域別入院患者数

1) 平成29年1月~12月

_																	
地域別	_	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均	比率
盛	岡	市	54	56	72	61	49	50	61	63	41	64	71	74	716	59.7	53.3
滝	沢	市	5	5	7	11	12	11	8	8	6	15	5	8	101	8.4	7.5
八幡平	市•	岩手郡	13	15	13	10	21	14	18	21	15	25	15	22	202	16.8	15.0
紫	波	郡	11	6	7	7	8	7	2	7	9	5	9	6	84	7.0	6.3
花	巻	市	4	5	1	6	9	5	2	1		3	4	2	42	3.5	3.1
北上市	• 西	和賀町	1	2	1	3	2		2	3	2	2	1		19	1.6	1.4
奥州市	j •)	担沢郡		4	1		3	2		1	2	4	1		18	1.5	1.3
一関市	• 西	磐井郡		1			1	4		2	2	1	3	3	17	1.4	1.3
大船渡市・陸	陸前高田	田市・気仙郡	1			2			1		3	1	2	1	11	0.9	0.8
釜石市・	遠野市	j·大槌町		3		1	2	3	3	4		3			19	1.6	1.4
宮古市	• 下	閉伊郡	4	3	3		2	5	3	6	4	4	1	2	37	3.1	2.8
久慈市	j • j	九戸郡			1					1	2				4	0.3	0.3
二戸市	j • :	二戸郡		2	2	3	1			1	4	1		1	15	1.3	1.1
青	森	県					1				1				2	0.2	0.2
秋	田	県	2	2	1	1	5	1	1		2		2	1	18	1.5	1.3
宮	城	県		2	2	1		1	2	1		1			10	0.8	0.7
そ	0	他	2	2	3		2	4	1	4	3	3	1	4	29	2.4	2.2
【 台	1 1	十】	97	108	114	106	118	107	104	123	96	132	115	124	1,344	112.0	100.0

4. 搬入先。搬入方法別入院患者数

1) 平成29年1月~12月

搬入先区 分	初期救急医療施設			2 次求	2 次救急医療施設		3 次救急医療施設		その他			小	計	≣. I.	
搬入方 法区分	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	- = -
1月	15	1	16	8	10	18	1	0	1	55	7	62	79	18	97
2月	11	11	22	9	11	20	1	0	1	54	11	65	75	33	108
3月	19	5	24	8	18	26	0	0	0	50	14	64	77	37	114
4月	12	3	15	7	9	16	1	0	1	62	12	74	82	24	106
5月	22	4	26	6	12	18	0	0	0	60	14	74	88	30	118
6月	17	4	21	11	9	20	0	0	0	54	12	66	82	25	107
7月	14	1	15	10	11	21	1	0	1	53	14	67	78	26	104
8月	17	6	23	13	12	25	0	0	0	64	11	75	94	29	123
9月	14	4	18	10	11	21	2	0	2	47	8	55	73	23	96
10月	20	7	27	9	13	22	0	0	0	75	8	83	104	28	132
11月	15	9	24	10	10	20	2	0	2	55	14	69	82	33	115
12月	18	3	21	9	11	20	0	0	0	72	11	83	99	25	124
【合計】	194	58	252	110	137	247	8	0	8	701	136	837	1,013	331	1,344

5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

1) 平成29年1月~12月

月	頭部疾患	胸部疾患	腹部疾患	四肢・骨盤疾患	脊椎•脊髄損傷	内視鏡的治療対象疾患	計
1月	5	0	2	13	5	13	38
2月	2	0	4	17	5	31	59
3月	11	0	4	19	3	14	51
4月	1	0	3	18	3	20	45
5月	2	1	6	23	6	24	62
6月	1	0	7	25	4	30	67
7月	3	0	5	20	2	21	51
8月	3	0	4	16	2	32	57
9月	6	0	5	26	3	28	68
10月	4	1	8	16	2	22	53
11月	6	0	4	26	4	17	57
12月	6	0	- 6	19	3	17	51
【合計】	50	2	58	238	42	269	659

Ш お盆及び年末年始の救急医療

1. 平成29年度お盆休み期間中の外来患者実態調査報告

平成29年のお盆期間中(8月13日(日)~16 表3.お盆中休診状況(242医療機関) 日(水) に受診した外来患者数の調査結果をご 報告いたします。

アンケート回収率(表1)

対象医療機関は28病院、215診療所、計243 機関で、回収率は100%でした。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

	医療機関数	回収数	回収率
病院	28	28	100%
診療所	215	215	100%
合 計	243	243	100%

	8月13日 (日)	8月14日 (月)	8月15日 (火)	8月16日 (水)
全日休診	235	216	219	212
半日休診	0	2	0	3
診 療	4	24	23	27
当番医	3	0	0	0

※盛岡市夜間急患診療所はのぞく

病院及び診療所の来院患者数 (表 4)

4日間の患者総数は11,106名でした。病院 受診10.101名、診療所受診は1.005名の内訳で した。

診療科別診療所及び病院数(表2)

表 2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
	内 科	91	
	外 科	43	
診	産 婦 人 科	13	
	小 児 科	13	215
療	眼 科	19	215
所	皮膚·泌尿器科	19	
	耳鼻咽喉科	16	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	12	28
院	その他の病院	他の病院 16	20

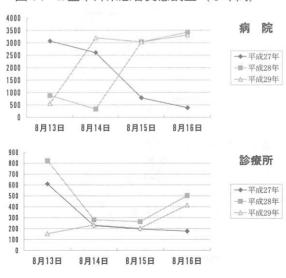
表 4. 病院及び診療所 (平成29年8月13日~8月16日)の来院患者数 (時間帯別)

月日	曜日	時間	AM0時	AM6時	AM9時	PM5時	PM8時	合計
73 11	"E II	機関	~ AM6時	~ AM9時	~ PM5時	~ PM8時	~ PM12時	ПНІ
		病院	24	61	364	57	50	556
8月13日	日	診療所	1	3	126	14	9	153
		合 計	25	64	490	71	59	709
		病院	25	147	2,905	71	50	3,198
8月14日	月	診療所	1	14	174	28	17	234
		合 計	26	161	3,079	99	67	3,432
	火	病院	30	155	2,749	65	36	3,035
8月15日		診療所	1	9	151	33	9	203
		合 計	31	164	2,900	98	~ PM12時 50 9 59 50 17 67 36	3,238
		病院	19	137	3,063	54	39	3,312
8月16日	水	診療所	1	15	368	23	8	415
		合 計	20	152	3,431	77	9 45 39 8	3,727
		病院	98	500	9,081	247	175	10,101
総	計	診療所	4	41	819	98	43	1,005
	12	総計	102	541	9,900	345	218	11,106

お盆中外来患者実態調査(図1)

過去3年間の患者数を折れ線グラフで示しました。13日は日曜日に当たったため、受診者数は1,000人を割り込みました。

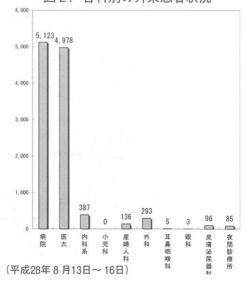
図1. お盆中外来患者実態調査(3年間)



各科別の外来患者状況(図2)

病院受診者5,123名、岩手医大受診者4,978 名でした。診療所受診者の内訳は、内科系 387名、外科293名などでした。期間中の夜間 急患診療所の受診者数は85名でした。

図 2. 各科別の外来患者状況



病院及び診療所来院患者比率

(図3、図4、図5、図6、図7、図8)

13日~16日の時間帯別の患者総数を岩手 医大、二次救急病院、その他の病院、診療所、

夜間急患診療所に分け、図3~8の円グラフに示しました。今年度も同様に、多くの受診者を岩手医大の二次救急病院で診ていただきました。

図3. 病院および診療所来院患者比率

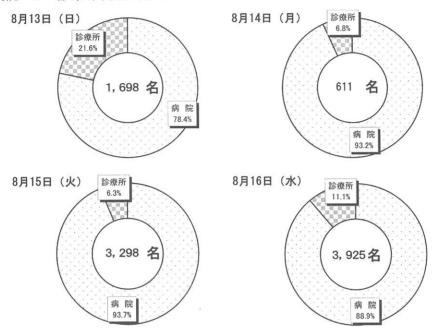


図 4. 深夜 (AM0:00~6:00) の来院患者比率

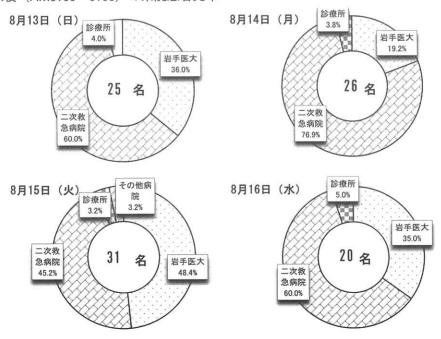


図5. 時間外A (AM6:00~AM9:00)の来院患者比率

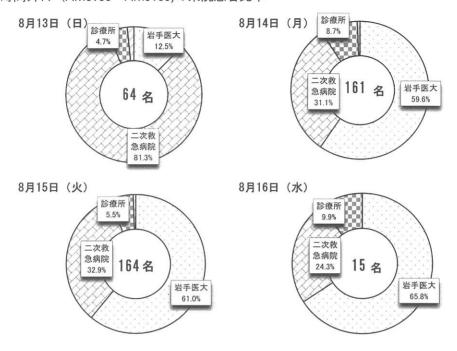


図 6. 日中 (AM9:00~PM5:00) の来院患者比率

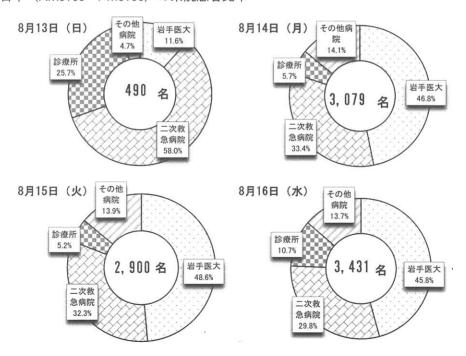


図7. 時間外B (PM5:00~PM8:00) の来院患者比率

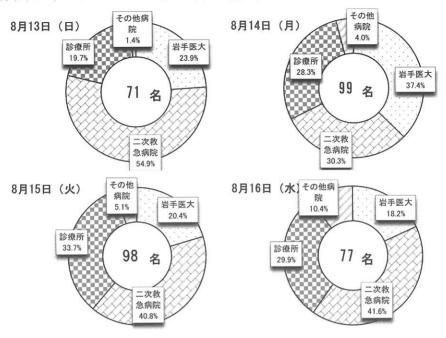
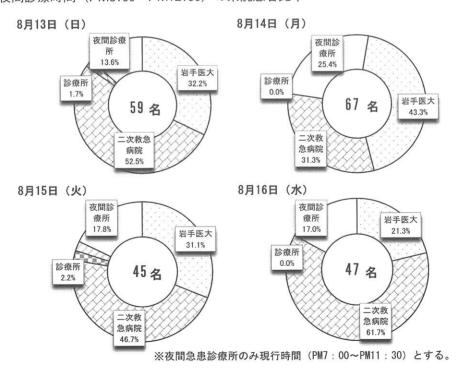


図8. 夜間診療時間 (PM8:00~PM12:00) の来院患者比率



以上、平成29年度のお盆期間中の外来患者 数実態調査をご報告いたします。本アンケー トの調査に当たりましては、お忙しい中、各 医療機関の皆様にご協力いただきました。誌 上をもちまして、感謝申し上げます。

(鈴木知己)

2. 平成29年度年末年始外来患者実態調查報告

-245医療機関アンケート集計結果-

平成29年12月29日~平成30年1月3日まで 表2. 診療科別診療所及び病院数 の外来患者アンケート調査について報告致し ます。アンケートは病院28施設、診療所217 施設の合計245施設に依頼し100%の同収率で した(表1)。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

		医療機関数	回収数	回収率
病	院	28	28	100%
診携	医所	217	217	100%
合	計	245	245	100%

診療科別診療所及び病院数の内訳を示しま す。医療機関総数は昨年より1増の245施設 でした。内訳は診療所は217、病院は28でし た(表2)。

年末年始の休診ですが、12月29日は全日休 診156、半日休診が32、診療が51施設、12月 30日は全日休診228、半日休診が7、診療が5 施設でした。12月31日は全日休診237、半日 休診が0、診療が3施設、1月1日は全日休 診237、半日休診が0、診療が3施設、1月

	診療科	医療機関数	計
	内 科	93	
診	外科	43	
	産 婦 人 科	13	
療	小 児 科	13	217
炽	眼科	20	217
	皮膚/泌尿器科	19	
所	耳鼻咽喉科	15	
	夜間診療所	1	
病	二次救急病院	12	00
院	その他の病院	16	28

2日は全日休診237、半日休診が0、診療が 3施設で、1月3日は全日休診237、半日休 診が0、診療が3施設でした(表3)。

病院および診療所の12月29日から1月3日 までの来院患者数を時間帯別に示しました。 来院患者数は6日間で病院4.152名、診療所 5.895名で合計10.047名でした。12月29日から 1月3日までは昨年より約1,363名減の患者 総数でした (表4)。

表 3. 年末年始休診状況(243医療機関)

			12月29日	12月30日 (土)	12月31日 (日)	1月1日 (月)	1月2日 (火)	1月3日 (水)
全	日付	(診	156	228	237	237	237	237
半	日 伢	く診	32	7	0	0	0	0
診		療	51	5	3	3	3	3
当	番	医	5	4	4	4	4	4

※盛岡市夜間急患診療所は除く

表 4. 病院及び診療所 (平成29年12月29日~平成30年1月3日) の来院患者数 (時間帯別)

יייייייייייייייייייייייייייייייייייייי	C HZ IZA	11 (1/2225-1	_,,,	12000 1 / 1	O H / *// NBC	, D. H XX (1:01)		
		時刻	0 AM	6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	اد ۸
月 日	曜日		(1	(0.70.4	(合 計
		機関	6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	12 PM	
		病院	13	99	1,916	48	37	2,113
2月29日	金	診療所	0	121	2,783	95	7	3,006
		合 計	13	220	4,699	143	44	5,119
		病院	25	27	352	69	48	521
2月30日	土	診療所	1	35	646	42	15	739
		合 計	26	62	998	111	63	1,260
		病院	26	22	220	57	43	368
2月31日	日	診療所	1	0	403	29	20	453
		合 計	27	22	623	86	63	821
		病院	32	27	206	58	51	374
1月1日	月	診療所	0	0	409	25	14	448
	20175	合 計	32	27	615	83	65	822
		病院	28	33	251	68	44	424
1月2日	火	診療所	0	3	579	37	16	635
		合 計	28	36	830	105	60	1,059
		病院	27	27	217	43	38	352
1月3日	水	診療所	0	5	573	31	5	614
L/10 []	5.0	合 計	27	32	790	74	43	966
		病院	151	235	3,162	343	261	4,152
総	計	診療所	2	164	5,393	259	77	5,895
		総計	153	399	8,555	602	338	10,047

過去5年間における年末年始の患者総数の 比較です(表5)。 夜間急患診療所の来院患者数は6日間で総数198名でした。1日の来院患者数は $27 \sim 44$ 名でした。今年は7:00 PM $\sim 11:00$ PM までに平均して来院がありました(表6)。

表 5. 過去 5年間における年末年始来院患者総数の比較

年度月日	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
12月29日	814 (日)	9,632 (土)	6,395 (火)	6,344 (木)	5,119 (金)
12月30日	2,274 (月)	1,807 (日)	1,393 (水)	1,472 (金)	1,260 (土)
12月31日	864 (火)	1,415 (月)	850 (木)	992 (土)	821 (日)
1月1日	700 (水)	1,230 (火)	706 (金)	678 (日)	822 (月)
1月2日	873 (木)	1,413 (水)	687 (土)	1,091 (月)	1,059 (火)
1月3日	1,039 (金)	1,274 (木)	639 (日)	833 (火)	966 (水)
計	6,564	16,771	10,670	11,410	10,047

表 6. 夜間急患診療所来院患者数

KO. KIPIN	NEX DR 1 N	PICIEN EI SA					
月日 時間帯	12月29日金	12月30日(土)	12月31日(日)	1月1日(月)	1月2日(火)	1月3日(水)	計
7:00 P.M. 8:00 P.M.	21	23	25	14	20	22	125
8:00 P.M. 11:30 P.M.	7	13	19	14	15	5	73
計	28	36	44	28	35	27	198

(人)

夜間診療時間の来院患者総数は338名で、 二次救急病院の来院総数は前年度より 岩手医大が107名(31.7%)、二次救急病院(医 1.664名増の3.450名で、岩手医大が2.036名 大を除く)が152名(45.0%)、夜間急患診療 (59.0%)と昨年より447名少ない受診数でし 所が73名(21.6%)とほぼ例年通りの割合で た(表8)。 した(表7)。

表7. 夜間診療時間 (8:00P.M.~12:00P.M.) の来院患者数

()内%

	12月29日(金)	12月30日(土)	12月31日(日)	1月1日(月)	1月2日(火)	1月3日(水)	計
二次救急病院 (医大を除く)	25 (56.8)	31 (49.2)	27 (42.9)	23 (35.4)	22 (36.7)	24 (55.8)	152 (45.0)
岩 手 医 大	12 (27.3)	16 (25.4)	16 (25.4)	28 (43.1)	21 (35.0)	14 (32.6)	107 (31.7)
その他の病院	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	2 (0.6)
診療 所	0 (0.0)	2 (3.2)	1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	4 (1.2)
夜間急患診療所 (8:00~11:30)	7 (15.9)	13 (20.6)	19 (30.2)	14 (21.5)	15 (25.0)	5 (11.6)	73 (21.6)
計	44 (100)	63 (100)	63 (100)	65 (100)	60 (100)	43 (100)	338 (100)

(名)

表 8. 二次救急病院各病院別来院患者数

()内%

	12月29日(金)	12月30日(土)	12月31日(日)	1月1日(月)	1月2日(火)	1月3日(水)	合計
岩手医科大学	1,370 (86.1)	123 (26.2)	109 (30.3)	161 (50.0)	163 (41.0)	110 (35.6)	2,036 (59.0)
岩手県立中央病院	81 (5.1)	115 (24.5)	82 (22.8)	76 (23.6)	98 (24.6)	115 (37.2)	567 (16.4)
盛岡赤十字病院	35 (2.2)	46 (9.8)	83 (23.1)	46 (14.3)	48 (12.1)	33 (10.7)	291 (8.4)
盛岡市立病院	14 (0.9)	0 (0.0)	13 (3.6)	6 (1.9)	8 (2.0)	5 (1.6)	46 (1.3)
遠山病院	0 (0.0)	2 (0.4)	31 (8.6)	5 (1.6)	3 (0.8)	5 (1.6)	46 (1.3)
高 松 病 院	64 (4.0)	2 (0.4)	2 (0.6)	0 (0.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	70 (2.0)
栃 内 病 院	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
盛岡つなぎ温泉病院	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
盛岡友愛病院	3 (0.2)	139 (29.6)	4 (1.1)	9 (2.8)	8 (2.0)	2 (0.6)	165 (4.8)
川久保病院	1 (0.1)	6 (1.3)	12 (3.3)	4 (1.2)	58 (14.6)	15 (4.9)	96 (2.8)
国立病院機構盛岡病院	7 (0.4)	12 (2.6)	8 (2.2)	2 (0.6)	1 (0.3)	1 (0.3)	31 (0.9)
八角病院	17 (1.1)	24 (5.1)	16 (4.4)	13 (4.0)	10 (2.5)	22 (7.1)	102 (3.0)
合 計	1,592 (100)	469 (100)	360 (100)	322 (100)	398 (100)	309 (100)	3,450 (100)

(名)

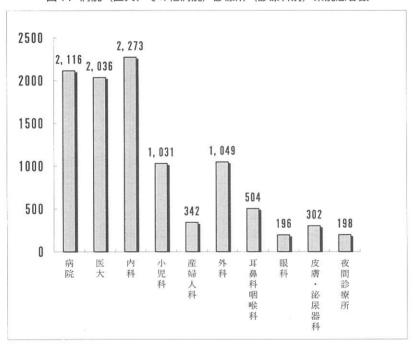
表 9. 二次救急病院来院患者数

時間	AM 0 ≀	AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	合 計
月日	AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	PM 12	
12月29日金	13	94	1401	47	37	1,592
12月30日(土)	25	25	305	67	47	469
12月31日(日)	26	21	213	57	43	360
1月1日(月)	32	26	156	57	51	322
1月2日(火)	28	31	228	68	43	398
1月3日(水)	27	27	174	43	38	309
合 計	151	224	2,477	339	259	3,450

		100 100 100		
基1 0	岩手県高度救命	お刍りいた	7 _ 本腔串老粉	(3 1/2)
4210.		小と示しと		10/1

時間月日	AM 0	AM 6 } AM 9	AM 9	PM 5	PM 8	合 計
	AWO	AW	1 1/1 5	1 101 6	1 101 12	
12月29日金	1	1	1	1	1	5
12月30日(土)	1	0	1	2	0	4
12月31日(日)	0	1	6	1	1	9
1月1日(月)	0	0	6	0	0	6
1月2日(火)	2	0	3	0	1	6
1月3日(水)	1	1	0	0	1	3
合 計	5	3	17	4	4	33

図1. 病院(医大、その他病院)診療所(診療科別)来院患者数



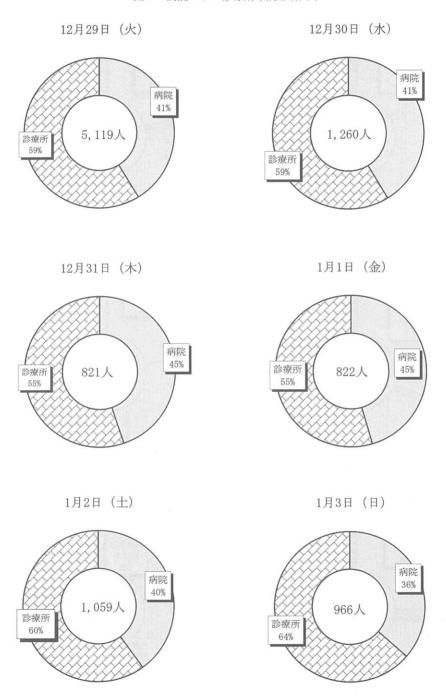
た。受診時間帯は9:00 AM~5:00 PM が最も多く受診していました(表9)。

岩手県高度救命救急センター来院患者数 (3次)は33名で昨年と同数でした。受診時 間帯は9:00 AM~5:00 PMに約半数の 17名が受診していました (表10)。

二次救急病院の来院患者数は3,450名でし 病院(医大、その他の病院)および診療所 (診療科別) 来院患者数を棒グラフにします と医大が2,036、その他の病院が2,116名でし た。診療所の診療科別では内科が2,273名、 次いで外科が1,049名と多く受診していまし た(図1)。

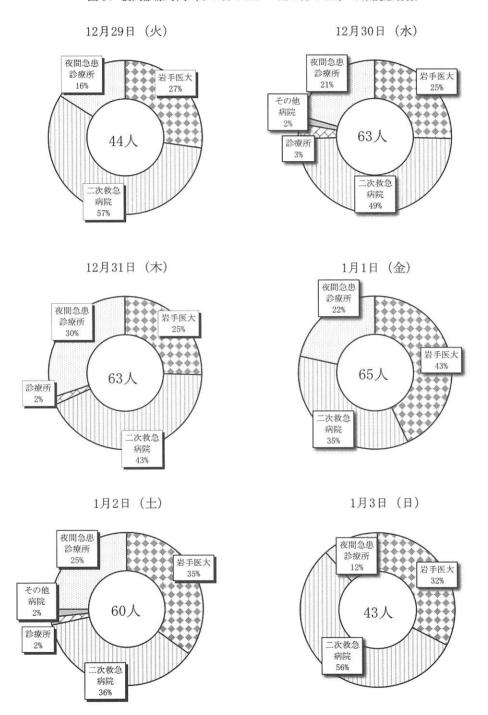
病院及び診療所の来院患者比率ですが、診療所の受診比率が病院をやや上回る結果となりま した(図 2)。

図2. 病院および診療所来院患者比率



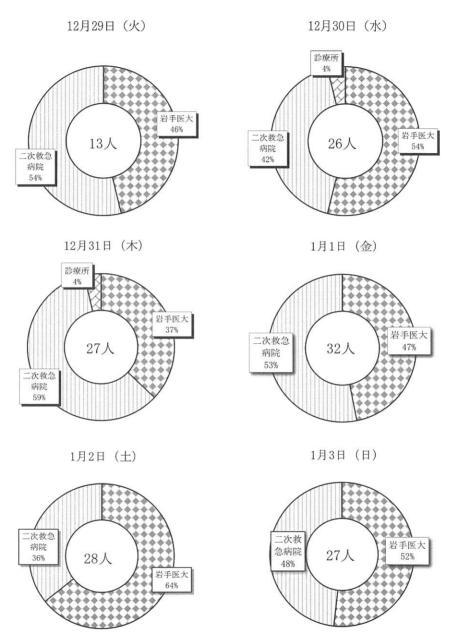
夜間診療時間(8:00 PM \sim 12:00 PM)の来院患者数を 6日間の円グラフにしてみると岩手医大が 25% \sim 57%、二次救急病院が33% \sim 46%を占めていました(図 3)。

図3. 夜間診療時間 (8:00 P.M.~12:00 P.M.) の来院患者数



深夜 $(0:00 \text{ AM} \sim 6:00 \text{ AM})$ の来院比率を 6 日間の円グラフでみると岩手医大と二次 救急病院の比率が $96\% \sim 100\%$ を占めていました(図 4)。

図4. 深夜(0:00 A.M.~6:00 A.M.) の来院比率



以上、平成29年度年末年始の外来患者実態調査結果を報告致しました。盛岡市の年末年始の診療に対しては当番医、夜間急患診療所で患者さんに配慮しておりますが万全とはいかない状況です。特に岩手医大を始め二次救急病院の先生方に大変お世話になり感謝致しております。今後とも宜しくお願い申し上げます。尚、毎年本アンケート調査に当たり各医療機関の皆様の御協力をいただき100%の回収率となっております。今後とも御協力を宜しくお願い申し上げます。(鈴木知己)

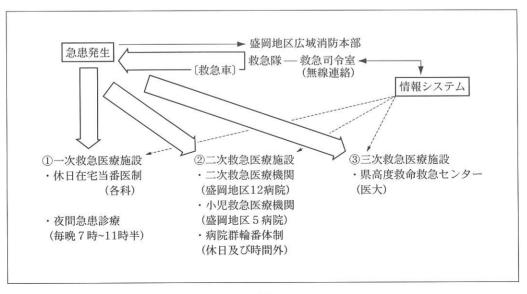
IV 盛岡地区二次救急医療体制 38年目のあゆみ

盛岡地区二次救急医療対策委員会

1. 実態報告

平成29年の二次救急医療体制について、表1から表3に示すような各病院の割当回数と日程により行われた。また、その報告については、二次救急は表4のように、小児救急については表5のように報告されている。表6には各病院毎の月別と総数を示す。平成29年は総数51,137であった。図2に総数の過去3年を比較したグラフを示す。平成28年より3,511名の減少であった。(平成28年54,648名)表7、表8は来院患者の実態を示すもので、救急車搬入率は全体で16.1%であった。平成29年も県立中央病院が56.5%の救急車を引き受けている。表9、10、図4、5は時間帯別の病院別の救急車搬入数を示す。深夜帯は約83.8%がA群病院へ搬送されている。以下、土・日・祝日別・外来・入院別・時間外受診別分布を示す。

二次救急全般としては、感染症の大きな流行もなく、穏やかに経過した。全体数は約3,300 名以上減少していたが、これは主として外来受診の減少によるもので、入院を要した患者は約 200 名増加した。救急車出動と搬送患者は盛岡市地域で10年前と比較して年2,000件以上斬増していたが、昨年は二次救急病院全体で8.216名と前年に比較して約500名増加した。



										=	3	欠	羽	ζ	急		抦		院		当	1	皆	表	ξ								_
Section Sect			年			3	4		925	7		1000	10	50000	9000		10000		16	17	2220	20350				23	24						
Note				木	企	±.		月	火	水	木	金	1:		Л	火	水	木	10.	1:		月	火	水	木	金	±:		月	火	水	木	H
		,																															
Note	1		日武			52500																											
The column	4			内	M			N	内	内	内	内			И	И	内	И	M			内	内	内	И	内			内	内	И	内	t
	4	a .	otrak																														l
	E	řě.	HILLIO.			8351616						10000			550							3050011		3339									
		80	erav.			.83				Ì			38							as							186						I
	10	11	Fit Bloc				外							M							外							外					1
	1		82 aV																														l
	p.	20		内	И			И	外	内	外	精			內	外	外	И	外			內	外	Й	外	内			内	外	朸	凶	
	15	7	El irit																														l
Note	1	1	1000000			疟		_	A.F.					産	- nda			40						: etv				ří					ļ
		10	867 abi	外	肿		TĮ.	外		総内	16	外	循	П		循	幣		43	外	総内	外	ίΝ		外	晔		外	循	#8	追	16	l
The control	F.	-	222	産	産	産		産	産	Ĥ.	産	序.			産	施	推	究	施			院	莊	産	産	府	廃	福	廃	Ĥ.	芹	ëti	ļ
																																	l
The content of the		1	日直																														l
No	t,				Æ	5il .			精	神	排	êΚ .			W	ils)	帧	FF .	- 613			皮	Ni i	+ 15	; <i>†</i>	ン	27		n (12 7	二 対	璐	
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1																																Ĭ
	-		Wild.																														l
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本				ifi																								ifi		(Hr			
Part	-	ģi.			er.	opp ,	1		-111	TIT	199	THE .	1	14	· ·	4.1	700	11	RIPC	11			H ,	1 10								WL.	Ī
密 密 四 四 四 四 四 四 四 四	1	9	H (O.				14			Ì				14							内							内					l
	9	,																															İ
B	l p	ē	fri (II).	И	И	1/4	И	14	И	内	M	14	И	内	М	外	内	μŋ	内	内	内	内	內	M	内	外	1/9	内	内	И	И	凶	l
P	E		n.v																														Ī
R	3"	9	13 (0.0)				形成							形成							形成							И					
	4	8	eta ate																														
c 日直 <td>E</td> <td>à</td> <td>111000</td> <td>54</td> <td>48</td> <td>形板</td> <td>形成</td> <td>#8</td> <td>dis</td> <td>193</td> <td>164</td> <td>14</td> <td>形成</td> <td>形成</td> <td>**</td> <td>84</td> <td>幣</td> <td>84</td> <td>**</td> <td>形成</td> <td>形成</td> <td>幣</td> <td>1876</td> <td>幣</td> <td>84</td> <td>内</td> <td>1/4</td> <td>И</td> <td>48</td> <td>164</td> <td>幣</td> <td>874</td> <td></td>	E	à	111000	54	48	形板	形成	#8	dis	193	164	14	形成	形成	**	84	幣	84	**	形成	形成	幣	1876	幣	84	内	1/4	И	48	164	幣	874	
C			H pt				幣							内							dr's							内					
R		2					外							外			-				外						-	外	_				
Ba	- 5	ě i	177 etc.	内	幣	內	193		4%																								
	E	X.		外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	+
Tag 17	引	Hığı				dete														.1.													
Tage Cage	11	1		-			TE				-	-	-	14	-						14							PA					
富田 日直 外 小 内 内 中 中 小 中 外 内 <td>4</td> <td>4</td> <td>761 IÓ.</td> <td>as:</td> <td>ar</td> <td>107</td> <td>40</td> <td>11.1</td> <td>de</td> <td>rio.</td> <td>317</td> <td>, the</td> <td>y far</td> <td>ılı</td> <td>disc</td> <td>nta.</td> <td>7 Ex</td> <td>7733</td> <td>(la</td> <td>(la</td> <td>y ks</td> <td>Ski</td> <td>7 ka</td> <td>nta:</td> <td>iki</td> <td>161</td> <td>ıla:</td> <td>ı la</td> <td>ıla</td> <td>ila</td> <td>ika</td> <td>the</td> <td></td>	4	4	761 IÓ.	as:	ar	107	40	11.1	de	rio.	317	, the	y far	ılı	disc	nta.	7 Ex	7733	(la	(la	y ks	Ski	7 ka	nta:	iki	161	ıla:	ı la	ıla	ila	ika	the	
A S S S S S S S S S S S S S S S S S S S	70	14	12	[P]	1/9	P	707	Py	l la	PT	179	PI	PI	171	P.S.	F3	177	P1	PI	PI	77	F3	17		_ry	ry	171	17	ra	17	F7	- 17	1
で	100	25	H EL				94							内							7.0							4					
R	5	6.	ote de																														Ī
Q 日直 内内 内内 外外 内内 内内 内内 外外 内内 内内 内内 内内内 内内内内 内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内			tri ju.	内	741	外	外	外	M	外	30	6-3	内	内	幣	外	均	4%	外	和	‡ (p	外	18	外	内	外	16.	外	外	4/5	44	4%	
A C G G G G G G G G G G G G G G G G G G			EL IÓ																														
可能 不力 内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内		`					内							44							外							И					
版 内 限 内 R 小 内			宿道																														l
B	£	2		内	眼	И	内	BU	小小	14	内	内	小	内	B	小	内	14	И	内	14	内	1/5	内	則	μg	2/5	И	内	И	内	BH	1
	4%	国	日武																														
Ref	(37)	iri .				整	態		-				内	内	_					幣	115		-				M	内	-				1
B	Fee	機	宿道			5000		100	30		200	1000			200		1			0000	500.00	3300									(a.)	500	
月 日直 日直 日百 日百 日日 日日<				内	内	整	**	幣	内	圴	内	48	内	内	**	内	内	内	整	幣	整	***	内	内	И	幣	И	内	幣	内	内	内	1
Ta Ta Ta Ta Ta Ta Ta Ta			田直											, esc							941							111					
表 A A D		- 1	-				М							M			-				54							1/1					
表	"		宿道	ykı.	_{(M}	(Ja	į.lu	j.ki	ila	yla.	l)	₁ lu	_t lu	Us	LL.	y.l.i	[Ju	W	L/J	UL.	į.kı	N	以	从	_I	į/u	l/s	1Å1	Us	t/s	Į.	N	
終 大 央 赤 大 央 赤 大 央 赤 大 央 赤 大 央 赤 大 央 赤 大 央 赤 大 央 赤 大 央 赤 大 央 大 大 夫 赤 大 央 赤 大 央 大 央 六 大 央 赤 大 央 赤 大 央 六 央 六 央 n	-																																1
T	北松	2	Α	+	ф	+	+	ф	*	+	ф	ф	+	ф	赤	+	ф	赤	+	ф	+	*	ф	赤	*	ф	赤	+	ф	ф	*	ф	
院 B な 久	引入	٠I		市	栃	1	高	友	2	遠	Ш	市	栃	Ī	高	友	2	JII	遠	市	栃	国	介	友		Ш	遠	市		国	八	高	t
	記院	1 5	В		-	£2.	+1/1	,mt.		111		-44	rt-	-	in.	327.			otte		rts	+	th.	ant.			111	**	rts.	4.	d.	†A	

- 【注意事項】 1. 各病院の当直医(診療科)が変更されることがありますので、事前に電話で確認することをおすすめします。
 ※消防暑(教急隊)は患者の状態により、直近または最も適していると考えられる二次教急病院を選定して連絡を入れますので、教急隊から受入を要請された場合は可能な限り受入をお願い致します。
 2. 最終入院受入病院とは、急患について他の病院が受け入れられない場合、最終調整及び責任をもつ病院です。
 3. 小児の入院が必要と思われる場合は、小児救急入院受入病院当番表をご参照下さい。
 4. ※印は、休日体制になっていますので、ご留意下さい。

表 2 平成29年度(2017年4月~2018年3月)二次救急輪番病院年間回数

区分	年 末					年 間	
病院	年 始	祝祭日	日曜日	土曜日	平日	回数	総回数
盛岡市立病院	0	1	6	4	30	41	48
八 角 病 院	1	2	5	5	28	41	49
高 松 病 院	1	2	5	6	27	41	49
盛岡つなぎ温泉病院	1	4	6	6	23	40	51
県立中央病院	2	8	20	19	92	141	171
岩手医大附属病院	3	4	20	19	96	142	169
盛岡赤十字病院	1	3	11	11	56	82	97
遠 山 病 院	0	0	5	6	29	40	45
栃 内 病 院	1	2	6	6	26	41	50
盛岡友愛病院	1	1	6	7	25	40	48
川久保病院	0	1	6	5	28	40	47
国立盛岡病院	1	2	6	4	28	41	50
計	12	30	102	98	488	730	874

平成29年度(2017年4月~2018年3月)小児救急各病院当番コマ数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
中央	14	17	14	15	15	15	16	14	15	15	13	15	178
日赤	4	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	39
医大	15	15	14	16	15	14	15	16	15	16	14	15	180
こども	4	4	4	5	4	5	4	4	5	4	4	5	52
川久保	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	37
合計	40	42	38	42	40	40	41	40	42	43	37	41	486

表 3 二次救急医療輪番病院及び小児救急輪番病院日程表 (平成29年4月~6月)

4	月		二次	救:	救急			小児救急					
日	曜日		Α		В		1	宿直			ΗŪ	ï	
1	±:	日	赤	友		愛	中		央	中		央	
2	日	医	大	2	な	ぎ	日		赤	日		赤	
3	月	中	央	Ш	从	保	医		大				
4	火	日	赤	遠		Ш	Ш	久	保				
5	水	医	大	нi		立.	ф		央				
6	木	中	央	栃		内	中		央				
7	仓	医	大	[E]		₩.	医		大				
8	±:	医	大	八		角	_	E	ŧ	Ξ	Ł	t	
9	日	中	央	高		松	医		大	医		大	
10	月	日	赤	0	な	ぎ	医		大				
11	火	医	大	遠		Ш	Ш	久	保				
12	水	ф	央	Ш	久	保	中		央				
13	木	日	赤	фi		∜.	医		大				
14	仓	医	大	栃		内	中		央				
15	1:	中	央	$ \mathbb{H} $		∜.	医		大	医		大	
16	日	中	央	八		角	1		央	中		央	
17	月	医	大	高		松	医		大				
18	火	ф	央	友		変	Ш	久	保				
19	水	日	赤	遠		Ш	ф		央				
20	木	医	大	Ш	久	保	医		大				
21	仓	中	央	нi		₩.	rþi		央				
22	1:	日	赤	栃		内	-	E	to	Ξ	y	ŧ	
23	E	医	大	E		∜.	B		赤	B		赤	
24	月	中	央	八		角	中		央				
25	火	医	大	高		松	医		大				
26	水	医	大	友		愛	ф		央				
27	木	中	央	0	ts	ぎ	医		大				
28	仓	日	赤	遠		111	医		大				
29	1:	医	大	фi		∜.	中		央	ф		央	
30	Ħ	rţı	央	栃		内	医		大	医		大	

5	月		二次	救急			小児救急					
日	曜日		Α	В		1	宿直			日直		
1	月	医	大	E		立.	中		央			
2	火	日	赤	八		角	Щ	久	保			
(3)	水	巾	央	高		松	医		大	医		大
4)	木	中	央	友		変	中		央	ф		央
5)	金	医	大	0	ts	ぎ	日		赤	Ħ		赤
6	±:	中	央	Ш	久	保	医		大	医		大
7	日	日	赤	фi		忆	中		央	中		央
8	月	医	大	栃		内	医		大			
9	火	中	央	E		立	Щ	久	保			
10	水	日	赤	八		角	中		央			
11	木	医	大	高		松	医		大			
12	金	中	央	友		変	中		央			
13	1:	医	大	2	te	き	-	Y	to	-	Y	ŧ
14	日	医	大	Ш	人	保	医		大	医		大
15	月	中	央	遠		Ш	中		央			
16	火	日	赤	栃		内	Ш	久	保			
17	水	医	大	E		扙.	中		央			
18	木	中	央	八		角	医		大			
19	仓	日	赤	高		松	ф		央			
20	±:	医	大	友		変	医		大	医		大
21	日	中	央	2	な	ぎ	中		央	ф		央
22	月	中	央	Ш	久	保	医		大			
23	火	医	大	遠		Ш	中		央			
24	水	中	央	фi		立	医		大			
25	木	日	赤	E		立	中		央			
26	金	医	大	八		仴	Ħ		赤			
27	±:	中	央	商		松			ŧ	J	Ł	ŧ
28	日	日	赤	友		変	中		央	ф		央
29	月	医	大	2	15	ぎ	医		大			
30	火	中	央	Ш	久	保	中		央			
31	水	医	大	遠		111	医		大			

6	月		二次救急					1	、児	救:	急	
日	曜日		Α		В		宿直				日间	ī
1	木	医	大	市		寸.	中		央			
2	金	中	央	栃		内	医		大			
3	1:	日	赤	八		何	中		央	ф		央
4	日	医	大	高		松	医		大	医		大
5	月	中	央	友		変	中		央			
6	火	日	赤	2	ts	ぎ	川	久	保			
7	水	医	大	遊		Ш	医		大			
8	木	中	央	Ш	久	保	医		大			
9	愈	中	央	rhi		寸.	中		央			
10	1:	医	大	栃		内	-	E	to	Ξ	Y	ŧ
11	日	ф	央	E		∜.	医		大	医		大
12	月	日	赤	高		松	医		大			
13	火	医	大	友		愛	Щ	久	保			
14	水	ф	央	2	な	ぎ	中		央			
15	木	日	赤	Ш	久	保	医		大			
16	金	医	大	遠		Ш	中		央			
17	1:	中	央	нi		妅	日		赤	日		赤
18	日	医	大	栃		内	中		央	中		央
19	月	医	大	E		寸.	医		大			
20	火	中	央	八		角	Ш	久	保			
21	水	H	赤	友		変	中		央			
22	木	医	大	0	な	ぎ	医		大			
23	金	中	央	Ш	久	保	中		央			
24	t:	日	赤	遠		Ш	-	Ł	ŧ	Ξ	Ł	ŧ
25	日	医	大	市		忆	医		大	医		大
26	月	ф	央	栃		内	中		央			
27	火	中	央	E		立	中		央			
28	水	医	大	八		殉	日		赤			
29	木	中	央	高		松	ф		央			
30	金	日	赤	2	ts	ぎ	医		大			

医	大	15
中	央	14
E	赤	4
J	E 6	4
Л	久保	3
合	計	40

医	大	15
中	央	17
日	赤	3
- 2	Ľ ŧ	4
1117	ス 保	3
合	計	42

医	大	14
ф	央	14
Ħ	赤	3
1 8	£ \$	4
川 /	入 保	3
合	計	38

(平成29年7月~9月)

7	月		二次	救急			小児救急					
H	曜日		Α		В		宿直		T.	日直		Ĺ
1	土:	医	大	川	久	保	中		央	-	ど	ŧ
2	日	中	央	遠		Щ	H		赤	日		赤
3	月	日	赤	市		妅	医		大			
4	火	医	大	栃		内	Щ	久	保			
5	水	中	央	E		立.	中		央			
6	木	医	大	八		角	医		大			
7	仓	医	大	高		松	中		央			
8	t:	中	央	友		愛	医		大	ij	y	ŧ
9	日	日	赤	Щ	人	保	ф		央	中		央
10	月	医	大	遠		Щ	医		大			
11	火	中	央	iti		妅	Ш	久	保			
12	水	H	赤	栃		内	医		大			
13	木	医	大	E		立.	中		央			
14	仓	巾	央	八		角	医		大			
15	1:	中	央	高		松	医		大	5	Ł	ŧ
16	日	医	大	友		変	ф		央	中		央
17)	月	ф	央	0	ts	ぎ	医		大	医		大
18	火	日	赤	遠		Ш	Щ	久	保			
19	水	医	大	фi		立.	ф		央			
20	木	ф	央	栃		内	医		大			
21	金	日	赤	E		1.	中		央			
22	1:	医	大	八		角	中		央	-	y	t
23	日	中	央	高		松	医		大	医		大
24	月	医	大	友		変	中		央			
25	火	医	大	2	な	ぎ	医		大			
26	水	中	央)11	久	保	日		赤			
27	木	日	赤	市		₩.	医		大			
28	仓	医	大	栃		内	中		央			
29	±:	中	央	E		∜.	中		央	Ξ	E	ŧ
30	日	日	赤	八		角	医		大	医		大
31	月	医	大	高		松	中		央			

8	月		二次	:救急			小児救急					
日	曜日		Α		В		7	宿直		日		Ĺ
1	火	中	央	友		変	川	久	保			
2	水	中	央	0	な	ぎ	医		大			
3	木	医	大	Ш	久	保	中		央			
4	仓	ф	央	遠		Ш	医		大			
5	1:	日	赤	栃		内	中		央	-	Ł	b
6	日	医	大	\mathbb{K}		₫.	日		赤	日		赤
7	月	ф	央	八		侚	医		大			
8	火	日	赤	髙		松	Ш	人	保			
9	水	医	大	友		変	中		央			
10	木	中	央	0	な	ぎ	中		央			
(11)	仓	医	大	Ш	人	保	医		大	医		大
12	1:	医	大	遠		Ш	医		大	-	Ł	to
13	日	中	央	市		₫.	中		央	中		央
14	月	日	赤	E		立.	医		大			
15	火	医	大	八		角	Ш	久	保			
16	水	ф	央	高		松	中		央			
17	木	日	赤	友		変	医		大			
18	企	医	大	2	な	ぎ	中		央			
19	1:	中	央	Ш	久	保	中		央	-	Ł	f
20	日	中	央	遠		Ш	医		大	医		大
21	月	医	大	фi		立	中		央			
22	火	巾	央	栃		内	中		央			
23	水	H	赤	人		角	医		大			
24	木	医	大	高		松	日		赤			
25	金	中	央	友		変	中		央			
26	上	日	赤	0	な	ぎ	医		大	-	Ł	t
27	日	医	大	1	久	保	中		央	中		央
28	月	中	央	遠		Ш	医		大			
29	火	医	大	фi		1/	中		央			
30	水	医	大	枥		内			大			
31	木	中	央	E		Ϋ́,	医		大			

9	月	二次救急				小児救急						
Ħ	曜日	P	1		В		1	冒官	Ĺ	1	3 jī	Ĺ
1	金	日	赤	高		松	中		央			
2	1:	医	大	友		愛	中		央	Ξ	E	to
3	日	rfi	央	0	ts	ぎ	日		赤	日		赤
4	月	日	赤	ЛI	久	保	医		大			
5	火	医	大	遠		Ш	Ш	久	保			
6	水	中	央	фi		立.	中		央			
7	木	中	央	栃		内	医		大			
8	金	医	大	\mathbb{R}		立.	中		央			
9	1:	r‡r	央	八		角	医		大	-	Ł	ŧ
10	日	日	赤	友		愛	中		央	中		央
11	月	医	大	0	ts	ぎ	医		大			
12	火	中	央	нi		立.	Ш	久	保			
13	水	日	赤	遠		Ш	中		央			
14	木	医	大	Ш	人	保	医		大			
15	企	中	央	栃		内	中		央			
16	1:	医	大	K		立	医		大	-	Ł	ŧ
17	日	医	大	八		侚	中		央	中		央
18	月	r‡1	央	高		松	医		大	医		大
19	火	日	赤	2	な	ぎ	Ш	人	保			
20	水	医	大	Ш	久	保	中		央			
21	木	中	央	遠		Ш	日		赤			
22	金	日	赤	rhi		₩.			大			
23	1:	医	大	栃		内	41		央	-	Ł	ŧ
24	日	141	央	K		₩.	医		大	医		大
25	月	ф	央	八		角	中		央			
26	火	医	大	商		松	医		大			
27	水	中	央	友		変	中		央			
28	木	日	赤	Ш	久	保	医		大			
29		医	大	遠		Ш	中		央			
30	1:	r	央	фi		立	医		大	-	L	ŧ

医	大	16
1	央	15
日	赤	3
= 8	: t	5
川力	人保	3
合	計	42

医		大	15
ф		央	15
日		赤	3
_	Ŀ	ŧ	4
Ш	久	保	3
合		計	40

矢	大	14
中	央	15
日	赤	3
	ども	5
川 :	久保	3
		40

(平成29年10月~12月)

1	0月		二次	救:	急			/]	、児	救;	急	
日	曜日		A I				宿直				日尾	Ŧ.
1	日	日	赤	栃	9	内	中		央	ф		央
2	月	医	大	E		1	医		大			
3	火	中	央	八		角	Ш	久	保			
4	水	医	大	高		松	中		央			
5	木	医	大	友		愛	医		大			
6	金	中	央	0	な	ぎ	医		大			
7	t:	日	赤	遠		Ш	中		央	ij	Ł	t
8	日	医	大	市		₩.	Ħ		赤	日		赤
9	月	中	央	栃		内	医		大	医		大
10	火	日	赤	$ \mathbf{E} $		扩	Ш	久	保			
11	水	医	大	八		角	ф		央			
12	木	ф	央	高		松	医		大			
13	仓	中	央	友		愛	中		央			
14	1:	医	大	0	な	ぎ	中		央	- 1	Ł	t
15	日	ф	央	Ш	久	保	医		大	医		大
16	月	日	赤	нi		₩.	中		央			
17	火	医	大	栃		内	Ш	久	保			
18	水	ф	央	E		₩.	医		大			
19	木	日	赤	八		角	中		央			
20	仓	医	大	高		松	ф		央			
21	1:	中	央	友		変	医		大	1	Ŀ	ŧ
22	日	医	大	0	な	ぎ	中		央	中		央
23	月	医	大	Ш	久	保	医		大			
24	火	中	央	遠		Ш	中		央			
25	水	日	赤	栃		内	医		大			
26	木	医	大	E		₩.	H		赤			
27	金	中	央	八		角	中		央			
28	1:	日	赤	高		松	1		央	2	E	ŧ
29	日	医	大	友		愛	医		大	医		大
30	月	ф	央	0	な	ぎ	中		央			
31	火	r‡1	央	Ш	久	保	医		大			

1	1月	二次救急					小児救急						
日	曜日	A			В		宿直			J	3 12	Ĩ.	
1	水	医	大	遠		Щ	中		央				
2	木	中	央	фi		₫.	医		大				
(3)	企	日	赤			₩.	医		大	医		大	
4	1:	医	大	八		角	中		央	Ξ	Ł	b	
5	日	中	央	高		松	日		赤	日		赤	
6	月	日	赤	友		変	医		大				
7	火	医	大	0	な	ぎ	Ш	久	保				
8	水	中	央	Ш	人	保	中		央				
9	木	医	大	遠		Щ	医		大				
10	金	医	大	фi		立	中		央				
11	1:	中	央	栃		内	医		大	Ξ	E	ŧ	
12	日	日	赤	八		仴	中		央	中		央	
13	月	医	大	高		松	医		大				
14	火	中	央	友		愛	Ш	久	保				
15	水	日	赤	2	な	ぎ	4		央				
16	木	医	大	Ш	久	保	中		央				
17	仓	中	央	遠		Щ	医		大				
18	1:	中	央	фi		∜.	医		大	-	Ł	t	
19	B	医	大	栃		内	中		央	中		央	
20	月	中	央	[E]		寸.	医		大				
21	火	日	赤	高		松	Ш	久	保				
22	水	医	大	友		愛	日		赤				
(23)	木	中	央	0	な	ぎ	医		大	医		大	
24	金	日	赤	Ш	久	保	中		央				
25	1:	医	大	遠		Ш	中		央	Ξ	Ł	ŧ	
26	日	中	央	фi		₩.	医			医		大	
27	月	医	大	栃		内	中		央				
28	火	医	大	E		₩.	医		大				
29	水	中	央	八		角	中		央				
30	木	H	赤	友		爱	医		大				

1	2月		二次	救;	急			7]	救;	女急		
日	曜日		Α		В		宿直			直目		I.
1	金	医	大	2	ts	ぎ	中	1	央			
2	土	中	央	Ш	久	保	医		大	J	Ŀ	P
3	日	日	赤	遠		Щ	中		央	中		央
4	月	医	大	нi		立.	医		大			
5	火	中	央	栃		内	Ш	久	保			
6	水	ф	央	\mathbb{E}		₫.	医		大			
7	木	医	大	八		角	ф		央			
8	仓	中	央	高		松	医		大			
9	±:	日	赤	2	な	ぎ	中		央	,	Ľ	ŧ
10	日	医	大	Ш	久	保	日		赤	日		赤
11	月	中	央	遠		Щ	中		央			
12	火	日	赤	ιfi		₫.	Ш	久	保			
13	水	医	大	枥		内	医		大			
14	木	中	央	[E		立.	巾		央			
15	企	医	大	八		角	医		大			
16	士:	医	大	高		松	中		央	-	E	ŧ
17	日	中	央	友		変	医		大	医		大
18	月	日	赤	栃		内	中		央			
19	火	医	大	遠		Ш	Ш	久	保			
20	水	中	央	фi		立	医		大			
21	木	日	赤	Ш	久	保	中		央			
22	仓	医	大	[E]		∜.	医		大			
23	土	41	央	八		角	医		大	Ξ	Ł	t
24	日	ф	央	高		松	ф		央	ф		央
25	月	医	大	友		変	医		大			
26	火	ф	央	2	な	ぎ	中		央			
27	水	日	赤	遠		Ш	医		大			
28	木	医	大	фi		∜.	中		央			
29	仓	中	央	枥		内	医		大	医		大
30	土:	B	赤	E		₫.	中		央	Ξ	Ŀ	f
31	日	医	大	八		仴	日		赤	H		赤

矢		大	15
111		央	16
日		赤	3
-	E	to	4
川	久	保	3
合		計	41

医	大	16
111	央	14
日	赤	3
= 8	: 6	4
111 0	、保	3
合	計	40

JI	久	、保	3
J	7	· f	5
E		赤	4
4	1	央	15
医		大	15

(平成30年1月~3月)

1	月		二次	救:	3		小児救急					
日	曜日		Α		В		1	官直	ľ.		H II	ī.
(1)	月	中	央	高		松	医		大	医		大
(2)	火	医	大	友		愛	Ш	久	保	Ш	久	保
(3)	水	医	大	2	ts	ぎ	ф		央	中		央
4	木	中	央	川	久	保	日		赤			
5	仓	日	赤	нi		₫.	医		大			
6	1:	医	大	栃		内	中		央	-	F	t
7	日	ф	央	E		弘	日		赤	日		赤
(8)	月	日	赤	八		角	医		大	医		大
9	火	医	大	高		松	川	久	保			
10	水	中	央	友		変	中		央			
11	木	中	央	2	な	ぎ	医		大			
12	金	医	大	Ш	久	保	中		央			
13	±:	中	央	遠		Ш	医		大	Ξ	الح	£
14	日	日	赤	栃		内	中		央	中		央
15	月	医	大	E		1/.	医		大			
16	火	中	央	八		角	Ш	久	保			
17	水	日	赤	商		松	中		央			
18	木	医	大	友		変	医		大			
19	金	中	央	2	な	ぎ	中		央			
20	士:	医	大]1]	久	保	中		央	-	E	ŧ
21	日	医	大	遠		Ш	医		大	医		大
22	月	中	央	фi		V.	中		央			
23	火	日	赤	E		₩.	医		大			
24	水	医	大	八		角	中		央			
25	木	ф	央	高		松	日		赤			
26	金	H	赤	友		変	医		大			
27	1:	医	大	0	な	ぎ	中		央	-	E	ŧ
28	日	ф	央	Ш	久	保	医		大			大
29	月	中	央	遠		Ш	中		央			
30	火	医	大	фi		立	医		大			
31	水	中	央	栃		内	41		央			

2	月		二次	救;	a			小り	己彩	救急			
日	曜日	A			В		7	旨直.	日直			Ī.	
1	木	日	赤	八		角	医	大	:				
2	仓	医	大	高		松	H	动	÷				
3	±:	中	央	友		変	医	大	: 3		Ł	ŧ	
4	日	日	赤	0	な	ぎ	中	块	L	1		央	
5	月	医	大	Ш	久	保	医	大	-				
6	火	中	央	遠		Щ	川	久存					
7	水	医	大	đί		₩.	医	ナ	-				
8	木	医	大	栃		内	中	块	L				
9	企	中	央	[K]		₩.	医	+	1				
10	1:	日	赤	崮		松	医	ナ	: 3		E	to	
11	日	医	大	友		愛	医	ナ	: 12	E		大	
12	月	ф	央	2	な	ぎ	日	1	ŧ F	1		赤	
13	火	H	赤	фi		立	Щ	久存	1				
14	水	医	大	遠		Ш	中	中	1				
15	木	中	央	Ш	久	保	医	+	7				
16	仓	中	央	栃		内	中	पे	L				
17	1:	医	大			₩.	医	+	: :		Ŀ	f	
18	日	中	央	八		角	ф	ı j	T L	1		央	
19	月	H	赤	友		愛	中	ij	L				
20	火	医	大	0	な	ぎ	Ш	久化	k				
21	水	中	央	JII	久	保	中	g	L				
22	木	日	赤	遠		Щ	医	J	-				
23	仓	医	大	rhi		∜.	巾	þ	1				
24	1:	中	央	栃		内	医	+	7	-	F	t	
25	日	医	大	E		∜.	中	ı j	F L	þ		央	
26	月	医	大	八		殉	医	J	7				
27	火	r‡1	央	尚		松	中	ij	L				
28	水	B	赤	0	ts	ぎ	医)	7				

3	月		二次	救?	a		小児救急						
日	曜日	A		В			7	訂官	[-	ΗĪ	Ī.	
1	木	医	大	Щ	久	保	中		央				
2	金	中	央	遠		Ш	医		大				
3	1:	B	赤	фi		1.	医		大	J	Ŀ	to	
4	日	医	大	栃		内	中		央	中		央	
5	月	中	央	\mathbb{E}		立.	医		大				
6	火	rţı	央	八		仴	Ш	久	保				
7	水	医	大	高		松	中		央				
8	木	中	央	友		愛	医		大				
9	仓	Ħ	赤	Ш	久	保	中		央				
10	1:	医	大	遠		Ш	医		大	Ξ	Ł	b	
11	日	ф	央	тi		₩.	日		赤	H		赤	
12	月	日	赤	栃		内	医		大				
13	火	医	大	K		₩.	Ш	久	保				
14	水	中	央	八		角	ф		央				
15	木	医	大	高		松	中		央				
16	兪	医	大	友		変	医		大				
17	±:	ф	央	2	な	ぎ	中		央	Ξ	E	ŧ	
18	H	Ħ	赤	遠		Щ	医		大	医		大	
19	月	医	大	rhi		∜.	中		央				
20	火	中	央	栃		内	Ш	久	保				
(21)	水	B	赤	K		1/2	医		大	医		大	
22	木	医	大	1		侚	ф		央				
23	企	中	央	高		松	日		赤				
24	1:	r	央	友		変	医		大	Ξ	E	ŧ	
25	H	医	大	0	ts	ぎ	ф		央	巾		央	
26	月	中	央	Ш	久	保	医		大				
27	火	B	赤	rhi		17.	中		央				
28	水	医	大	栃		内	医		大				
29	木	中	央	E		₩.	中		央				
30	金	日	赤	八		角	ф		央				
31	1:	医	大	高		松	医		大	-	E	4	

医	大	16
中	央	15
日	赤	4
-	ども	4
川.	久 保	4
合	計	43

医	大	14
中	央	13
日	赤	3
= 6	. 6	4
川り	、保	3
合	計	37

矢	大	15
1	央	15
日	赤	3
= 2	ごも	5
用力	人保	3
合	計	41

表 4 二次救急急患データ

	月	日	1	8	論番	日		2	日			3	日		41	8	倫番	日		5	日			6			7	日 •	淪番	日
	曜	日		E	3			F	1			2	4			7.	k			_ 7	k			3	È				<u> </u>	
	病院	名	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院
				教急車		救急車		救急車		救急車		枚急率		枚急率		救急車		牧急車		救急車		牧急車		教急車		救急車		救急車		教急車
		内科系	1				1				2			1	4			2	4	3		3	4				3			2
深	3782222333	外科系			1		1				1	1			2	1		1		2		1	1				1			
	~	小児科					3	1	1										5	1			1				1		1	
夜	АМ6	産 科			1								2																	
		その他																	1			1	1				1			
		内科系	1				2	1	2	2		2			4				3			2					2	1		
時	100000000000000000000000000000000000000	外科系	1				1			1					5				1							1	1			
88 8	10,000	小児科	1							1					4															
外	АМ9	産科																									l		1	
		その他														1			1								1			
		内科系																									2			
±		外科系															Ì										3		1	
曜	1	小児科																												
日	РМО	産科																												
		その他								3																				1
		内科系																									4	1	2	
±		外科系																									10		2	1
曜	1	小児科		***************************************																							2			
日	РМ5	産科																												
		その他																												
		内科系	11	5	3	1					8	1	2	2	15	2			10	4	2	4								
日		外科系	12								12	5		2	10	1	2	1	9	1		1						000-0101-1		
祭	~	小児科	7		4						1				11		1	2	3											
日	РМ5	産科	in naturalism																											
		その他	3								4				1				4		1									
		内科系	3	1			2	1	3	1	7			1	5	1	1		2	2			5			1	3	1		1
時		外科系	3	1		Î	3	1		1	4	1		1	4	1			2	4	1		4		1	4	5		1	
間		小児科	2		2				1						8			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	1				4	1	1					
外	РМ8	産科			1	1													1											
		その他	1												2				1				2				1			
		内科系	4	1			4		2		5	1		2	4			2	2		1		5				3	1	1	
夜		外科系				1	5		2		5	1			1		1	1	2	1						2	1			
	1	小児科	5			1	1								6		1						3	1	1	1	1			
間	PM12																												2	
		その他									1				1							Ī			•	1	1			
	合	計	55	8	12	2	23	4	11	6	50	12	4	9	87	7	6	9	51	18	5	12	30	2	3	8	46	4	11	5

二次救急患者(以下二次患者と略記す)データについては表 4 に示す通り、小児救急患者(以下小児患者と略記す)については表 5 に示す通りの資料を各二次救急医療病院より各病院事務長の責任において 1 ヵ月分をまとめ、翌月中旬まで医師会に提出される。

表 5 小児救急患者データ

月	日	1 1	日輔	番	日		2	Е			3	H		4	日輔	番	日		5	H		6	日輔	备备	H		7	日	
曜	H		E	1			月				1				가				7				刭				土		
病		外		入		外		入			来	入		外		入		外			院		来	入		外		入	院
時	間帯	iş.	熄車		救急車		救急車	15	救急車		救急車		救急車	13	始車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車	- 1	救急車	į	救急車
深夜	$ \begin{array}{c} A M 0 \\ \sim \\ A M 6 \end{array} $					1												1		1		1				4			
時間外	A M 6 A M 9																	1						1		3			
土曜日	A M 9 ~ P M 0											1														1		1	
土曜日	PM 0 ~ PM 5							1																				1	
日祭日	A M 9 ~ P M 5							1																					
時間外	PM 5 ~ PM 8					2	1	1				1						5								4	1	1	
時間外	P M 8 ~ P M12					6												6			1	1			3				
合	計	0	0	0	0	9	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	12	0	1	0	1	0	0	3	11	1	1	0

表6に平成29年の月別の患者数を示した。患者数では昨年平成28年を3,511名下回った。 例年通り受診する患者数は岩手医大が36.2%、中央病院が32.5%、赤十字病院が12.7%で全体の81. 4%を占めている。

表7には救急車搬入数を示している。中央病院が4,641件、岩手医大471 (三次:866件)、赤十字病院は1,583件となっている。

(高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。)

表 6 病院別・月別二次救急患者年間総数

		年	三月	2017年	۰. تا	. H					۰		40 H			合計	月平均	比率
抦	院名			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(名)	23 1 3	(%)
中	央	病	院	1,455	1,141	1,248	1,283	1,447	1,285	1,548	1,502	1,459	1,429	1,308	1,515	16,620	1,385	32.5
日	赤	病	院	638	461	503	487	624	470	577	613	542	557	474	571	6,517	543	12.7
市	立.	病	院	88	70	57	54	70	43	92	81	77	90	71	88	881	73	1.7
遠	Ш	病	院	122	61	7	20	12	37	44	16	20	16	53	44	452	38	0.9
八	角	病	院	276	202	188	162	254	161	219	215	139	171	129	177	2,.293	191	4.5
岩	手	医	大	1,787	1,226	1,409	1,447	1,751	1,359	1,771	1,751	1,505	1,640	1,340	1,505	18,491	1,541	36.2
高	松	病	院	119	107	81	113	139	120	132	149	101	75	29	20	1,185	99	2.3
栃	内	病	院	42	29	32	79	33	22	30	37	44	27	73	50	498	42	1.0
つ	なぎ	且泉症	院	51	34	27	41	27	37	53	41	35	29	34	37	446	37	0.9
友	愛	病	院	109	66	88	73	94	48	76	46	54	63	59	74	850	71	1.7
Ш	久(呆 病	院	177	230	118	121	330	91	127	391	114	103	195	303	2,300	192	4.5
国	立盛	岡病	院	52	31	46	64	54	30	63	43	57	49	45	70	604	50	1.2
	合	計		4,916	3,658	3,804	3,944	4,835	3,703	4,732	4,885	4,147	4,249	3,810	4,454	51,137	4,261	100

図 2 二次救急病院来院患者総数月別分布

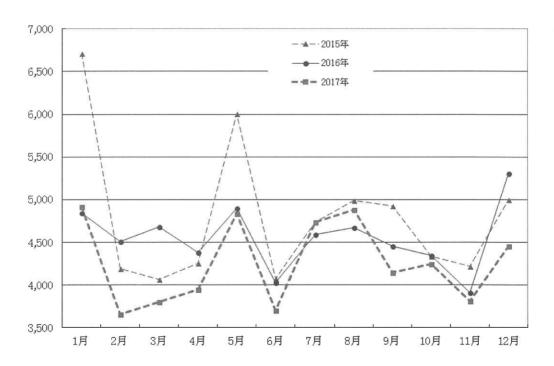


表 7 二次救急医療病院における来院患者の実態(年間総数)

2017年	. 1 月]	外	来	入	院	うち救急	息車搬入	総 数
	~12	2月	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	
中 央	病	院	12,874 ^名	29.6 %	3,746 ^名	48.6 %	4,641 ^名	56.5	16,620 ^名
日赤	病	院	4,922	11.3	1,595	20.7	1,583	19.3	6,517
市立	病	院	666	1.5	215	2.8	210	2.6	881
遠山	病	院	387	0.9	65	0.8	66	0.8	452
八角	病	院	2,125	4.9	168	2.2	202	2.5	2,293
岩 手	医	大	17,239	39.7	1,252	16.2	471	5.7	18,491
高 松	病	院	1,038	2.4	147	1.9	327	4.0	1,185
栃 内	病	院	444	1.0	54	0.7	90	1.1	498
つなぎ	温泉症	対院	312	0.7	134	1.7	124	1.5	446
友 愛	病	院	772	1.8	78	1.0	147	1.8	850
川久	保病	院	2,159	5.0	141	1.8	180	2.2	2,300
国立原			486	1.1	118	1.5	175	2.1	604
合		計	43,424	100	7,713	100	8,216	100	51,137

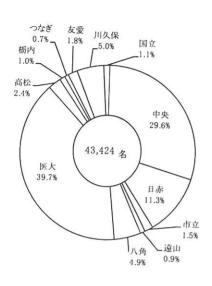
表 8 二次救急医療病院における来院患者の実態(月平均)

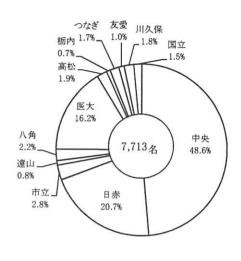
2017年.1月	外 来	入 院	救急車搬入	総数
~12月	患者数	患者数	患 者 数	心 奴
中央病院	1,073 名	312 名	387 名	1,385 名
日 赤 病 院	410	133	132	543
市立病院	56	18	18	73
遠山病院	32	5	6	38
八角病院	177	14	17	191
岩手医大	1,437	104	39	1,541
高松病院	87	12	27	99
栃 内 病 院	37	5	8	42
つなぎ温泉病院	26	11	10	37
友 愛 病 院	64	7	12	71
川久保病院	180	12	15	192
国立盛岡病院	41	10	15	50
合 計	3,619	643	685	4,261

図3 二次救急医療病院における来院患者の外来・入院・救急車搬入(表7参照)

<外 来>

<入 院>





<救 急 車>

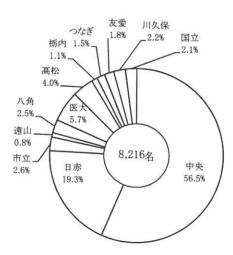


表 9 二次救急医療病院における救急車搬入患者内訳 (2017.1~2017.12) その 1

21.3

(100)

780

3,663

時間帯	外	来	入	院	科別	外	来	入	院
(表 4 参照)	患者数	比 率	患者数	比 率	科別	患者数	比 率	患者数	比 率
深 夜	811 名	17.8 %	598 名	16.3 %	内科系	1,999名	43.9 %	1,854名	50.6 %
時間外A	673	14.8	519	14.2	外科系	1,865	41.0	1,510	41.2
土曜日(1)	111	2.4	123	3.4	その他	689	15.1	299	8.2
土曜日(2)	254	5.6	204	5.6	計	4,553	(100)	3,663	(100)
日祭日	625	13.7	457	12.5					
時間外B	1,014	22.3	982	26.8					

図4 二次救急医療病院における救急車搬入内訳

23.4

(100)

夜

間

計

1,065

4,553

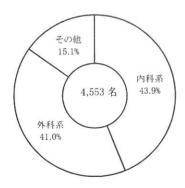
<外来・時間帯別>

夜間 23.4% 17.8% 17

<入院・時間帯別>



<外来・診療科別>



<入院・診療科別>

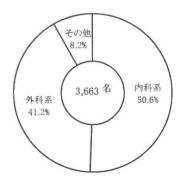


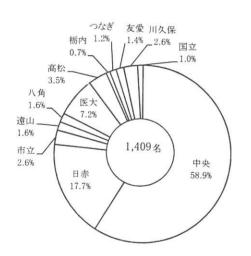
表10 二次救急医療病院における病院別救急車搬入患者内訳(2017.1~2017.12)

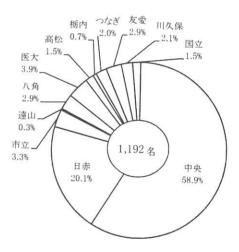
病院名	深	夜	時間	l外A	土曜	日(1)	土曜	日(2)	日务	癸日	時間	外B	夜	間	総	合
7/4 196.451	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
中央病院	830	58.9	702	58.9	136	58.1	259	56.6	532	49.2	1,112	55.7	1,070	58.0	4,641	56.5
日赤病院	249	17.7	240	20.1	59	25.2	97	21.2	220	20.3	386	19.3	332	18.0	1,583	19.3
市立病院	37	2.6	39	3.3	10	4.3	7	1.5	35	3.2	40	2.0	42	2.3	210	2.6
遠山病院	22	1.6	3	0.3	0	0.0	2	0.4	12	1.1	8	0.4	19	1.0	66	0.8
八角病院	23	1.6	34	2.9	7	3.0	12	2.6	28	2.6	43	2.2	55	3.0	202	2.5
岩手医大	102	7.2	47	3.9	0	0.0	9	2.0	62	5.7	109	5.5	142	7.7	471	5.7
高松病院	49	3.5	18	1.5	4	1.7	28	6.1	94	8.7	101	5.1	33	1.8	327	4.0
栃内病院	10	0.7	8	0.7	0	0.0	4	0.9	10	0.9	36	1.8	22	1.2	90	1.1
つなぎ温泉病院	17	1.2	24	2.0	0	0.0	6	1.3	22	2.0	33	1.7	22	1.2	124	1.5
友愛病院	20	1.4	34	2.9	0	0.0	8	1.7	14	1.3	40	2.0	31	1.7	147	1.8
川久保病院	36	2.6	25	2.1	0	0.0	9	2.0	27	2.5	44	2.2	39	2.1	180	2.2
国立盛岡病院	14	1.0	18	1.5	18	7.7	17	3.7	26	2.4	44	2.2	38	2.1	175	2.1
合 計	1,409	(100)	1,192	(100)	234	(100)	458	(100)	1,082	(100)	1,996	(100)	1,845	(100)	8,216	(100)

図 5 二次救急医療病院における病院別、時間帯毎の救急車搬入内訳

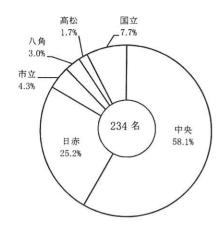
<深 夜>

<時間外A>

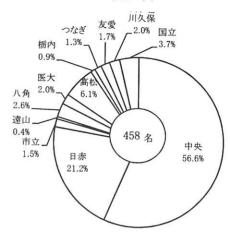




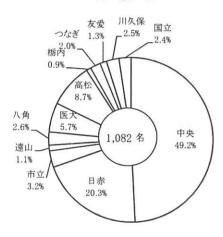
<土曜日(1)>



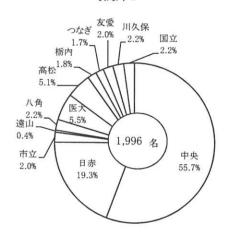
<土曜日(2)>



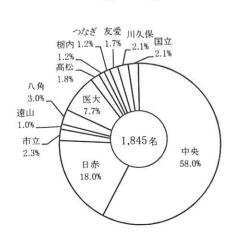
<日 祭 日>



<時間外B>



<夜 間>



<総合>

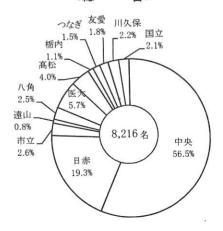


表11 二次救急医療病院における外来・入院総合分布(系別による分類 I)

年 間 ※	会 数	総		合	月	平	均
十 间 ※	区 女人	外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
	内科系	5,333 ^名	1,997 名	7,330 名	444.4 名	166.4 名	610.8
中央病院	外科系	4,583	1,193	5,776	381.9	99.4	481.3
	その他	2,958	556	3,514	246.5	46.3	292.8
	内科系	1,508	508	2,016	125.7	42.3	168.0
日赤病院	外科系	2,582	906	3,488	215.2	75.5	290.7
	その他	832	181	1,013	69.3	15.1	84.4
	内科系	260	117	377	21.7	9.8	31.4
市立病院	外科系	370	89	459	30.8	7.4	38.3
	その他	36	9	45	3.0	0.8	3.8
	内科系	253	60	313	21.1	5.0	26.1
遠山病院	外科系	133	5	138	11.1	0.4	11.5
	その他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	内科系	1,657	139	1,796	138.1	11.6	149.7
八角病院	外科系	468	29	497	39.0	2.4	41.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	6,216	488	6,704	518.0	40.7	558.7
岩手医大	外科系	7,164	315	7,479	597.0	26.3	623.3
	その他	3,859	449	4,308	321.6	37.4	359.0
	内科系	311	10	321	25.9	0.8	26.8
高松病院	外科系	727	137	864	60.6	11.4	72.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	29	4	33	2.4	0.3	2.8
栃内病院	外科系	415	50	465	34.6	4.2	38.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	299	134	433	24.9	11.2	36.1
つなぎ温泉病院	外科系	13	0	13	1.1	0.0	1.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	563	68	631	46.9	5.7	52.6
友愛病院	外科系	154	2	156	12.8	0.2	13.0
	その他	55	8	63	4.6	0.7	5.3
	内科系	840	119	959	70.0	9.9	79.9
川久保病院	外科系	21	8	29	1.8	0.7	2.4
	その他	1,298	14	1,312	108.2	1.2	109.3
	内科系	134	65	199	11.2	5.4	16.6
国立盛岡病院	外科系	352	53	405	29.3	4.4	33.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	17,403	3,709	21,112	1,450.3	309.1	1,759.3
合 計	外科系	16,982	2,787	19,769	1,415.2	232.3	1,647.4
	その他	9,039	1,217	10,256	753.3	101.4	854.7
4.2 A -:		43,424	7,713	51,137	3,618.7	642.8	4,261.4
総合計				1日平均	119.0	21.1	140.1

表12 二次救急医療病院における外来・入院総合分布(系別による分類Ⅱ)

4	声	完 名	,	内 科	系	外 科	系	その	他
,	M B	τ 4]	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
中	央	病	院	7,330 名	34.7 %	5,776 名	29.2 %	3,514 名	34.3 %
日	赤	病	院	2,016	9.5	3,488	17.6	1,013	9.9
市	立	病	院	377	1.8	459	2.3	45	0.4
遠	Ш	病	院	313	1.5	138	0.7	1	0.01
1	角	病	院	1,796	8.5	497	2.5	0	0.0
岩	手	医	大	6,704	31.8	7,479	37.8	4,308	42.0
高	松	病	院	321	1.5	864	4.4	0	0.0
栃	内	病	院	33	0.2	465	2.4	0	0.0
つけ	なぎ温	显泉症		433	2.1	13	0.1	0	0.0
友	愛	病	院	631	3.0	156	0.8	63	0.6
Ш	久化	~ 病	院	959	4.5	29	0.1	1,312	12.8
国	立盛	岡族	院	199	0.9	405	2.0	0	0.0
	Ē	†		21,112	(100)	19,769	(100)	10,256	(100)

図 6 二次救急医療病院における来院患者の総合分布(系別による分類)

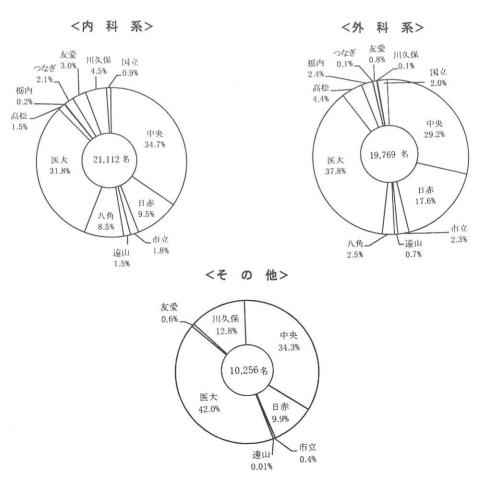
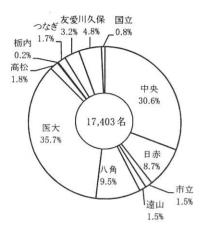


表13 二次救急医療病院における来院患者の総合分布(系別による分類 II)

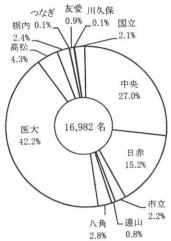
		外			来			入			院	
病院名	内和	斗 系	外系	斗 系	そ (の他	内和	斗 系	外系	斗 系	₹ (の他
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
中央病院	5,333	30.6	4,583	27.0	2,958	32.7	1,997	53.8	1,193	42.8	556	45.7
日赤病院	1,508	8.7	2,582	15.2	832	9.2	508	13.7	906	32.5	181	14.9
市立病院	260	1.5	370	2.2	36	0.4	117	3.2	89	3.2	9	0.7
遠山病院	253	1.5	133	0.8	1	0.01	60	1.6	5	0.2	0	0.0
八角病院	1,657	9.5	468	2.8	0	0.0	139	3.7	29	1.0	0	0.0
岩手医大	6,216	35.7	7,164	42.2	3,859	42.7	488	13.2	315	11.3	449	36.9
高松病院	311	1.8	727	4.3	0	0.0	10	0.3	137	4.9	0	0.0
栃内病院	29	0.2	415	2.4	0	0.0	4	0.1	50	1.8	0	0.0
つなぎ温泉病院	299	1.7	13	0.1	0	0.0	134	3.6	0	0.0	0	0.0
友愛病院	563	3.2	154	0.9	55	0.6	68	1.8	2	0.1	8	0.7
川久保病院	840	4.8	21	0.1	1,298	14.4	119	3.2	8	0.29	14	1.2
国立盛岡病院	134	0.8	352	2.1	0	0.0	65	1.8	53	1.9	0	0.0
計	17,403	(100)	16,982	(100)	9,039	(100)	3,709	(100)	2,787	(100)	1,217	(100)

<外 来 分 布>

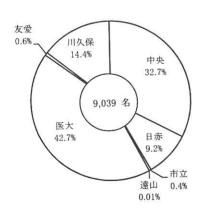
<内 科 系>



<外 科 系>

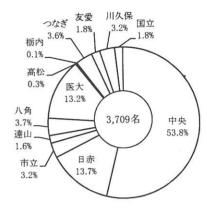


<そ の 他>

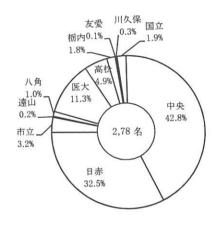


<入院分布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<そ の 他>

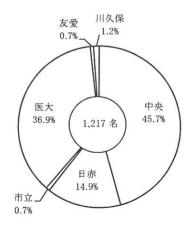
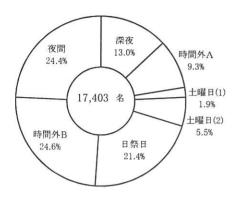


表14 二次救急医療病院における来院患者の外来・入院時間別分布 (2017.1~2017.12)

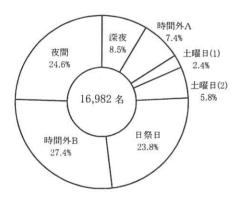
		外	来	入	院
		患 者 数	比 率	患 者 数	比 率
	深夜	2,254 名	13.0 %	523 名	14.1 %
内科	時間外A	1,627	9.3	439	11.8
	土曜日(1)	330	1.9	130	3.5
	土曜日(2)	955	5.5	215	5.8
	日 祭 日	3,716	21.4	561	15.1
系	時間外B	4,281	24.6	1,047	28.2
//\	夜 間	4,240	24.4	794	21.4
	計	17,403	100	3,709	100
	深夜	1,438	8.5	377	13.5
外	時間外A	1,264	7.4	300	10.8
	土曜日(1)	415	2.4	133	4.8
科	土曜日(2)	988	5.8	212	7.6
17	日 祭 日	4,050	23.8	470	16.9
系	時間外B	4,651	27.4	745	26.7
71	夜 間	4,176	24.6	550	19.7
	計	16,982	100	2,787	100
	深夜	1,156	12.8	245	20.1
	時間外A	622	6.9	119	9.8
そ	土曜日(1)	94	1.0	20	1.6
の	土曜日(2)	423	4.7	41	3.4
נט	日 祭 日	1,860	20.6	203	16.7
他	時間外B	2,453	27.1	291	23.9
لتار	夜 間	2,431	26.9	298	24.5
	計	9,039	100	1,217	100
Á	総 計	43,424		7,713	

<外 来 分 布>

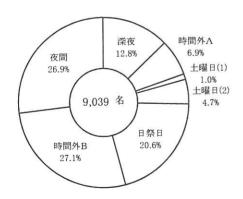
<内 科 系>



<外 科 系>

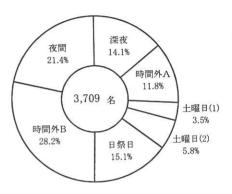


<そ の 他>

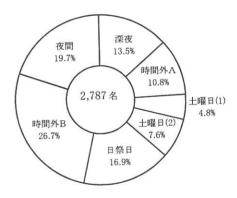


<入 院 分 布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<そ の 他>

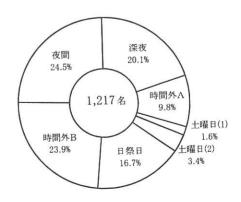


図 9 二次救急医療病院における時間別外来患者比率(2017.1~12)

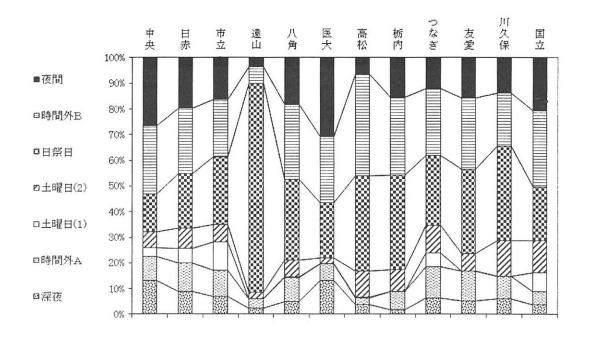


図10 二次救急医療病院における時間別入院患者比率(2017.1~12)

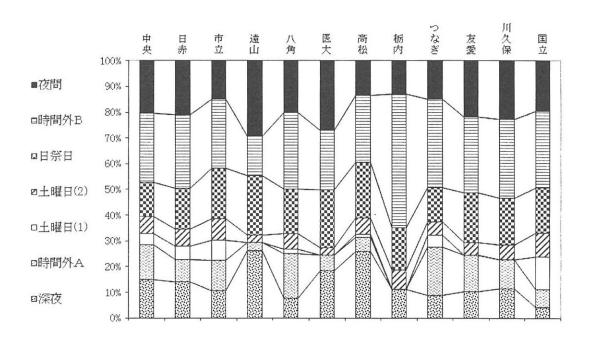
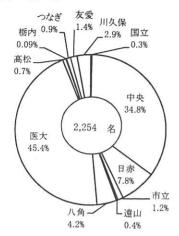


表15 二次体制38年目の外来・入院分布(深夜)

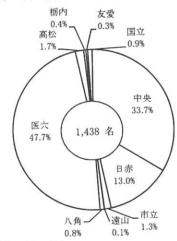
深夜	2017. 1 ~		総 合)	(月平均)
(AM 0 ~AM 6)	2017.12	外来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
	内科系	785 名	281 名	1,066 名	65.4 ^名	23.4 名	88.8 ²
中央病院	外科系	485	154	639	40.4	12.8	53.3
	その他	427	121	548	35.6	10.1	45.7
	内科系	175	74	249	14.6	6.2	20.8
日 赤 病 院	外科系	187	121	308	15.6	10.1	25.7
	その他	78	27	105	6.5	2.3	8.8
	内科系	26	14	40	2.2	1.2	3.3
市立病院	外科系	19	8	27	1.6	0.7	2.3
	その他	1	1	2	0.1	0.1	0.2
	内科系	8	17	25	0.7	1.4	2.1
遠山病院	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	95	11	106	7.9	0.9	8.8
八角病院	外科系	12	2	14	1.0	0.2	1.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	1,024	91	1,115	85.3	7.6	92.9
岩手医大	外科系	686	46	732	57.2	3.8	61.0
	その他	582	92	674	48.5	7.7	56.2
	内科系	16	1	17	1.3	0.1	1.4
高松病院	外科系	24	37	61	2.0	3.1	5.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
栃 内 病 院	外科系	6	6	12	0.5	0.5	1.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	20	12	32	1.7	1.0	2.7
つなぎ温泉病院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	32	8	40	2.7	0.7	3.3
友 愛 病 院	外科系	5	0	5	0.4	0.0	0.4
	その他	3	0	3	0.3	0.0	0.3
	内科系	65	12	77	5.4	1.0	6.4
川久保病院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	65	4	69	5.4	0.3	5.8
	内科系	6	2	8	0.5	0.2	0.7
国立盛岡病院	外科系	13	3	16	1.1	0.3	1.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	2,254	523	2,777	187.8	43.6	231.4
合 計	外科系	1,438	377	1,815	119.8	31.4	151.3
	その他	1,156	245	1,401	96.3	20.4	116.8
40 A 31		4,848	1,145	5,993	404.0	95.4	499.4
総 合 計				1日平均	13.3	3.1	16.4

<外 来 分 布>

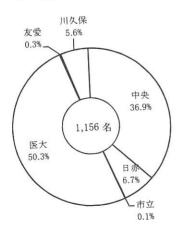
<内 科 系>



<外 科 系>

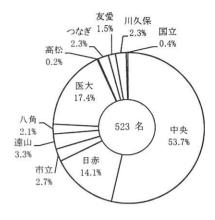


<そ の 他>

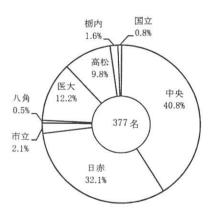


<入院分布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<そ の 他>

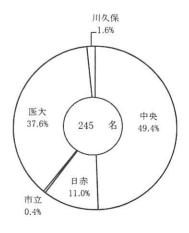
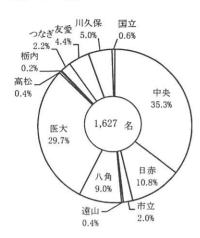


表16 二次体制38年目の外来・入院分布(時間外A)

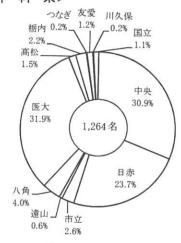
表16 一次体制 385 時 間 外	2017.1~	(総合)			(月 平 均)			
(AM 6 ~AM 9)	2017.12	外 来	入院	合 計	外 来	入院	合 計	
	内科系	575	277	852	47.9	23.1	71.0	
中央病院	外科系	391	167	558	32.6	13.9	46.5	
	その他	252	70	322	21.0	5.8	26.8	
	内科系	176	49	225	14.7	4.1	18.8	
日 赤 病 院	外科系	299	81	380	24.9	6.8	31.7	
	その他	63	12	75	5.3	1.0	6.3	
14	内科系	32	17	49	2.7	1.4	4.1	
市立病院	外科系	33	7	40	2.8	0.6	3.3	
	その他	4	1	5	0.3	0.1	0.4	
	内科系	6	2	8	0.5	0.2	0.7	
遠川病院	外科系	8	0	8	0.7	0.0	0.7	
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
	内科系	146	22	168	12.2	1.8	14.0	
八角病院	外科系	50	7	57	4.2	0.6	4.8	
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
	内科系	483	21	504	40.3	1.8	42.0	
岩 手 医 大	外科系	403	25	428	33.6	2.1	35.7	
ţ-	その他	192	32	224	16.0	2.7	18.7	
	内科系	7	0	7	0.6	0.0	0.6	
高松病院	外科系	19	8	27	1.6	0.7	2.3	
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
	内科系	3	0	3	0.3	0.0	0.3	
栃 内 病 院	外科系	28	0	28	2.3	0.0	2.3	
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
	内科系	36	25	61	3.0	2.1	5.1	
つなぎ温泉病院	外科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2	
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
	内科系	72	10	82	6.0	0.8	6.8	
友 愛 病 院	外科系	15	1	16	1.3	0.1	1.3	
	その他	4	0	4	0.3	0.0	0.3	
	内科系	81	12	93	6.8	1.0	7.8	
川久保病院	外科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2	
	その他	107	4	111	8.9	0.3	9.3	
**************************************	内科系	10	4	14	0.8	0.3	1.2	
国立盛岡病院	外科系	14	4	18	1.2	0.3	1.5	
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
	内科系	1,627	439	2,066	135.6	36.6	172.2	
合 計	外科系	1,264	300	1,564	105.3	25.0	130.3	
***************************************	その他	622	119	741	51.8	9.9	61.8	
60 4 -1		3,513	858	4,371	292.8	71.5	364.3	
総 合 計				1日平均	9.6	2.4	12.0	

<外 来 分 布>

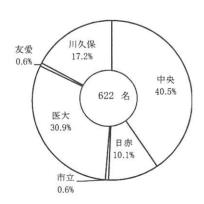
<内 科 系>



<外 科 系>

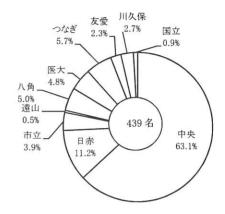


<そ の 他>

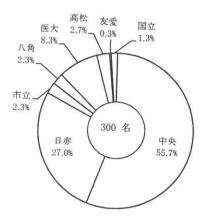


<入 院 分 布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<その他>

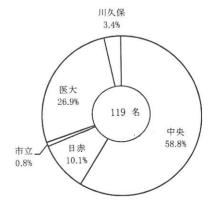
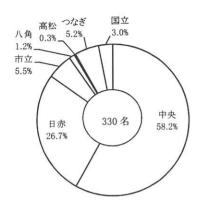


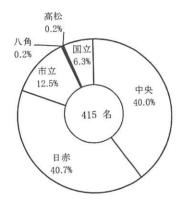
表17 二次体制38年目の外来・入院分布(土曜日(1))

土 曜 日	2017. 1 ~		総 合			月平均)
$(AM 9 \sim AM 0)$	2017.12	外 来	入院	合 計	外 来	入 院	合 計
	内科系	192 名	81 名	273 名	16.0 名	6.8 名	22.8 4
中央病院	外科系	166	66	232	13.8	5.5	19.3
	その他	61	13	74	5.1	1.1	6.2
	内科系	88	26	114	7.3	2.2	9.5
日 赤 病 院	外科系	169	47	216	14.1	3.9	18.0
	その他	31	7	38	2.6	0.6	3.2
	内科系	18	9	27	1.5	0.8	2.3
市立病院	外科系	52	8	60	4.3	0.7	5.0
	その他	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	4	3	7	0.3	0.3	0.6
八角病院	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
高 松 病 院	外科系	1	2	3	0.1	0.2	0.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	17	6	23	1.4	0.5	1.9
つなぎ温泉病院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	.0	0	0	0.0	0.0	0.0
川久保病院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	10	5	15	0.8	0.4	1.3
国立盛岡病院	外科系	26	10	36	2.2	0.8	3.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	330	130	460	27.5	10.8	38.3
合 計	外科系	415	133	548	34.6	11.1	45.7
	その他	94	20	114	7.8	1.7	9.5
.t∈ ∆ ‰		839	283	1,122	69.9	23.6	93.5
総 合 計				1日平均	2.3	0.8	3.1

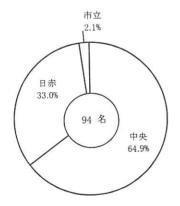
<内 科 系>



<外 科 系>

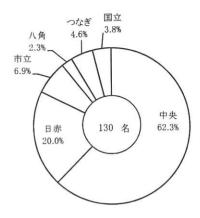


<そ の 他>

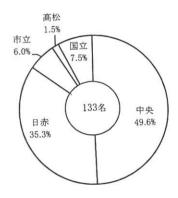


<入 院 分 布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<そ の 他>

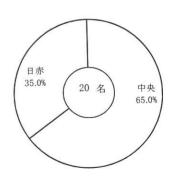
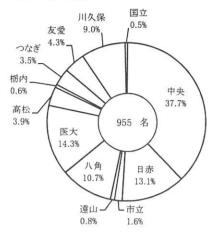


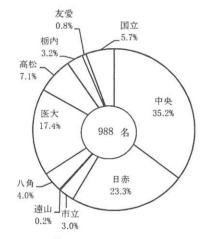
表18 二次体制38年目の外来・入院分布(土曜日(2))

土 曜 日	2017.1~	(;	総 合)	()	(月 平 均)			
(PM 0 ~PM 5)	2017.12	外 来	入 院	合 計	外 来	入院	合 計		
	内科系	360 名	129 名	489 名	30.0 名	10.8 名	40.8 ²		
中央病院	外科系	348	107	455	29.0	8.9	37.9		
	その他	96	17	113	8.0	1.4	9.4		
	内科系	125	32	157	10.4	2.7	13.1		
日 赤 病 院	外科系	230	63	293	19.2	5.3	24.4		
	その他	29	11	40	2.4	0.9	3.3		
	内科系	15	5	20	1.3	0.4	1.7		
市立病院	外科系	30	12	42	2.5	1.0	3.5		
	その他	0	1	1	0.0	0.1	0.1		
	内科系	8	1	9	0.7	0.1	0.8		
遠山病院	外科系	2	1	3	0.2	0.1	0.3		
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0		
	内科系	102	8	110	8.5	0.7	9.2		
八角病院	外科系	40	2	42	3.3	0.2	3.5		
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0		
	内科系	137	17	154	11.4	1.4	12.8		
岩手医大	外科系	172	8	180	14.3	0.7	15.0		
	その他	82	11	93	6.8	0.9	7.8		
	内科系	37	2	39	3.1	0.2	3.3		
高 松 病 院	外科系	70	7	77	5.8	0.6	6.4		
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0		
	内科系	6	0	6	0.5	0.0	0.5		
栃 内 病 院	外科系	32	4	36	2.7	0.3	3.0		
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0		
	内科系	33	7	40	2.8	0.6	3.3		
つなぎ温泉病院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0		
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0		
	内科系	41	4	45	3.4	0.3	3.8		
友 愛 病 院	外科系	8	0	8	0.7	0.0	0.7		
	その他	2	0	2	0.2	0.0	0.2		
	内科系	86	6	92	7.2	0.5	7.7		
川久保病院	外科系	0	1	1	0.0	0.1	0.1		
	その他	214	1	215	17.8	0.1	17.9		
	内科系	5	4	9	0.4	0.3	0.8		
国立盛岡病院	外科系	56	7	63	4.7	0.6	5.3		
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0		
	内科系	955	215	1,170	79.6	17.9	97.5		
合 計	外科系	988	212	1,200	82.3	17.7	100.0		
•	その他	423	41	464	35.3	3.4	38.7		
40 4 -1		2,366	468	2,834	197.2	39.0	236.2		
総 合 計				1日平均	6.5	1.3	7.8		

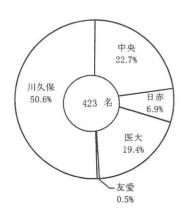
<内 科 系>



<外 科 系>

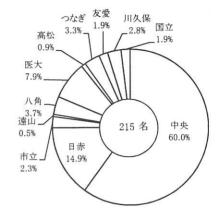


<そ の 他>

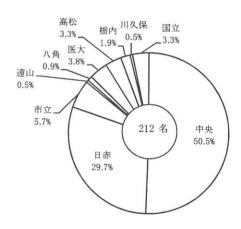


<入院分布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<そ の 他>

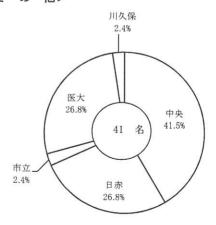
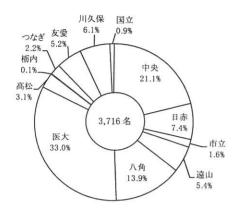


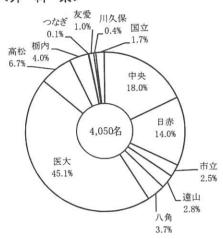
表19 二次体制38年目の外来・入院分布(日祭日)

日	祭 日	2017.1~	(;	総 合)	(,	月平均)
(AN	19~PM5)	2017.12	外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
		内科系	783 名	259 名	1,042 名	65.3 名	21.6 名	86.8
中	央 病 院	外科系	731	163	894	60.9	13.6	74.5
		その他	384	71	455	32.0	5.9	37.9
		内科系	276	76	352	23.0	6.3	29.3
日	赤病院	外科系	567	138	705	47.3	11.5	58.8
		その他	201	38	239	16.8	3.2	19.9
		内科系	59	20	79	4.9	1.7	6.6
市	立 病 院	外科系	103	21	124	8.6	1.8	10.3
		その他	14	1	15	1.2	0.1	1.3
		内科系	201	14	215	16.8	1.2	17.9
遠	山病院	外科系	113	1	114	9.4	0.1	9.5
		その他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
		内科系	515	25	540	42.9	2.1	45.0
1	角病院	外科系	149	4	153	12.4	0.3	12.8
		その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		内科系	1,225	105	1,330	102.1	8.8	110.8
岩	手 医 大	外科系	1,828	89	1,917	152.3	7.4	159.8
		その他	687	88	775	57.3	7.3	64.6
		内科系	116	1	117	9.7	0.1	9.8
高	松病院	外科系	270	31	301	22.5	2.6	25.1
		その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		内科系	4	0	4	0.3	0.0	0.3
栃	内 病 院	外科系	160	9	169	13.3	0.8	14.1
		その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		内科系	81	18	99	6.8	1.5	8.3
77	なぎ温泉病院	外科系	4	0	4	0.3	0.0	0.3
		その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		内科系	195	11	206	16.3	0.9	17.2
友	愛 病 院	外科系	39	0	39	3.3	0.0	3.3
		その他	20	4	24	1.7	0.3	2.0
		内科系	228	18	246	19.0	1.5	20.5
JII	久保病院	外科系	17	7	24	1.4	0.6	2.0
		その他	553	1	554	46.1	0.1	46.2
		内科系	33	14	47	2.8	1.2	3.9
玉	立盛岡病院	外科系	69	7	76	5.8	0.6	6.3
		その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		内科系	3,716	561	4,277	309.7	46.8	356.4
合	計	外科系	4,050	470	4,520	337.5	39.2	376.7
ы	м.	その他	1,860	203	2,063	155.0	16.9	171.9
			9,626	1,234	10,860	802.2	102.8	905.0
総	合 計		0,020	2,201	1日平均	26.4	3.4	29.8

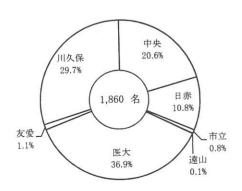
<内 科 系>



<外 科 系>

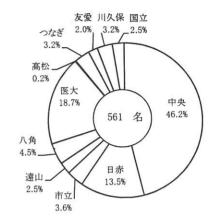


<その他>

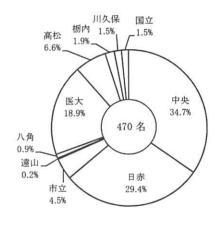


<入院分布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<その他>

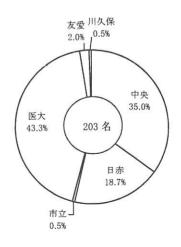
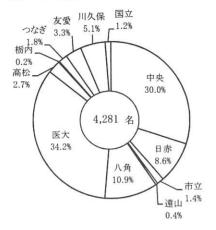


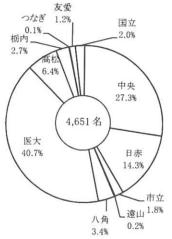
表20 二次体制38年目の外来・入院分布 (時間外B)

時間外	2017.1~		総合)	(月平均)
(PM 5 ~PM 8)	2017.12	外来	入院	合 計	外来	入院	合 計
(11/13 -11/16)	内科系	1,284 ^名	566 名	1,850 名	107.0 名	7 元 47.2 ^名	154.2 名
中央病院	外科系	1,269	296	1,565	105.8	24.7	130.4
7 7 77 75	その他	884	143	1,027	73.7	11.9	85.6
	内科系	370	146	516	30.8	12.2	43.0
日 赤 病 院	外科系	665	271	936	55.4	22.6	78.0
	その他	230	42	272	19.2	3.5	22.7
	内科系	62	35	97	5.2	2.9	8.1
市立病院	外科系	82	21	103	6.8	1.8	8.6
	その他	6	2	8	0.5	0.2	0.7
1	内科系	18	8	26	1.5	0.7	2.2
遠山病院	外科系	7	2	9	0.6	0.2	0.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	467	37	504	38.9	3.1	42.0
八角病院	外科系	157	13	170	13.1	1.1	14.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	1,466	113	1,579	122.2	9.4	131.6
岩 手 医 大	外科系	1,894	75	1,969	157.8	6.3	164.1
	その他	1,097	100	1,197	91.4	8.3	99.8
•	内科系	114	6	120	9.5	0.5	10.0
高 松 病 院	外科系	298	32	330	24.8	2.7	27.5
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	8	4	12	0.7	0.3	1.0
栃 内 病 院	外科系	126	24	150	10.5	2.0	12.5
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	77	46	123	6.4	3.8	10.3
つなぎ温泉病院	外科系	4	0	4	0.3	0.0	0.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	143	21	164	11.9	1.8	13.7
友 愛 病 院	外科系	57	0	57	4.8	0.0	4.8
	その他	14	2	16	1.2	0.2	1.3
	内科系	220	41	261	18.3	3.4	21.8
川久保病院	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	222	2	224	18.5	0.2	18.7
	内科系	52	24	76	4.3	2.0	6.3
国立盛岡病院	外科系	92	11	103	7.7	0.9	8.6
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	4,281	1,047	5,328	356.8	87.3	444.0
合 計	外科系	4,651	745	5,396	387.6	62.1	449.7
	その他	2,453	291	2,744	204.4	24.3	228.7
総合計		11,385	2,083	13,468	948.8	173.6	1,122.3
νici □ □				1日平均	31.2	5.7	36.9

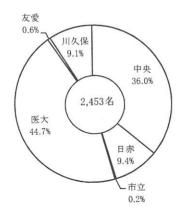
<内 科 系>



<外 科 系>

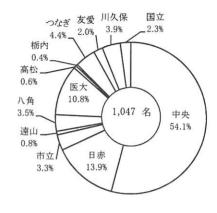


<そ の 他>

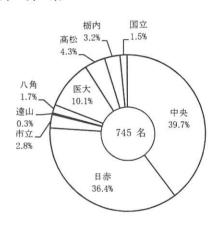


<入 院 分 布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<そ の 他>

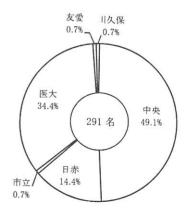


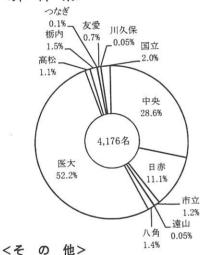
表21 二次体制38年目の外来・入院分布(夜間)

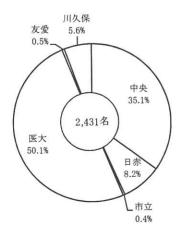
夜 間	2017.1~		総 合		(,		
(PM 8 ∼PM12)	2017.12	外 来	入 院	合 計	外 来	入院	合 計
	内科系	1,354 ^名	404 名	1,758 名	112.8 名	33.7 名	146.5 [*]
中央病院	外科系	1,193	240	1,433	99.4	20.0	119.4
	その他	854	121	975	71.2	10.1	81.3
	内科系	298	105	403	24.8	8.8	33.6
日赤病院	外科系	465	185	650	38.8	15.4	54.2
48	その他	200	44	244	16.7	3.7	20.3
	内科系	48	17	65	4.0	1.4	5.4
市立病院	外科系	51	12	63	4.3	1.0	5.3
	その他	9	3	12	0.8	0.3	1.0
	内科系	12	18	30	1.0	1.5	2.5
遠山病院	外科系	2	1	3	0.2	0.1	0.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	328	33	361	27.3	2.8	30.1
八角病院	外科系	59	1	60	4.9	0.1	5.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	1,881	141	2,022	156.8	11.8	168.5
岩手医大	外科系	2,181	72	2,253	181.8	6.0	187.8
	その他	1,219	126	1,345	101.6	10.5	112.1
	内科系	20	0	20	1.7	0.0	1.7
高 松 病 院	外科系	45	20	65	3.8	1.7	5.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	6	0	6	0.5	0.0	0.5
栃 内 病 院	外科系	63	7	70	5.3	0.6	5.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	35	20	55	2.9	1.7	4.6
つなぎ温泉病院	外科系	3	0	3	0.3	0.0	0.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	80	14	94	6.7	1.2	7.8
友愛病院	外科系	30	1	31	2.5	0.1	2.6
24 24 11 12	その他	12	2	14	1.0	0.2	1.2
	内科系	160	30	190	13.3	2.5	15.8
川久保病院	外科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
7.17 ()1.713.152	その他	137	2	139	11.4	0.2	11.6
	内科系	18	12	30	1.5	1.0	2.5
国立盛岡病院	外科系	82	11	93	6.8	0.9	7.8
1-0/1 0 1/0	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	内科系	4,240	794	5,034	353.3	66.2	419.5
合 計	外科系	4,176	550	4,726	348.0	45.8	393.8
ы п	その他	2,431	298	2,729	202.6	24.8	227.4
21	C 10 IE	10,847	1,642	12,489	903.9	136.8	1,040.8
総 合 計		10,011	1,012	1日平均	29.7	4.5	34.2

< 外 来 分 布> < 内 科 系>

つなぎ 友愛 川久保 1.9% _3.8% 国立 栃内 0.8%¬ _0.4% 0.1%_ 高松 0.5% 中央 31.9% 4,240 名 医大 44.4% 日赤 Q.0% 八角 7.7% 市立 1.1% 遠山 0.3%

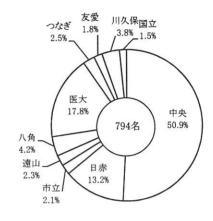
<外 科 系>



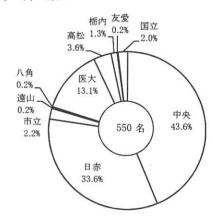


<入院分布>

<内 科 系>



<外 科 系>



<そ の 他>

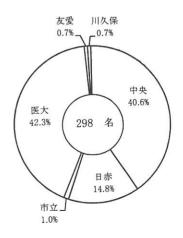
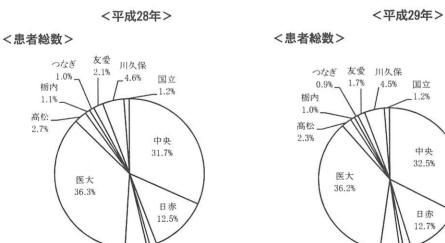


表22 盛岡地区二次救急患者動態(前年との比較)

庄 险 夕	外来	患者数	入院	患者数	救急車搬	入患者数	総	数
病院名	平成28年	平成29年	平成28年	平成29年	平成28年	平成29年	平成28年	平成29年
中央病院	13,728	12,874	3,595	3,746	4,276	4,641	17,323	16,620
日赤病院	5,453	4,922	1,367	1,595	1,397	1,583	6,820	6,517
市立病院	604	666	184	215	183	210	788	881
遠川病院	306	387	68	65	67	66	374	452
八角病院	2,395	2,125	199	168	198	202	2,594	2,293
岩手医大	18,557	17,239	1,291	1,252	504	471	19,848	18,491
高松病院	1,276	1,038	181	147	362	327	1,457	1,185
栃内病院	523	444	66	54	121	90	589	498
つなぎ温泉病院	432	312	119	134	114	124	551	446
友愛病院	1,027	772	121	78	154	147	1,148	850
川久保病院	2,370	2,159	148	141	173	180	2,518	2,300
国立盛岡病院	470	486	168	118	198	175	638	604
合 計	47,141	43,424	7,507	7,713	7,747	8,216	54,648	51,137

(高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。)

図18 二次救急患者病院別分布(前年との比較)



一市立

1.4%

遠山

0.7%

八角」

4.7%

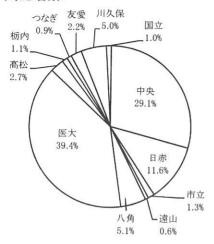
国立

1.2%

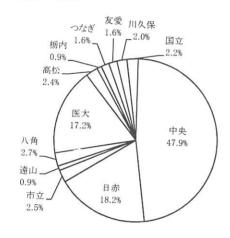
中央

<平成28年>

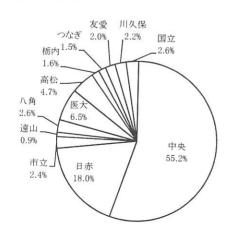
<外来患者数>



<入院患者数>

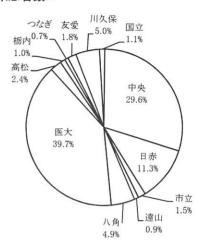


<救急車搬入患者数>

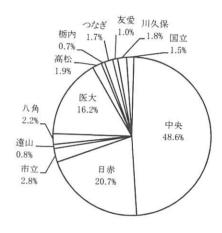


<平成29年>

<外来患者数>



<入院患者数>



<救急車搬入患者数>

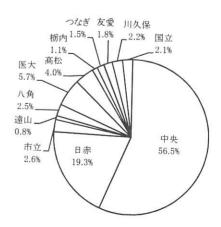
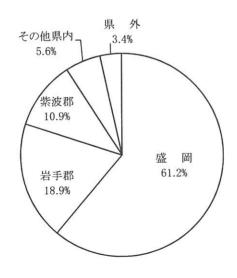


表23 市町村別二次救急患者動態(平成29年1月~12月)

20	112-7 1 2 22 2	- 343X101101 H 201101 (1 114-1		
ŕ	片町村	外来患者数	入院患者数	合 計
盛	岡	27,141	4,144	31,285
雫	石	1,100	286	1,386
葛	巻	97	55	152
岩	手	1,058	275	1,333
淹	沢	4,035	655	4,690
紫	波	2,383	600	2,983
矢	ф	2,183	414	2,597
八	幡 平	1,727	359	2,086
そ(の他県内	2,225	662	2,887
県	外	1,475	263	1,738
合	計	43,424	7,713	51,137

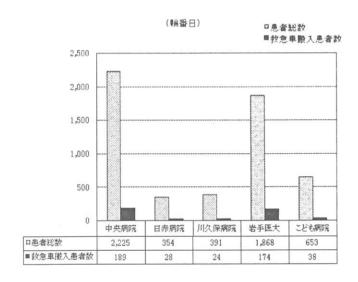
図19 <地区別患者比較>



小児救急病院群輪番制18年目のまとめ

図20~22および表24~27に小児救急病院別の輪番日の受診者数と輪番日以外の受診者数、各病院別受診者数を示す。小児救急患者の総数は8,157名で、うち救急車搬入患者数は601名(7.4%)であった。輪番日の受診者数は5,491名(総数の67.3%)、救急車搬入数453名(輪番日受診者の8.2%)、1コマ単位平均11.3人であった。輪番日以外の受診者数は2,666名(総数の32.7%)、救急車搬入数148名(輪番日以外受診者の5.6%)、1コマ単位平均1.38人であった。病院別では、総数では岩手医大が3,218名(39.5%)と最も多く、1コマ平均では医大が14.85人、中央病院が13.34人と多かった。入院を必要とした患者は平均1.33人であった。輪番日以外日の受診者数は年々減少しており、従来より受診者の多い中央病院(前年比134人)、岩手医大(前年比156人)の減少が顕著である。輪番体制が市民に浸透してきた結果と思われる。

図20 病院患者総数



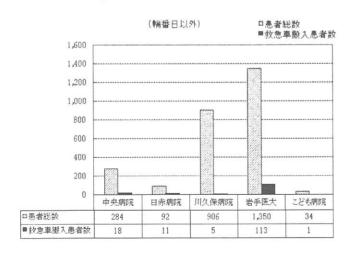


表24 小児救急患者病院別合計表(輪番日)

平成29年1月~12月

病	院	外	来	入	院		総	数	
7173	BC	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車搬入患者数	比 率
中 央	病院	1,935 ^名	39.4 %	290 ^名	49.7 %	2,225 名	40.5 %	189 ^名	41.7 %
日 赤	病院	299	6.1	55	9.4	354	6.4	28	6.2
川久伊	呆病 院	382	7.8	9	1.5	391	7.1	24	5.3
岩 手	医 大	1,717	35.0	151	25.9	1,868	34.0	174	38.4
もりおかさ	こども病院	574	11.7	79	13.5	653	11.9	38	8.4
合	計	4,907	100	584	100	5,491	100	453	100

表25 1コマあたりの病院別小児救急患者数(輪番日)

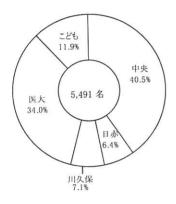
平成29年1月~12月

中 10	外 来	· 入	院	総	数
病院	患 者 数	患	者 数	患 者 数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 🏿	完 10.79	人	1.62 人	12.41 人	1.06 人
日 赤 病 🏿	元 7.85		1.44	9.29	0.73
川久保病	完 10.30		0.24	10.53	0.63
岩 手 医 カ	9.59		0.84	10.44	0.97
もりおかこども病	完 11.25		1.55	12.80	0.75
平 均	10.13		1.20	11.33	0.93

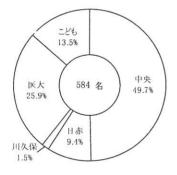
※もりおかこども病院、川久保病院は休日救急当番医の来院患者数も含む。

図21 小児救急病院別患者比率 (輪番日)

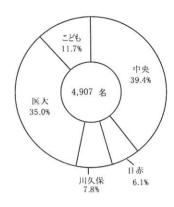
<総患者比率>



<入院患者比率>



<外来患者比率>



<救急車搬入患者比率>

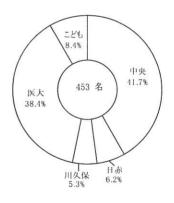


表26 小児救急患者病院別合計表(輪番日以外)

平成29年1月~12月

		外	来	入	院		総	数	
病	院	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち教急車戦人駐散	比 率
中 央 病	院	231 ^名	9.6%	53 ^名	21.0 %	284 ^名	10.7 %	18 ^名	12.2
日 赤 病	院	64	2.7	28	11.1	92	3.5	11	7.4
川久保掘	亨院	901	37.3	5	2.0	906	34.0	5	3.4
岩 手 医	大	1,198	49.6	152	60.3	1,350	50.6	113	76.4
もりおかこど	b 病院	20	0.8	14	5.6	34	1.3	1	0.7
合	計	2,414	100	252	100	2,666	100	148	100

表27 1コマあたりの病院別小児救急患者数(輪番日以外)

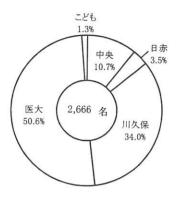
平成29年1月~12月

12/20 1 2 / 2 / 2				
	外来	入 院	総	数
病院	患者数	患 者 数	患 者 数	うち救急車搬入患者数
中央病院	0.76 人	0.17 人	0.93 人	0.06 人
日 赤 病 院	0.14	0.06	0.21	0.02
川久保病院	2.01	0.01	2.02	0.01
岩 手 医 大	3.92	0.49	4.41	0.37
もりおかこども病院	0.05	0.03	0.08	0.002
平 均	1.25	0.13	1.38	0.08

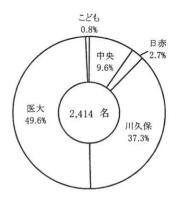
※もりおかこども病院、川久保病院は休日救急当番医の来院患者数も含む。

図22 小児救急病院別患者比率 (輪番日以外)

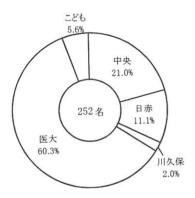
<総患者比率>



<外来患者比率>



<入院患者比率>



<救急車搬入患者比率>

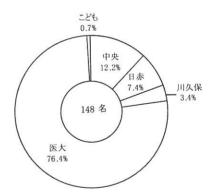


表28 小児救急患者市町村別合計表(輪番日)

平成29年1月~12月

市	шт 1-1	外	来	入	院	総	数
111	町 村	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛	岡	2,990 名	60.9 %	315 名	53.9 %	3,305 名	60.2 %
雫	石	91	1.9	16	2.7	107	1.9
葛	巻	12	0.2	1	0.2	13	0.2
岩	手	87	1.8	14	2.4	101	1.8
滝	沢	534	10.9	49	8.4	583	10.6
紫	波	264	5.4	40	6.8	304	5.5
矢	цı	326	6.6	46	7.9	372	6.8
八	幡平	234	4.8	31	5.3	265	4.8
小	計	4,538	92.5	512	87.7	5,050	92.0
その	の他県内	203	4.1	45	7.7	248	4.5
県	外	166	3.4	27	4.6	193	3.5
合	計	4,907	100	584	100	5,491	100

表29 1コマあたりの市町村別小児救急患者数(輪番日)

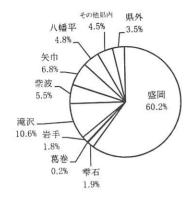
平成29年1月~12月

市	町 村	外	来	入	院	総	数	
111	町 村	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	
盛	岡	6.18 名	61.0 %	0.65 名	54.0 %	6.83 名	60.3 %	
雫	石	0.19	1.9	0.03	2.8	0.22	2.0	
葛	巻	0.02	0.2	0.002	0.2	0.03	0.2	
岩	手	0.18	1.8	0.03	2.4	0.21	1.8	
滝	沢	1.10	10.9	0.10	8.3	1.20	10.6	
紫	波	0.54	5.4	0.08	6.8	0.63	5.5	
矢	ф	0.67	6.6	0.09	7.9	0.77	6.8	
八	幡平	0.48	4.8	0.06	5.3	0.55	4.8	
小	計	9.37	92.5	1.05	87.7	10.42	92.0	
その)他県内	0.42	4.2	0.09	7.8	0.51	4.5	
県	外	0.34	3.4	0.05	4.6	0.39	3.5	
合	計	10.13	100	1.20	100	11.33	100	

図23 小児救急市町村別患者比率(輪番日)

図24 小児救急郡市別患者比率(輪番日)

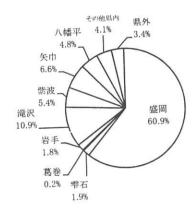
<総患者比率>



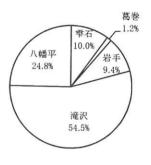
<地区別患者比率>



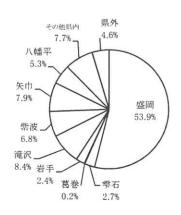
<外来患者比率>



<岩手郡患者比率>



<入院患者比率>



<紫波郡患者比率>

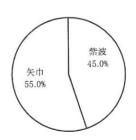


表30 小児救急患者市町村別合計表(輪番日以外)

平成29年1月~12月

		外	来	入	院	総	数		
市	町村	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率		
盛	岡	1,569 名	65.0 %	124 名	49.2 %	1,693 名	63.5 %		
雫	石	50	2.1	8	3.2	58	2.2		
葛	巻	2	0.1	0	0.0	2	0.1		
岩	手	21	0.9	5	2.0	26	1.0		
滝	沢	222	9.2	21	8.3	243	9.1		
紫	波	119	4.9	10	4.0	129	4.8		
矢	巾	142	5.9	19	7.5	161	6.0		
八	幡平	72	3.0	11	4.4	83	3.1		
小	計	2,197	91.0	198	78.6	2,395	89.8		
その)他県内	110	4.6	40	15.9	150	5.6		
県	外	107	4.4	14	5.6	121	4.5		
合	計	2,414	100	252	100	2,666	100		

表31 1コマあたりの市町村別小児救急患者数(輪番日以外)

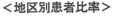
平成29年1月~12月

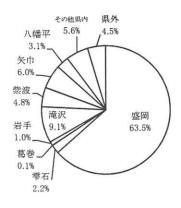
		外	来	入	院	総	数		
市	町 村	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率		
盛	岡	0.81 名	65.1 %	0.06 名	49.4 %	0.88 名	63.7 %		
雫	石	0.03	2.1	0.004	3.1	0.03	2.2		
葛	巻	0.001	0.1	0.0	0.0	0.001	0.1		
岩	手	0.01	0.9	0.003	2.0	0.01	1.0		
滝	沢	0.11	9.1	0.01	8.2	0.12	9.1		
紫	波	0.06	4.9	0.01	3.9	0.07	4.8		
矢	巾	0.07	5.8	0.01	7.7	0.08	6.0		
八	幡平	0.04	3.0	0.01	8.3	0.05	3.5		
小	計	1.13	91.0	0.10	78.7	1.24	89.9		
70	D他県内	0.06	4.6	0.02	15.8	0.08	5.6		
県	外	0.05	4.4	0.01	5.5	0.06	4.5		
合	計	1.25	100	0.13	100	1.38	100		

図25 小児救急市町村別患者比率(輪番日以外)

図26 小児救急郡市別患者比率(輪番日以外)

<総患者比率>

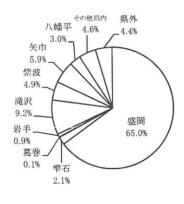


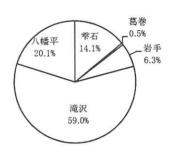




<外来患者比率>

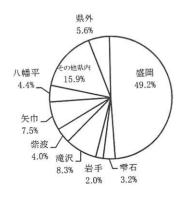
<岩手郡患者比率>

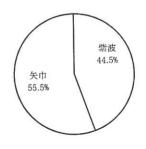




<入院患者比率>

<紫波郡患者比率>





2. 経過報告

平成29年

1月6日(金)	夜間急患診療所40周年記念誌に係る座談会
17日(火)	第147回小児救急電話相談事業事例検討会
30日(月)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
2月11日 (土)	平成28年度第 2 回盛岡市夜間急患診療所運営協議会 盛岡市夜間急患診療所40周年記念式典
21日(火)	第148回小児救急電話相談事業事例検討会
22日(水)	平成28年度小児科救急医師研(岩手西北医師会担当)
27日(月)	盛岡地区二次救急医療対策委員会
3月3日(金)	盛岡地区二次救急医療病院事務長会議
22日(水)	第149回小児救急電話相談事業事例検討会
23日(木)	第13回岩手県医師会小児救急電話相談事業運営協議会
27日(月)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
4月18日(火)	第150回小児救急電話相談事業事例検討会
28日(金)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
"	第1回救急医療体制のあゆみ編集委員会
5月16日(火)	第151回小児救急電話相談事業事例検討会
22日(月)	盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会(小児輪番に係る)
29日(月)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
6月20日(火)	第152回小児救急電話相談事業事例検討会
27日(火)	盛岡地区二次救急医療対策委員会
7月4日(火)	盛岡地区二次救急医療病院事務長会議
8日(土)	平成29年度盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会
14日(金)	盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会
19日(水)	第153回小児救急電話相談事業事例検討会
25日(火)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
"	第2回救急医療体制のあゆみ編集委員会
31日(月)	第14回盛岡救急医療人のつどい
8月7日(月)	平成29年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議
18日(金)	第154回小児救急電話相談事業事例検討会
26日(土)	平成29年度岩手県総合防災訓練(盛岡市総合防災訓練と合同)
29日(火)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
9月1日(金)	第35回救急医療学術講演会(初期·二次·高次救急医療研修会)
20日(水)	第155回小児救急電話相談事業事例検討会
29日(金)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
10月17日(火)	第156回小児救急電話相談事業事例検討会
31日(火)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
11月21日(火)	第157回小児救急電話相談事業事例検討会
28日(火)	盛岡地区二次救急医療対策委員会
12月11日(月)	盛岡地区二次救急医療病院事務長会議
19日(火)	第158回小児救急電話相談事業事例検討会
25日(月)	盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会

3. 平成29年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議

日 時:平成29年8月7日(月) 午後1時

場 所:盛岡市保健所 7 階大ホール



【報告】

- (1)平成28年度盛岡地区二次救急医療補助事業決算
 - ①平成28年度盛岡地区二次救急医療事業 決算書
 - ②平成28年度盛岡地区二次救急医療事業(小児救急)決算書
- ①、②の報告があり、質問等なく了承された。

【協議】

- (1)平成29年度盛岡地区二次救急医療補助事業予算について
 - ①平成29年度盛岡地区二次救急医療事業 予算書
 - ②平成29年度盛岡地区二次救急医療事業(小児救急)予算書
- (2)平成29年度盛岡地区二次救急医療補助事業市町別負担金について
 - ①平成29年度盛岡地区二次救急医療事業市町別負担金割当表
 - ②平成29年度盛岡地区二次救急医療事業

市町別負担金割当表 (小児救急)

上記(1)、(2)についていずれも例年通り、 問題なく了承された。

【その他】

盛岡地区二次救急医療対策委員会会計 (平成28年度決算及び平成29年度予算)に ついて、市医師会より報告され了承された。

最後に、盛岡市保健所企画総務課医事薬 事係 宮野薬剤主査より、もりおかこども 病院の小児輪番体制変更に伴う、市町の広 報誌及びホームページ等の掲載方法につい て、祝日の土曜日は"午後1時から午後5 時まで"では無く、"午前9時から午後5 時まで"と掲載していただきたいとの要望 があった。また、和田盛岡市医師会長から も、夜間急患診療所等、初期救急医療体制 に関する表現を各市町でも統一した内容で 掲載して欲しいとの要望が同様にあった。

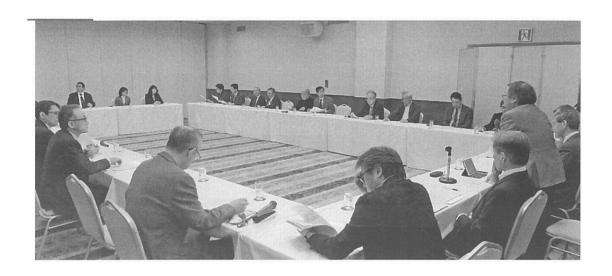
(久保直彦)

					出	席	3		者		
盛品	引地[玄二	次羽	急	委員長	和	田	利	彦	盛岡市医師会	(会長)
100000000000000000000000000000000000000	医療対策委員会			常任委員	野	崎	英	_	盛岡市医師会	(副会長)	
					常任委員	吉	田	耕人	で郎	盛岡市医師会	(副会長)
					常任委員	金	子	博	純	盛岡市医師会	(副会長)
					常任委員	本	間		博	盛岡市医師会	(総務部長)
					常任委員	久	保	直	彦	盛岡市医師会	(救急医療対策部長)
					事務局長	及	Ш	敬一	一郎	盛岡市医師会	(事務局長)
					事務局員	水	本	達	彦	盛岡市医師会	(次長)
					事務局員	佐	藤	泰	之	盛岡市医師会	(係長)
県	央	保	健	所	医療介護課長	JII	村	康	範		
					主事	坂	下	雄	飛		
八	幡		平	市	健康福祉課長	渡	辺		信		
滝		沢		市	健康推進課長	熊	谷	多	美子		
雫		石		町	健康推進課 課長補佐	Щ	崎	欣	広		
葛		巻		町	健康福祉課長	楢	木	幸	夫		
岩		手		田丁	健康福祉課 地域医療対策室長	本	田	桂	_		
紫		波		町	長寿健康課長	森	Ш	_	枝		
矢		ф		町	健康長寿課長	村	松		徹		
盛		岡		市	保健所長	高	橋	清	実		
					保健所次長 兼企画総務課長	藤	井	優	子		
					保健所企画総務課 課長補佐	佐	々木	_	憲		
					保健所企画総務課 医事薬事係長	開	米		洋		
					保健所企画総務課 医事薬事係薬剤主査	宮	野	直	子		

4. 盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時:平成29年2月27日(月) 午後7時

場 所:ホテルロイヤル盛岡



冒頭、盛岡市医師会の和田利彦会長より「年間を通して、救急体制について、大きい混乱は無かったようである。お陰様で、小児輪番体制もうまくいっている。初期救急については、二次救急を維持していくために、医療ニーズにあった体制を構築することが大事であると考えている。平成29年度の早めの段階で、岩手医大移転後の救急医療体制について、具体的なご提案を申し上げていきたい」との挨拶があった。

【報告】

- 1. 1月分患者データについて:二次救急 患者の総数は4,916名で例年並みであっ たが、救急車搬送が755名と増加した。 小児救急輪番日総数は382名と例年より 減少した。輪番日以外も172名と減少し ている。
- 2. 平成27年~28年の患者データについて (1)二次救急:総数54,648名と前年より減 少し、救急車搬入数も7,747名と減少

した。

- (2)小児救急:輪番日総数5,973名と前年より増加し、輪番日以外2,906名と減少した。
- 3. 第148回小児救急電話相談事業事例検 討会(2/21)及び平成28年1月~12月 分データについて
- 4. 3月分二次救急病院当番表について: 事前協議通りになった。
- 5. 平成29年度医療提供体制推進事業に係る事業計画の採択について:今年度の募集に対して当地区より、もりおかこども病院が申請していたが、県の協議により他の医療機関に決定された。
- 6. その他:盛岡市医師会より、昨年の岩 手国体において各医療機関より100名を 超える医師、看護師の派遣をいただいた ことへのお礼と無事終了したことが報告 された。

【協議】

1. 平成29年度二次救急当番表の変更願い について(日赤より): 盛岡赤十字病院 より

A群輪番制について、来年度の医師減 少が見込まれ、3日に1回の輪番病院維 持が困難になることが予想されるため、 回数削減のお願いがあり、了承された。

2. 平成29年度二次・小児当番表(案)について:上記の通り赤十字病院の輪番回数

を削減した事務局案が了承された。

- 3. 平成29年4月~6月分の小児救急当番表(案)の公表について:了承された。
- 4. 平成29年度二次救急対策委員会運営予算(案)について:原案通り了承された。
- 5. 医大移転後の救急医療体制について: まだ進展はなく、今後とも協議していく。
- 6. 今後の日程について

(久保直彦)

	Ш		席	者
委 員 長	和 田	利	彦	
常任委員				
鈴 木 健 二	千 田	勝	_	菅 原 孝 行
田中健太郎	近藤	公	亮	久 保 直 彦
宮田剛	関	博	文	野崎英二
吉田耕太郎	金子	博	純	本間博
金濱誠己	久保田	公	宜	小 林 有 一
智田文徳	佐 藤	直	也	臼 井 由紀子
委員				
杉 山 徹	井 上		博	森 野 禎 浩
望 月 泉	松 田	壯	正	加 藤 章 信 (代理 佐々木一裕)
千 葉 知	髙 松	正	之	白 石 秀 夫
菊 池 喜 博	遠藤	重	厚	(代理 中島 隆之)
米 沢 俊 一	田村		茂	八角有紀
高橋邦尚	木 村	宗	孝	
岩手県県央保健所				
所 長	菅 原		智	
医療介護課 医療チーム主査	糖森	教		
医療月護跡 医療アーム主国	作求 木木	狄	仏比	
盛岡市保健所				
所 長	高橋	清	実	
次長兼企画総務課長	藤井	優	子	
盛岡市医師会事務局				
事務局長	永 井		亮	*
係長	佐 藤	泰	之	

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時: 平成29年6月27日(火) 午後7時

場 所:盛岡グランドホテル



【報告】

1. 委員の異動に伴う、常任委員・対策委員の変更について:

岩手医科大学、県立中央病院の人事に 伴う変更があった。

2. 5月分患者データについて:

総数4,835名と例年並みであった。救 急車搬送患者は674名と若干増加した。 小児救急輪番日は総数530名と例年並み であった。

- 3. 27~28年度毎の患者データについて: 平成28年度は総数52,986名と前年より 減少しているが、28年度から岩手県高度 救命救急センターのデータを含まずに集 計しているためである。岩手県高度救命 救急センターの総数は1,176名である。 救急車搬送患者は7,918名と8,000名を割 り込んだ。小児救急輪番日は5,644名と 前年度と変わりはなかった。
- 4. 二次救急対策委員会小委員会(小児輪番に係る:5/22):盛岡こども病院より、

輪番を土曜日日中のみに変更の希望があり、小委員会で了承され、輪番予定を変更したことが布告された。

- 5. 第152 回小児救急電話相談事業事例検 討会 (6/20) 及び H28.4 月から H29.5 月までのデータについて
- 6. 平成29年度岩手県総合防災訓練 第2回 参加機関打合せ(6/26)

8月26日出に開催される防災訓練の概要について報告された。

7.「第14回盛岡救急医療人のつどい」の 開催について:関係医療機関に案内を送 付した。

日 時:7月31日(月) 午後7時

場 所:盛岡グランドホテル

テーマ: 「盛岡地区広域消防組合消防 本部の新機能 |

8. 第35回救急医療学術講演会について

日 時: 9月1日(金) 午後6時40分

場 所:岩手県医師会館

内 容:佐賀県医療センター好生館

総合教育研修センター(前救命救急 センター長)藤田尚宏氏をお招きし、 救急医療システム、熊本地震等につ いてご講演いただく予定。

【協議】

- 1. 7月分二次救急病院当番表について: 原案通り了承された。
- 2. 7月以降の二次・小児救急当番表(案) について:

2月の小児輪番について若干の変更要 請があることを含め原案通り了承され た。

て承認された。

- 3. 7月~9月分及び10月~12月分の小 児救急入院受入当番表(案)について: 原案通り了承された。
- 4. 平成28年度二次救急対策委員会一般会 計及び特別会計決算について: 事務局より説明があり、両決算につい
- 5. 医大移転に伴う今後の救急医療体制に ついて:特に大きな進展は無い。

(久保直彦)

			出		席	耆					
委員長	和	田	利	彦				松	田	壯	正
MR ROMENTAL COLD				F1750.00				加	藤	章	信
常任委員		上	義	博				(代:			木一裕)
	10.70	Щ	耕大					髙	松		之
		原		誠				白	石	秀	夫
		中	健大					千	葉	_	知一
		藤	公					遠	藤	重	厚
		保一	直	彦				田	村		茂
		田	1-44	剛				菊	池	喜	博
	関	James	博	文				八	角	有	紀
		崎		_				米	沢	俊	
		田	耕力					高	橋	邦	尚
		子	博	純				木	村	宗	孝
	000	間	=-12	博		4 7 1 1 1					
		濱	誠	己			快保健所	111	+-+	rin	44
	久保		公	宜			護課長)	村一	康	範
		林田	有			医療汀	護課主事	坂	下	雄	飛
	200	田	文	徳		et m ± /c					
		藤井	直中	也		盛岡市保		古	括	清	#
	臼	井	由約	<u>C </u>		所	長	高	橋	洞	実
* B	+-:	r I i		结片		成四十四	「「「「」				
委員		山	抽焦	徹地		事務	師会事務局	及	Ш	芸4-	一郎
	(井 森	上野	義禎	博) 浩		争伤。	同 女 長	佐	藤		之
	100000000000000000000000000000000000000	野月	快	泉		ारा	攻	ΝŢ	HSK	SIC	K
	主	H		水	I.						

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時:平成29年11月28日(火) 午後7時

場 所:ホテル東日本 鳳凰の間



【報告】

- 1.10月分患者データについて:二次救急患者の総数は4,249名で昨年と同様であった。 救急車搬送が714名であった。小児救急輪番日総数は480名と例年より減少した。輪番日以外も177名と減少している。参考として夜間急患診療所、休日当番医のデータ報告があるが、例年より減少しており、11月になってもインフルエンザ発症者の報告はほとんど無かった。
- 2. 27~28年の患者データについて:
 - (1)二次救急: 本年1月~10月の総数 42,873名、月平均4,287名と例年より減少した。救急車搬入数も6,395名と減少した。
 - (2)小児救急:輪番日総数4,579名、月平均457.9名と前年より増加し、輪番日以外2,069名、月平均206.9名とともに減少した。
- 3. 第157回小児救急電話相談事業事例検討会(11/21)及び平成29年1月~10月分データについて
- 4. 医療提供体制推進事業費補助金(医療提

- 供体制設備整備事業)について:盛岡つな ぎ温泉病院からの申請を適当妥当と常任委 員会で決定し盛岡市へ回答した。
- 5. 平成29年度小児科医師研修事業ブロック 別研修会の開催について:紫波郡医師会の 主催で、平成30年2月14日ホテルロイヤル 盛岡にて開催予定。

【協議】

- 1.12月分二次救急病院当番表について:原 案通り了承された。
- 2. 平成30年1~3月小児当番表(案) について:原案通り了承された。
- 3. 平成30年度二次救急・小児救急輪番日程 (案) について:今年度の実績をもとに事 務局案が提案され、各施設持ち帰り検討の 上、次回以降の常任委員会・対策委員会で 決定することになった。
- 4. 広報もりおかへの年末年始の救急医療態勢記事掲載について:原案通り了承された。
- 5. 医大移転後の救急医療体制について:ま

(久保直彦)

	出		席		音				
委 員 長		和	田	利	彦				
常任委員									
井 上 義 博			Щ	耕っ		須	原		誠
田中健太郎		近	藤		亮	久	保	直	彦
宮 田 剛		関		博	文	野	崎	英	=
吉 田 耕太郎			子	博	純	本	間	20012021	博
金濱誠己			田果	公		小	林	有	_
智田文徳		佐	藤	直	也	臼	井	由統	记子
委員					ME	40	_		
杉 山 徹		森	野	禎	浩	望	月	_	泉
松田壯正		加一	藤	章	信	髙	松	正	之
白石秀夫		千	葉	-	知	遠	藤	重	厚
田村茂		菊	池	喜	博	米	沢	俊	
八角有紀		高	橋	邦	尚	木	村	宗	孝
光子周周由<i>旧</i>牌 式	55	=				菅	原		智
岩手県県央保健所	所	長	⊞→⊤	da de		坂	下	雄	飛
**	医療介	一碳	床土			400	Р	仏肚	716
盛岡市保健所	所	長				高	橋	清	実
盈间门床庭川	次長第		面級	※ ●	E	藤	井	優	子
	/\ I\	KTC	드네시아	が成	LX.	BAK	71	逐	- J
盛岡市医師会事務局	事務周	司長				及	Ш	敬-	一郎
m1~3115 5247 343010	次	長				水	本	達	彦
	係	長				佐	藤	泰	
	N	1				r-L	1345	~	
				1000					

5. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会

と き:平成29年5月22日(月) 午後7時

ところ:盛岡市医師会館 会議室

司 会:盛岡市医師会 救急医療対策部

部長久保直彦

出 席 者

岩手医科大学小児科学講座	教授			小	Ш	耕え	で郎
岩手医科大学小児科学講座	講師	(医局	長)	石	Ш		健
岩手県立中央病院		小児	科長		上		仁
盛岡赤十字病院		小児	科部長	田	中	健え	は郎
もりおかこども病院		院	長	米	沢	俊	_
川久保病院		小児	科長	蒔	苗		剛
盛岡市医師会小児科医会		会 長		臼	井	由約	己子
盛岡市医師会救急医療対策部	ß	部	長				
盛岡地区二次救急医療対策委	会員多	常任	委員	久	保	直	彦
盛岡市医師会		副名	₹ 長	野	崎	英	
		/	,	吉	田	耕ス	比郎
		/	,	金	子	尃	純
盛岡地区二次救急医療対策委	会員等	常任	委員	金	濱	誠	己
<i>"</i>		/	,	小	林	有	

一次第一

挨拶

議題

- 1 各小児救急輪番病院の現状と要望事項等について
- 2. 小児輪番制に関するお願いについて(こども病院より)
 - ・こども病院米沢院長より医師の減少と高齢化により夜間の急患対応が難しくなり、土曜日日 中のみの輪番当番に変更の申し出があり了承された。
- 3. 7月以降の輪番体制について
 - ・各土曜日の日中はこども病院の輪番とし、夜間は県立中央病院と岩手医科大学に振り分ける 今年度の変更案が提案され、了承された。
- 4. 7月~9月分の小児救急入院受入当番表(案)について
 - ・提案通り了承された。
- 5. 小児救急入院受入当番の変更に伴う、関係機関への周知について
 - ・各市町で広報内容を統一して欲しいこと、軽症患者の当番医、夜間急患診療所へ誘導する表現などや、またこども救急電話相談事業もアピールして欲しいなど意見があり、二次救急関係市町会議の場で要望する。
- 6. 今後の救急医療体制について
 - ・現状では小児救急の輪番制度が市民に周知され、岩手医大への輪番日以外の患者数が減少し、 入院受け入れも問題ないので、この輪番体制を維持し、夜間急患診療所、日曜当番医との連 携で対応可能な見込みであることが話し合われた。

6. 第14回 盛岡救急医療人のつどい

日 時:平成29年7月31日(月) 午後7時

場 所:盛岡グランドホテル



和田利彦会長のご挨拶の後、今回は「盛岡 地区広域消防組合消防本部の新機能」をテー マに研修会を開始した。

1. 研修会及びディスカッション テーマ「盛岡地区広域消防組合消防本部の新機能」



(1)演題:「救急活動状況及 び岩手県央消防指令セン ターの概要について|

講師:盛岡中央消防署

救急救助係主査

消防司令補

岩﨑 淳氏

講演要旨:盛岡地区広域消防組合消防本部 は、救急隊18隊281名で運用されている。救 急隊員の内訳は、救急救命士104名、救急隊 員199名(標準課程、Ⅱ課程)で、3市5町 の救急業務を担っている。今年度から、盛岡 中央消防署松園出張所の救急車が高規格救急 車に更新となり、救急救命士が配置され、当 消防本部の救急車は、すべて高規格救急車と なった。平成27年中の全国の救急出動件数は、 605万4.815件、搬送人員547万8.370人となっ ており、増加の傾向が続いている。全国では、 救急車の出動が、5.2秒に1回の割合で出動 し、国民の23人に1人が搬送されている状況 である。全国の事故種別ごとの割合を見てみ ると、急病が全体の60%以上を占めており、 次いで、一般負傷、転院搬送等のその他、交 通事故と続いている。盛岡地区広域消防組合 消防本部は平成27年中の救急出動件数は、1 万6.304件、搬送人員は、1万5.319人で、増加 傾向が続いている。事故種別ごとでは、全国 と同様に急病が一番多く、出動1万452件、搬 送人員9.655人、次いで転院搬送等のその他、 一般負傷、交通事故と続いている。参考まで に岩手県内の出動件数については、4万9.858 件、搬送人員4万6,433人と増加している。昨年6月から岩手県央消防指令センターの運用開始に伴い、災害現場に一番近い救急隊を選定する体制となったため、地域別の搬送者数の増減がみられている。当消防本部においても、全国と同様に救急出動件数及び搬送人人員は、増加の一途をたどっている。タクシー代わりや軽い症状で利用するなど、救急車の必要性が低い利用の実態を総務省消防庁でも効率的な救急業務の運用を図るため、メディカルコントロール協議会と協力し、救急車の適正利用について、警鐘を鳴らしていかなければならない。岩手県央消防指令センターの概要については動画(DVD)にて提示された。

また見学も可能とのことである。

http://www.morioka-fire.jp



(2)**演題**:「救急救命士の現 状」

講師:盛岡西消防署

救急救助係主查 消防司令補 高橋 潤哉 氏

講演要旨:盛岡地区広域消防組合消防本部の 救急隊の数18隊 (3市5町)、救急救命士数 104名で、特定行為可能な救命士は以下であ る。

- 1)気管挿管の実施が可能な救急救命士数: 82名、
- 2) ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管 挿管が実施可能な救急救命士 51名
- 3) アドレナリン投与が実施可能な救急救 命士数 51名
- 4) 肺停止前の静脈路確保及び輸液、血糖 測定並びにブドウ糖溶液投与が実施可能 な救急救命士数 78名

平成26年4月に追加された拡大二行為は、 これまで心停止の患者のみであったのが、新 たに心肺停止前の傷病者に対して行うことが 認められた。一つは、ショック、クラッシュ 症候群、血糖値が50mg/dL未満の15歳以上の 傷病者に対しては、静脈路確保および輸液、 ブドウ糖溶液の投与が実施できることになっ た。いずれも医師による具体的な指示が必要 である。平成28年度は気管内挿管9件、アド レナリン投与67件、静脈路確保34件、ブドウ 糖投与20件実施され、拡大二行為は今後増加 するものと思われる。心肺停止前の傷病者に 対しての静脈路確保向上のため研修会を行 い、救急救命士による静脈路確保の成功率向 上に努めている。また救急救命士の技術・能 力を維持するための生涯教育として、再教育 が義務付けられ、病院実習と日常的な教育の 2本柱となっている。ショック症例に対し救 急隊が静脈確保、補液を投与し、病態を悪化 させずに搬送された症例を提示。救急隊の責 務は、傷病者をいち早く適切な医療機関に搬 送することである。ショックの判断では、血 圧も重要である。速やかに処置を開始するた めにも救急救命士の観察能力のスキルアップ は不可欠である。重症度の高い傷病者を「心 肺停止に陥らせない | ことを目的とした新た な処置が救命率の向上につながることを期待 したい。

2. 質疑応答、意見交換:

岩手県央消防指令センターの運用地域の拡 大について質問があった。

3. 情報交換会:

高橋利光消防長の乾杯の発声にて意見交換 会を行った。

参加者は医師47名、消防73名、医療従事者 (看護師・事務等) 60名

合計180名であった。

(久保直彦)

7. 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会

日 時:平成29年7月14日(金) 午後7時

場 所:ホテル東日本



はじめに和田利彦会長、村上秀樹保健福祉 部長、志賀達哉子ども未来部長の挨拶があり、 出席者の紹介があった。

その後議題に移り、平成29年度盛岡市保健 福祉部・子ども未来部の主要事業について説 明があった。

盛岡市医師会からの要望事項6項目(下記) について回答があり、質疑応答が行われた。

要望 1 胃内視鏡検診の委託料の適正化につ いて

平成28年度より開始した胃内視鏡検診の結果が判明しましたが、胃X線検診と胃内視鏡検診の比較で、精検受診率は94.5%対99%、がん発見率は0.11%対0.4%、早期がん率は71.4%対92.9%と他県以上に内視鏡検診の優位性が証明されました。

初年度は混乱なく早期に導入するために胃

の例を見ても低額であることは周知の事実で あります。

現状のままでありますと、委託料が保険点数より3,000円程度下回っており、検査を行うには施設側に負担(経費)がかかるため、今後、保険診療へ流れる可能性もあり、受診率が益々低下するのは目に見えております。今後他県をもリードする胃がん検診に育てていくためには適正なる委託料にしていただくことが肝要と思います。

回答

平成28年度の胃がん個別検診の受診者数につきましては、X線検診で6,166人、内視鏡検診で3,518人、合計で9,684人と前年度と比較して1,311人の増となっており、胃がん内視鏡検診の導入による効果は大きいものと認識しております。

を伺いながら、さらに胃がん内視鏡検診のよりよい実施に向け財政状況を踏まえつつ、関係課と協議してまいりたいと存じます。

(健康增進課)

要望2 分娩後のメンタルヘルス健診について

産後のうつ病などを予防するための分娩後 無料健診(産後2週間、1ヶ月)が、4月から国と自治体が半分ずつ負担する方式で行われることになりました。岩手県は全国に先駆けて妊産婦メンタルヘルスケアに取り組んでおり、日本産婦人科医会の対策委員会にも委員を派遣しております。是非、事業内容を検討し、早急に健診を実施していただき、関係機関による連携体制の構築を推進されますようお願い致します。

回答

国は、平成29年度から新たに産婦健康診査(分娩後無料健診)の費用を助成することにより、産後の初期段階における母子に対する支援を強化し、妊娠期から子育で期にわたる切れ目のない支援体制を整備しております。

産婦健康診査を実施することは、産後の母子の支援強化に繋がるものと認識しております。但し本事業は産婦健康診査の結果、支援が必要と判断される産婦に対して「産後ケア事業」を併せて実施することが国の補助の要件となっております。

「産後ケア事業」は、退院直後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等きめ細かい支援の提供が必要になりますことから実施には受け入れ施設の検討や財源の確保等、解決しなければならない課題もあることから今後先進自治体の調査を進め、関係機関の御意見を伺いながら研究してまいりたいと存じます。

(母子健康課)

要望3 広域的な予防接種の実施体制における手続きの簡素化について

平成10年9月25日「広域的な予防接種の実

施体制について」の岩手県通知以降、県内の 市町村では広域的な予防接種が実施されてお りますが、市町村により対応が異なっている のが現状です。昨年の盛岡市の回答では、岩 手県でもアンケートを実施し検討を始めたと のことですが、県とともに、盛岡市におきま しても手続きの統一化、簡素化に向けての積 極的な取り組みをお願い致します。

回答

里帰り又は長期入院等の事情により住所地 以外の市町村で予防接種を希望する場合は住 所地の市町村に申請書を提出し、市町村から 滞在先の医療機関等へ予防接種実施依頼書を 送付する方法により、予防接種を実施してい るところですが、申請方法などが市町村で異 なっている状況です。

このような状況から県では、平成28年度に各市町村へのアンケートや申請様式・接種券等の調査を実施し、本年2月からは県市町村及び県医師会で構成される「広域的予防接種体制検討ワーキンググループ」により、住民の利便性向上や事務の簡素化など検討を進めており、ワーキンググループでは県内全域の医療機関での接種を円滑に受けることができる新たな実施体制の構築を目指しているところです。

市といたしましても、このワーキンググループのメンバーとして積極的に取り組んでまいります。

なお県では8月を目途に広域的予防接種事業に係る実施要領案を作成し関係機関及び関係団体に意見を伺う予定となっております。

(保健予防課)

要望4 子どもの医療費助成の拡充(中学卒 業まで)について

平成28年4月から小学生の通院も医療費助成の対象となり、また平成28年8月からは「現物給付方式」が始まり、子どもの医療費助成の拡充が進んできております。多くの市民や子育で世代が望んでいることと思われます

が、これを更に進め、中学卒業まで医療費助成を拡充し、また「現物給付方式」の適応の拡大をしてくださるようお願いいたします。

回答

中学卒業までの医療費助成の拡充につきましては、子育て支援施策として極めて有効な施策であると認識しておりますが、継続的に多額の財源を必要といたしますことから、対象年齢の拡大の早期実現に向けて所要財源の確保に努めてまいりたいと存じます。

「現物給付方式」の適応の拡大につきましては、子育で世代の方々の負担軽減を図る上で極めて有効な施策であると認識しておりますが、県内統一して実施する必要がありますことから、引き続き県内市町村と連携を図りながら県に要請してまいります。

(医療助成年金課)

要望5 夜間急患診療所の小児科従事医師の 確保について

夜間急患診療所に従事する小児科医の高齢 化に伴い、出務する医師の確保が年々困難と なってきております。数年後にはさらに厳し い状況に陥ることが予想され、早期の対応が 望まれます。早期の対応、対策の立案を要望 いたします。

回答

夜間急患診療所の小児科従事医師の確保についてでありますが、昭和51年12月の開所以来これまで27万人以上の方へ年中無休で診療を行うなど盛岡市のみならず盛岡保健医療圏における初期救急医療の中心的な施設であり特に小児科では診療所全体の患者の約6割の診療を行っており大変重要な役割を担っております。

市医師会の御尽力のもと夜間急患診療所に 勤務いただける小児科医が増えてきていると ころでございますが小児科医の皆様方におか れましては初期救急医療業務に加え学校等の 保健業務、乳幼児健診、定期予防接種など、 限られた人数のなかでさまざまな健康保健事業に御協力いただいており大きな負担となっているものと存じております。

このようなことから小児科医の負担軽減に 向け近隣医師会による応援体制、大学病院等 からの小児科医の派遣などのご協力を得なが ら進めております。

小児科医確保につきましては市ホームページにて募集を行っておりましたところ本年度につきましては総合病院を退職された先生がホームページをご覧くださり新たに7月から勤務していただいているところでございます。

引き続きホームページ等により募集を行っていくほか、小児科を標榜されている他の診療科目の医師による協力体制につきましても引き続き市医師会と協議してまいりたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

(企画総務課)

要望6 乳幼児総合診査後のフォローアップ に関わる受け入れ機関の充実について

乳幼児総合診査後の受け入れ機関には、親子教室やひまわり学園、いるか教室などがありますが、発達障がいが疑われる子どもの数の増加に伴い、いずれの機関においても定員越えが常態化し、受け入れ機関の不足が問題となっております。また、言語聴覚士や整形外科医など、そこで働くスタッフも足りない状況が続いております。賃金などの待遇も十分とは言えず、整形外科医の確保も目途が立っておりません。

毎年開催される「盛岡市乳幼児総合診査運営委員会」でも、受け入れ機関の不足、スタッフ不足が課題として指摘されております。子どもたちの療育の質の低下に直結する状況であり、是非とも、受け入れ機関の充足、スタッフの充実、待遇の改善を要望いたします。

回答

乳幼児総合診査後のフォローアップに関わる受け入れは、親子教室においては現行のス

タッフを最大限に活用し、可能な限り受け入れているところです。また障がい児通所支援施設につきましては、ひまわり学園、いるか教室のほかにも受け入れ施設が増えてきており活用に繋げてまいりたいと存じます。

また乳幼児総合診査に従事していただいているスタッフの待遇及び体制につきましては、報償費の増額、従事時間の短縮に努めており引き続き改善に努めてまいります。

今後におきましても先生方の御意見を伺い

ながら乳幼児総合診査後のフォロー体制の在 り方について検討してまいりたいと存じます。 (障がい福祉課・母子健康課)

会議終了後、場所を移して懇親会を開催した。高橋清実盛岡市保健所長の乾杯の挨拶で歓談が始まった。終始和やかな雰囲気での時間が過ぎ、最後に金子博純会長の閉会の挨拶で終了した。

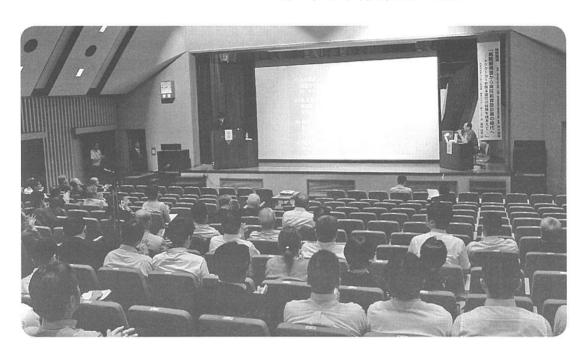
(工藤卓次)

			出		席		者						
CHEST TO SECTION					ı	ett.	1771	-					
盛岡市医師会		_				盛	岡	市					
会 長	和	田	利	彦		1		畐祉部					
副 会 長	野	崎	英	_			部	長	木	寸	上	秀	樹
副会長	吉	田	耕ス	比郎			次	長	莊	泰	原	真	人
副 会 長	金	子	博	純			地垣	或福祉課長	莊	泰	澤	多	津子
理事(総務部長)	本	間		博			障力	がい福祉課長	7	7	田		博
理事(救急医療対策部長)	久	保	直	彦			長美	导社会課長	=	5	田	_	彦
理事(地域医療部長)	I	藤	卓	次			介認	雙保険課長	ť	F	Щ	智	規
理事(保険部長)	鈴	木	知	己			生活	舌福祉第一課長	7	大 _元	田志		進
理事(地域医療部)	金	濱	誠	己			生活	舌福祉第二課長	A	公	越		慈
理事(検診部長)	久信	田	公	宜		(盛岡	市保健所)					
理事(母子保健·思春期保健対策部長)	小	林	有	_			保健	建所長	Ē	1	橋	清	実
理事(看護学院部長)	智	田	文	徳			次長	長兼企画総務課 長	₹ ∄	泰	井	優	子
理事(医療安全·医療事故予防対策部長)	橋	本	真	生			参引	事兼生活衛生課長	基	左	藤		圭
理事(学幼保医部長)	千	葉	隆	史			健周	東増進課長	_	Γ	藤	弘	幸
理事(産業保健部長)	佐	藤	直	也			保健	建師長	1	١Æ	田島	晃	子
理事(在宅医療部長)	木	村	幸	博			保健	建予防課長	村	毎	原		格
事務局長	及	Ш	敬-	一郎		=	子ども	5未来部					
次長	水	本	達	彦			部	長	7	5	賀	達	哉
Parameter Parame							次	長	7	5	橋	浩	幸
							子と	ビも青少年課長	1	1		俊	行
							子育	育てあんしん課長	Ē Ā	泰	本	耕	也
							母于	子健康課長	木	艮	本	雅	子
					1		_						-

8. 第35回救急医療学術講演会

日 時:平成29年9月1日(金) 午後6時40分

場 所:岩手県医師会館 4階大ホール



挨 拶

盛岡市医師会 和田利彦 会長

特別講演

座長:岩手医科大学

救急・災害・総合医学講座

井上義博 教授

講師:佐賀県医療センター好生館

教育センター

藤田 尚宏 副センター長 演題:「病院前救護から病 院前救急診療の時代へ ードクターカーや熊本震 災の経験を踏まえて一」

講演要旨

1. 病院前救急診療とドクターカー

佐賀県の公的病院は中規模の国立病院は幾つかあるが、県立病院は好生館(佐賀藩時代からの名称)病院一つである。平成25年5月に病院移転を機に外傷センター、基幹災害医療センターなどを備えた急性期病院となり、ドクターへリ、ドクターカーの運用が本格的になった。月に1,000例救急患者、年間救急車受け入れが3,000台弱、ドクターカーの出動が350~400回ほどである。搬送患者における入院率が50%を超えている。救命センターではトリアージナースが救急患者のトリアージを行い、患者の優先度を選別している。ウォークイン患者の1%はICU、CCUなどに入院を要した。

病院前救急診療(Prehospital medicine) としてドクターカーを導入した。さらに AVM: automatic vehicle monitoring system システム (携帯端末を利用した通信、位置情報システム)を導入し、救急救命士を3名雇用し本格的運用を開始した。病院内に専任チームを作り、原則6名 (医師、看護師、研修医一名、救命士、ナビゲーター)がドクターカーに同乗し、出動までの時間は1分以内で出動している。約10km以内へ10分で到達している。現場活動は救急隊とのドッキング方式で、10分以内を原則としている。内容は1,748件中内因性疾患が38%であった。ドクターカーの出動実例を動画で数例示された。

2. 熊本震災の経験から

熊本地震の一回目地震発生後、同病院のドクターカー先発隊が熊本へ出動した。さらに2回目(本震)が起きて出動してきた。熊本赤十字病院に出動し、半壊した熊本市民病院の患者搬送を行った。この後精神患者の搬送も依頼された。この時DPAT(災害精神医療派遣チーム)出動し、そのチームスタッフと打ち合わせして、自衛隊との共同で鹿児島まで患者を搬送した。その後多く医療チームが



来たため、ミッションを終了した。

今後の課題として、災害医療のコーディネートが大切であると思われた。多くの医療チームが来て支援を申し出るが、受け入れ病院が混乱することもありその調整が必要である。

出席者は医師・医療機関関係・消防・行政 より117名の参加であった。

(久保直彦)

9. 二次救急医療病院事務長会議

日時:平成29年3月3日(金) 午後1時

場所:盛岡市医師会館 会議室

盛岡市医師会	会 長	和	田	利	彦
	副 会 長	野	崎	英	
	副 会 長	吉	\mathbb{H}	耕え	で郎
	副会長	金	子	博	純
	総務部長	本	間		博
	救急医療対策部	長 久	保	直	彦
岩手医科大学	附属病院				
	病院事務部次	長 齋	藤	俊	哉
	医事課長	本	舘	老	信
岩手県立中央		•		•	,
(L) 1 2 (12 (1) (1	事務局長	干	葉	雅	弘
盛岡赤十字病		,	>/C	- JIL	J.14
300 min 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	事務部長	野	Ħ	铷	克
盛岡市立病院	4は300万人	æ)	LIL	1.41.	76
金剛 中亚州於	事務局長	小笠	と同		郎
Netha a Laurent Heire	事份问文	1,7	乙沢		cpa
遠山病院	#####################################	7	278G	Ho	2,3
tom polestralia	事務部長	干	葉	俊	祐
栃内病院	aland the end the second				
	事務部長代理		田		ノ子
高松病院	事務長	髙	松	īΕ	則
盛岡つなぎ温	•				
	事務次長	佐	藤	人	美
盛岡友愛病院					
	事務長補佐・経里	賬 菅	原	規	行
川久保病院					
	事務長	片	方	直	樹
独立行政法人	国立病院機	構盛岡病	院		
	事務部長	藤	原		勝
もりおかこど	も病院				
	事務部長	佐	藤		巖
八角病院	1 100-1-20				
7 (7 17 11)	事務長	藤	原	正	孝
盛岡市保健所	· ·	nar.	2214		J
	医事薬事係:	Ē			
正凹心力环	四字/宋字(环)	開	米		洋
盛岡市医師会	車	1717)	/ \^		II
	事務局長 事務局長	永	井		亮
				#	元之
	係 長	佐	藤	泰	~

一次第一

挨 拶 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長 盛岡市医師会会長 和 田 利 彦

報告

- 1.1月分患者データについて
- 2.27~28年の患者データについて
 - (1) 二次救急
 - (2) 小児救急
 - (3) 休日救急当番医·夜間急患診療所
- 3. 第148回小児救急電話相談事業事例検討会 (2/21) 及びH28.1月~12月分データにつ いて
- 4. 3月分二次救急病院当番表について
- 5. 平成29年度医療提供体制推進事業に係る 事業計画の採択について
- 6. 平成29年度二次救急当番表の変更願いについて(日赤より)
- 7. 平成29年度二次・小児救急当番表(案) について
- 8. 平成29年4月~6月分の小児救急当番表の 公表について
- 9. 平成29年度二次救急対策委員会運営予算 について
- 10. 医大移転後の救急医療体制について

二次救急医療病院事務長会議

日時:平成29年7月4日(火) 午後1時 場所: 盛岡市医師会館 2階会議室

盛岡市医師会	会 長	和	田	利	彦
	副会長	野	崎	英	_
	副会長	吉	田	耕力	大郎
	副 会 長	金	子	博	純
	総務部長	本	間		博
	救急医療対策部長	久	保	直	彦
岩手医科大学阶	付属病院				
	病院事務部次長	塚	澤	1_	敏
	医事課長	本	舘	孝	信
岩手県立中央病	詩院				
	事務局長	小笠	を原		行
盛岡赤十字病院	₹				
	事務部長	野	田	専	克
盛岡市立病院					
	事務局長	佐	藤	輝	男
遠山病院					
	事務部長	干	菜	俊	祐
栃内病院					
	事務部長代理	中	$oxtlue{oxtlue{\Xi}}$	3	ノ子
高松病院	事務長	髙	松	Œ	則
盛岡つなぎ温泉	表病院				
	事務部長	吉	H	讓	治
盛岡友愛病院					
	事務長	小	原	孝	文
川久保病院					
	事務長	片	方	直	樹
独立行政法人国]立病院機構盛	岡病院	完		
	事務部長	曽	我		理
もりおかこども	病院				
	事務部長	佐	縢		巖
八角病院					
	事務長	虅	原	Œ	孝
盛岡市保健所					
企画総務課 鴠	長剤主査				
		宮	野	直	子

盛岡市医師会事務局

事務局長 次

係

長

臣

一次 第 ---

挨 拶 感岡地区二次救急医療対策委員会委員長 盛岡市医師会会長 和 田 利 彦

報告

- 1. 委員の異動に伴う、常任委員・対策委員 の変更について
- 2. 5月分患者データについて
- 3. 年度毎の患者データについて
 - (1) 二次救急
 - (2) 小児救急
 - (3) 休日救急当番医·夜間急患診療所
- 4. 二次救急対策委員会小委員会(小児輪番 に係る:5/22)
- 5. 第152回小児救急電話相談事業事例檢討会 (6/20) 及びH28.4月からH29.5月までの データについて
- 6. 平成29年度岩手県総合防災訓練 第2回 参加機関打合せ (6/26)
- 7. 「第14回盛岡救急医療人のつどい」の開催 について (7/31)
- 8. 第35回救急医療学術講演会について(9/1 予定)
- 9. 7月分二次救急病院当番表について
- 10. 7月以降の二次・小児救急当番表(案)につ いて
- 11. 7月~9月分及び10月~12月分の小児救 急入院受入当番表について
- 12. 平成28年度二次救急対策委員会一般会計 及び特別会計決算について
- 13. 医大移転に伴う今後の救急医療体制につ いて

及 川 敬一郎

水本達彦

佐藤泰之

二次救急医療病院事務長会議

日時: 平成29年12月11日(月) 午後7時

場所:ホテルニューカリーナ

和田利彦 盛岡市医師会 会 長 廥 英 一 副会長 野 吉 田 耕太郎 副会長 金 子 博 筗 副会長 本間 博 総務部長 彦 久 保 蕳 赦急医療対策部長 岩手医科大学附属病院 藤 俊 盐 病院事務部長 齋 1---病院事務部次長 塚 722 皱 岩手県立中央病院 事務局長 小笠原 行 盛岡赤十字病院 野 \pm 草 克 事務部長 輝 男 佐 藤 感圖市立病院 事務局長 T- 棄 俊祐 遠山病院 事務部長 ヨシ子 事務部長代理 中 H 栃内病院 高松病院 事務長 福 Ħ 雄介 盛岡つなぎ温泉病院 吉 \blacksquare 謶 事務部長 治 小 原 34 文 盛岡友愛病院 事務長 樹 片 方 首 川久保病院 事務長 独立行政法人国立病院機構盛岡病院 刊. 事務部長 萬 我 もりおかこども病院 事務部長 佐 藤 巖 八角病院 事務長 原正 耄 盛岡市保健所 企画総務課医事業事係長

盛岡市医師会事務局

事務局長

次長

係長

開米

佐

及 川 敬一郎

水 本 達 彦 藤

第 次

挨拶 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長 感岡市医師会会長 和 田 利 彦

報告

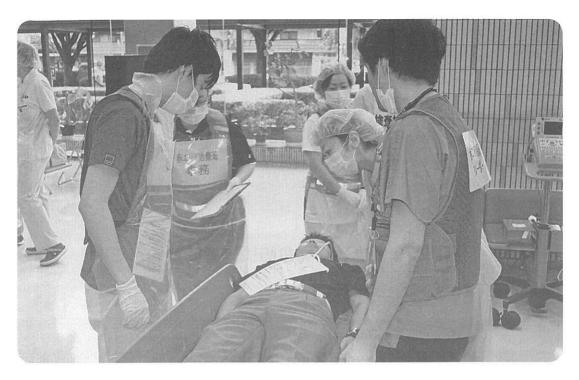
- 1.10月分患者データについて
- 2. 平成29年1月~10月分の患者データについ 7
- (1) 二次救急
- (2) 小児救急
- (3) 休日救急当番医•夜間急患診療所
- 3. 第157回小児救急電話相談事業事例検討会 (11/21) 及びH28.10月からH29.10月まで のデータについて
- 4. 医療提供体制推進事業費補助金(医療提 供体制設備整備事業) について
- 5. 平成29年度小児科医師研修事業プロック別研 修会の開催について(2/14)
- 6. 12月分二次救急病院当番表について
- 7. 平成30年1月~3月分の小児入院受入病 院当番表について
- 8. 平成30年度二次救急·小児救急輪番日程 (案) について
- 9 広報もりおかへの年末年始の救急医療態 勢記事掲載について
- 10. 医大移転に伴う今後の救急医療体制につ いて

洋

泰之

10. 平成29年度岩手県総合防災訓練 (盛岡市総合防災訓練と合同開催)

日 時:平成29年8月26日(土) 午前8時30分場 所:盛岡市立見前南小学校、見前南中学校他



平成29年8月26日出午前8時30分より、盛岡市立見前南小学校、見前南中学校、県立盛岡南高等学校、岩手県立中央病院及び、紫波町・矢巾町を会場に、岩手県が主体となり盛岡市総合防災訓練が合同開催された。災害想定は例年と異なり、広域で洪水が発生したとの想定で開催された。土曜日の開催という事も有り、岩手県立中央病院(岩手DMAT)、盛岡赤十字病院(赤十字救護班)、盛岡市立病院のみの参加となった。97機関約5,000人の参加、全107項目の訓練が行われた。医療関連は以下の通りであった。

1. 「医療救護所開設運営訓練」

盛岡市立病院の医師2名、看護師3名が参加、見前南中学校(体育館)・見前南小学校(校舎保健室)で、避難所生活をされている

一般住民が体調不良等により医療救護所で医師(看護師)から診察を受け、救護所に来所された傷病者を重症度により選別し、簡易カルテへの記載を行い、薬剤師会では処方薬の聴き取りを行った患者に対して、処方せんの発行を行った。

2. 市民救命訓練(心肺蘇生訓練)

岩手医科大学の医師1名、看護師2名にご協力いただき、小学校生徒や、一般市民向けにAEDの使い方等、心肺蘇生訓練を行なった。参加者は約200名であった。

3. トリアージ訓練

岩手DMAT、赤十字救護班、消防の合同で行った。

4. 病院受け入れ訓練

県立中央病院で病院受け入れ訓練と岩手 DMAT参集訓練を実施した。岩手DMATは 8隊参集した。病院受け入れ訓練は20名の被 災病院からの転送受け入れ訓練とウオークイ ン患者20名の想定でトリアージ訓練を行っ た。

(久保直彦)



寄稿

平成29年度岩手県総合防災訓練に参加して

岩手県立中央病院 救急医療部長 須 原 誠

今年の防災訓練の想定は大雨による北 上川氾濫でした。がしかし、なんと前々 日までの実際の大雨で訓練自体の開催が 危ぶまれ、訓練前日午後、県庁医療政策 室から「最終的な実施可否については当 日朝5時に判断します」と連絡が入りま した。当日朝5時過ぎ、医療政策室から 「本日の訓練は予定通り実施となります」 とメールが届き、そして朝7時、仮想県 災害対策本部から当院へ「昨日発生した 北上川氾濫に伴い、DMAT派遣を要請 します。参集拠点、および活動拠点本部 を中央病院とするので受け入れ準備をし てください」と指令あり。ここからはす でに訓練なのですが、なんともリアルで もあり、紛らわしくもあり!?

私は、DMAT拠点本部(参集拠点) 長として活動させていただきました。当

院DMAT隊員7名で本部を立ち上げま した。災害状況確認、役割分担、資機材 整備、EMIS入力等を行った後、県本部 へ拠点本部立ち上げ完了報告。衛星携帯 を使用しましたが、あまりタイムラグも 感じずスムースな会話が可能で、この電 波は本当に宇宙まで行ってきたのか?と 疑いました。まもなく宮古DMAT到着 し、一緒に拠点本部運営を担ってもらい ました。その後拠点本部に到着した胆沢、 中部、磐井、久慈の各チームを順次、見 前南中学校応急救護所へ派遣しました。 同応急救護所は傷病者の直接搬入に対し トリアージや初療を施行。また被災病院 からの転院患者搬送拠点にもなっていま した。途中、突発的な本当の豪雨により 30分ほどの訓練中断もあり、大変だった ようです。大船渡、釜石チームは拠点本 部に一時待機してもらいましたが、県本部から避難所サーベイおよび負傷者対応の指示要請がきたため、見前南小中学校避難所へ派遣しました。国道4号線が一部冠水し通行不可との想定で各チームには経路地図を渡し、わざわざ遠回りをしてもらいました。

今回中央病院には病院自体の対策本部も 設置され、傷病者受け入れ訓練が同時に 行われました。DMAT活動拠点本部運 営は、比較的良好だったと思われました が、病院本部とのコミュニケーションは あまりなされず、今後の課題と思われま した。

盛岡市総合防災訓練に参加して

盛岡市立病院 看護師 米 澤 久美子

8月26日出見前南中学校で、総合防災 訓練に参加させて頂きました。消防士、 自衛隊、市民、医師や看護師など多くの 方々が参加する大規模訓練で、校庭には 救急車が止まっていて、消防士、岩手 DMAT、自衛隊の方々がテントを設営 し様々な訓練が行われていました。私は 体育館の中で、大規模災害発生から数日 後、避難所生活をされている一般市民が 体調不良などにより医療救護所で医師か ら診察を受ける訓練を担当しました。医 療救護所へ来院された患者(模擬患者) を重症度により選別し応急処置を行い、 必要に応じて後方支援病院に搬送すると いう想定のもとでの訓練でした。担当者 から紙カルテと筆記用具を渡されて方法 について説明を受けました。最近は電子 カルテが主流になり、紙カルテは久しぶ りでしたが、災害時はこの方法が絶対必 要になります。電子カルテ世代の医師や 看護師は見たこともない人もいると思い ます。日頃から災害時には必要になるこ とを周知し、訓練しておく必要があると

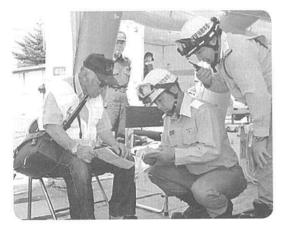
感じました。災害時の救護所では、患者 の症状を把握し医師への報告、特にと う意識をもって行いました。チームに き者の把握ができやすいように壁はは の把握ができやすいように壁はは 、必要な情報や帰宅または を貼り、必要な情報や帰宅また時切った。 は情報を共有しチーム医療の大り では情報を共有しチーム医療のだけ をしました。また限られた物を創意工で して使用すること、新しいものだけ。 は気力・聴力・観察力などを頼りた の視力・聴力・観察力などをいと今回の が見っていかなければならないと今回の 訓練に参加して学ばせて頂きました。

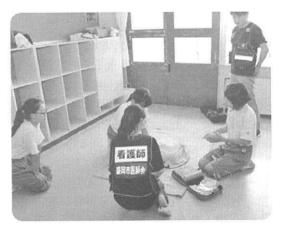


医療救護所開設、市民救命訓練、トリアージ訓練 (見前南小学校、見前南中学校)













病院受け入れ訓練 (県立中央病院)













11. 岩手県小児救急電話相談事業実績

はじめに

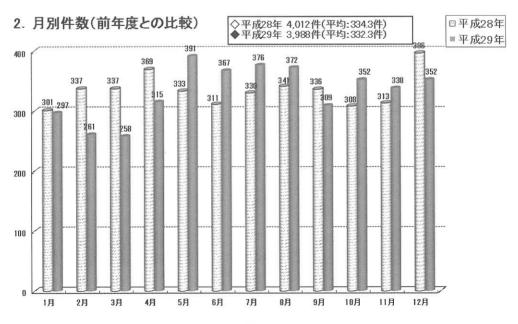
平成16年10月より、岩手県では「看護師によるこども救急相談電話」事業を実施している。この 事業は、岩手県から岩手県医師会が受託し、実務的な業務は盛岡市医師会に委託されている。この 相談員は、岩手県看護協会が推薦し、盛岡市医師会が雇用するものとし、9名を登録している。

相談業務は年中無休で午後7時から午後11時まで行われ、登録した看護師のうち2名ずつで担当している。相談内容の検証、より良い相談方法、相談員の技術向上のため、毎月1回相談員全員と小児科医3~4名が同席し、相談事例の検討会を行っている。その内容は市医師会の理事会で毎月報告されている。

1. 相談件数推移 (H16.10~H29.12)

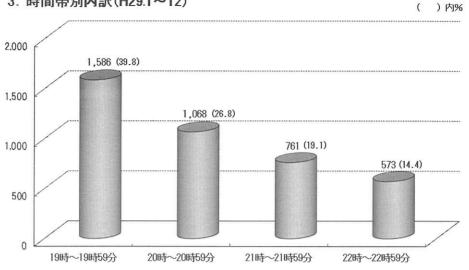
(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	一日平均
平成16年	0-1	-	-	-	-	-	7-	-	-	122	118	104	344	114.7
平成17年	118	224	281	185	219	199	191	145	138	200	169	248	2,317	193.1
平成18年	172	163	184	193	243	207	182	174	149	191	225	332	2,415	201.3
平成19年	220	221	271	245	239	226	189	175	191	172	251	347	2,747	228.9
平成20年	236	225	197	205	222	212	217	210	201	214	250	380	2,769	230.8
平成21年	296	266	262	242	276	274	209	249	309	454	493	494	3,824	318.7
平成22年	348	317	343	285	359	317	332	307	242	269	346	413	3,878	323.2
平成23年	368	325	297	262	350	314	351	345	307	303	331	360	3,913	326.1
平成24年	333	360	330	349	323	260	291	306	288	314	351	320	3,825	318.8
平成25年	305	255	277	303	331	297	297	334	362	314	292	353	3,720	310.0
平成26年	277	246	331	301	283	257	285	331	272	267	291	408	3,549	295.8
平成27年	364	256	240	245	325	279	268	305	288	283	309	350	3,512	292.7
平成28年	301	337	337	369	333	311	330	341	336	308	313	396	4,012	334.3
平成29年	297	261	258	315	391	367	376	372	309	352	338	352	3,988	332.3

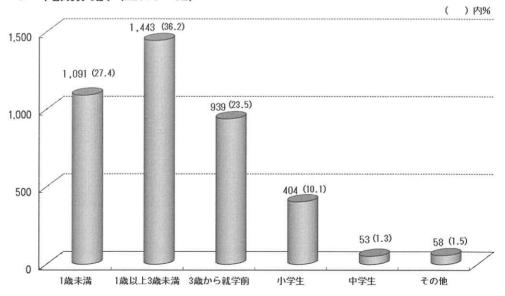


-120 -

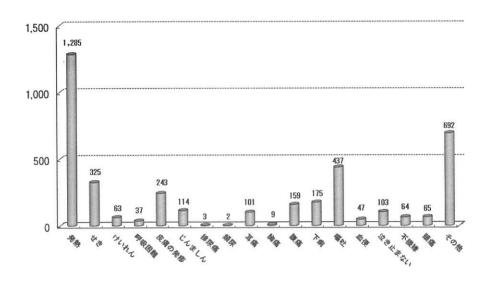
3. 時間帯別内訳(H29.1~12)



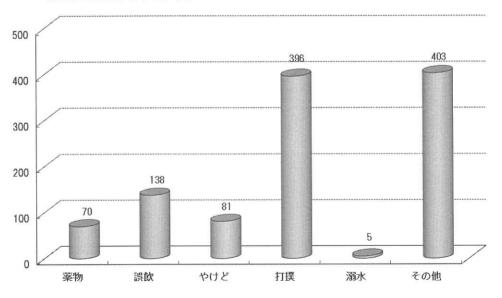
4. 年齡別内訳 (H29.1~12)



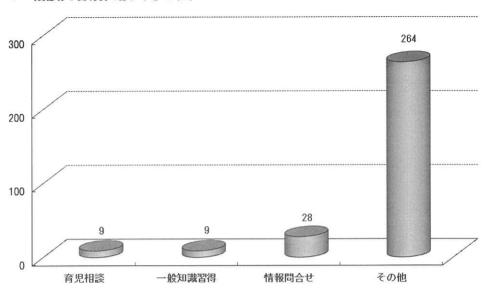
5. 相談別内容(病気)



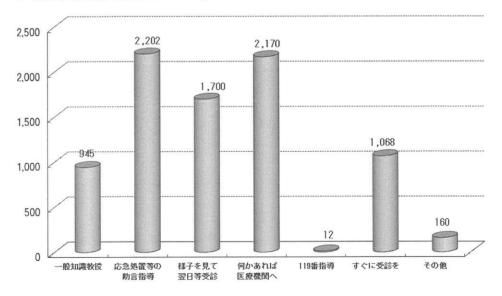
6. 相談内容別内訳(事故)



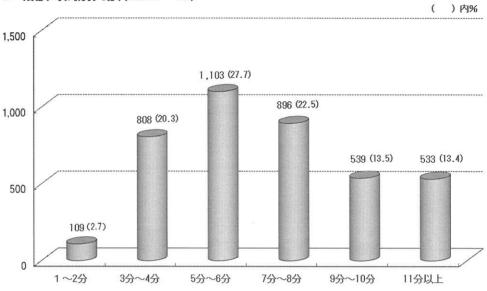
7. 相談内容別内訳(その他)



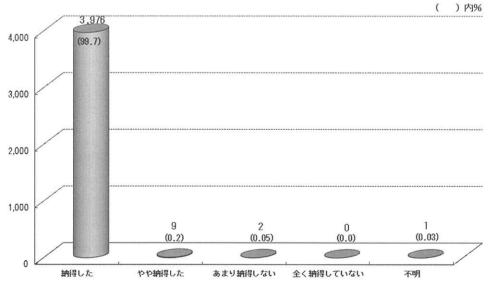
8. 対応内容別内訳(H29.1~12)



9. 相談時間別内訳(H29.1~12)



10. 相談者の印象別内訳(H29.1~12)



11. 市町村別件数(H29.1~12)

市町村名	相談件数	()内%
市部計	3,448	(86.46)
盛岡市	1,236	(30.99)
宮古市	109	(2.73)
大船渡市	69	(1.73)
奥州市	386	(9.68)
花巻市	394	(9.88)
北上市	298	(7.47)
久慈市	47	(1.18)
遠野市	57	(1.43)
一関市	402	(10.08)
陸前高田市	21	(0.53)
釜石市	49	(1.23)
二戸市	66	(1.65)
八幡平市	67	(1.68)
滝沢市	247	(6.19)
岩手郡	89	(2.23)
雫石町	31	(0.78)
葛巻町	18	(0.45)
岩手町	40	(1.00)
紫波郡	229	(5.74)
紫波町	114	(2.86)
矢巾町	115	(2.88)
県外	20	(0.50)
不明	18	(0.45)

市町村名	相談件数	()内%
和賀郡	11	(0.28)
西和賀町	11	(0.28)
胆沢郡	46	(1.15)
金ヶ崎町	46	(1.15)
西磐井郡	32	(0.80)
平泉町	32	(0.80)
気仙郡	8	(0.20)
住田町	8	(0.20)
上閉伊郡	9	(0.23)
大槌町	9	(0.23)
下閉伊郡	31	(0.78)
山田町	22	(0.55)
岩泉町	6	(0.15)
田野畑村	2	(0.05)
普代村	1	(0.03)
九戸郡	37	(0.93)
軽米町	8	(0.20)
洋野町	15	(0.38)
野田村	6	(0.15)
九戸村	8	(0.20)
二戸郡	10	(0.25)
一戸町	10	(0.25)
合計	3,988	件

おわりに

平成29年の電話相談の月平均は332.3件であった。平成16年の開設当初は月平均114.7件だったが、その後右肩上がりに増加し、平成21年以降は300件台前半で推移していたが、28年度は40件弱増加し、平成29年度も昨年度並みとなった。年齢別内訳では3歳未満が63.6%を占め、発熱に関する相談(24.1%)が最も多いという傾向は例年同じである。市町村別では、盛岡市からの相談が31.0%と最も多く、その他全県下から相談が寄せられているが、県外からの相談も0.5%認めた。また、相談時間が長くなるケースもみられ、対応に苦慮する事例も少なくない。しかし相談者の99.7%は相談員の対応に納得しており、適切に対応しているといえる。「はじめに」で述べたように、相談員は事例検討会を開催したりするなど日々の相談技術の向上に努めており、その努力に敬意と感謝を表したい。

V 救急医療年譜

18.1.10 玉山村が盛岡市と合併

昭和40.1.10	休日当番医制発足(内科、一日	12ヵ所)							
41. 7	休日当番医制に小児科および外		日1ヵ所)が参加						
51.12. 1	盛岡市夜間急患診療所が少年センター内(中の橋際、旧商工会議所)に開設								
53, 3,	岩手県医薬課より岩手県医師会、盛岡市医師会に二次体制確立要請								
53. 6 .16	盛岡市夜間急患診療所開設 1 周年記念式典開催								
54.12. 1	盛岡地区二次救急医療体制発足、二次救急病院群輪番制 9 病院にて開始								
	岩手県立中央病院 盟	E 岡市立病院	盛岡赤十字病院						
	岩手医科大学附属病院 遺	遠山病院	高松病院						
	栃内病院 ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	可南病院	はらた病院						
55.11. 1	岩手県高次救急センター開設								
56.9.10	盛岡市夜間急患診療所開設 5 周	周年記念懇談会開催	Ě						
56.12	内丸病院が二次救急病院群輪番	· · · · =							
57.2.6	盛岡市夜間急患診療所が若園町								
57.10.15	盛岡市夜間急患診療所診療時間		-12:00→夜7:30~11:30)						
58. 7	はらた病院が二次救急病院群輔		a series than the series of th						
62.11. 1	盛岡市夜間急患診療所が肴町盛		- 2 階に新築移転、診療開始						
62.11.14	盛岡市夜間急患診療所落成式開	利僅							
平成 4.4.1	盛岡市・都南村合併	医外性子工力等							
5.1	河南病院が二次救急病院群輪番制を辞退								
7.4.1	盛岡緊温泉病院・盛岡友愛病院・川久保病院が二次救急病院群輪番制に参加								
8 .12, 7	輪番病院を南北2ヶ所におく 盛岡市夜間急患診療所開設20周	9年記念: 山思族							
11.4.1	小児救急病院群輪番制 7 病院に								
11.4.1	岩手県立中央病院 盛岡		司赤十字病院						
	岩手医科大学附属病院 川夕		2療養所盛岡病院						
	もりおかこども病院	CF178 1100	2001 2007 mr. 111 111 112 0						
11.11.1	盛岡市夜間急患診療所診療時間	引の変更(夜7:30~	~11:00→夜7:00~11:00)						
12.4.1	国立療養所盛岡病院が二次救急								
12.9.1	南北にそれぞれおいていた輪番	₿病院をA、Bの二	グループに変更						
	Aグループ								
	岩手県立中央病院 盛岡別	卡十字病院 岩手區	医科大学附属病院						
	Bグループ								
	盛岡市立病院 遠山病院								
	盛岡繋温泉病院 盛岡友愛		完 国立療養所盛岡病院						
13. 2 .22	盛岡地区二次救急医療体制20周								
14.2.1	岩手県高次救急センターを「岩								
14.9.1	国立療養所盛岡病院が小児救急		不止						
16.10.1	看護師によるこども救急電話権								
17.4.1	川久保病院が小児救急病院群軸		L to Z						
17.9.1	西根町・松尾村・安代町が合併	サレー八幡半叩」。	⊆ ′4 つ						

- 19.3.24 盛岡市夜間急患診療所開設30周年を祝う会開催
- 19.4.1 盛岡市立病院が小児救急病院群輪番制を休止(産婦人科も休止)
- 20.4.1 内丸病院が二次救急病院群輪番制を辞退
- 20.4.1 盛岡市が中核市となる

盛岡市夜間急患診療所が盛岡市保健所(神明町:旧競馬会館ビル)に移転開設

- 20.6.14 岩手・宮城内陸地震発生(最大震度6強)
- 20.6 盛岡市医師会災害時対応マニュアルの作成(全会員へ送付)
- 20.7.24 岩手県沿岸北部を中心とする地震発生(最大震度6強)
- 21.1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を再開
- 21.3 メキシコにおける豚インフルエンザの発生
- 21.5 新型インフルエンザの国内発生
- 21.6 新型インフルエンザの県内発生
- 21.10 夜間急患診療所小児科診療を 2 人体制で対応(H22.1.3まで)
- 21.11.26 盛岡地区二次救急医療体制30周年記念式典開催
- 22.4.1 八角病院が二次救急病院群輪番制に参加(B群病院として)
- 23.3.11東北太平洋沖地震発生(後に東日本大震災)PM2:46発災、マグニチュード9.0 (最大震度 7)、津波による死者・行方不明者19,000人超
- 23.3.12 遺体検案応援が始まる(盛岡市・岩手郡・紫波郡医師会は6月まで応援)
- 23.5.7 山田町保健センター救護所への当直応援開始(7/3まで) ※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23.7.10 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援開始 ※ 盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23.8.7 岩手県医師会高田診療所への診療応援開始 ※各診療部会で派遣対応
- 24.5.8 岩手県による「ドクターヘリ」が運行開始(岩手医大矢巾キャンパス基地)
- 24.12.30 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応接終了
- 25.8.9 大雨により「大雨・洪水警報」発令 雫石町国道46号線付近で乗用車・バスが孤立、消防本部による救助活動有
- 25.9.16 台風18号の影響により玉山区の松川が氾濫、浸水地域で消防本部による救助活動有
- 26.1.1 滝沢村が「滝沢市」となる
- 28.3.20 岩手県医師会高田診療所への診療応援終了 (閉所式)
- 28.3.20 台風10号の影響により岩泉町・久慈市など沿岸地域に甚大な洪水被害有 死者・行方不明者24名
- 29. 3.13 岩手医科大学附属病院新築工事起工式

規程・協定書及び設置要項等資料 VI

1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則

(昭和52年2月1日盛岡市長決裁)

改正 昭和52年4月19日 昭和55年12月1日 平成9年4月1日

平成20年4月1日(平成20年4月1日副市長専決) 平成22年4月1日(平成22年3月3日副市長専決) 平成24年6月1日(平成24年5月30日副市長専決)

- 条 盛岡市夜間急患診療所(以下「診療所」という。)の円滑な運営を図るため、盛岡市 第 1 夜間急患診療所運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 条 協議会は、次に掲げる団体等をもって組織し、事務局を盛岡市保健所企画総務課内に 箕 2 置く。
 - (1) 盛岡市医師会
 - (2) 盛岡薬剤師会
 - (3) 岩手県看護協会
 - (4) 盛岡市
- 協議会は、次に掲げる事項について協議決定の推進に努めるものとする。 第 3
 - (1) 診療所における医師その他従事者の勤務に関すること。
 - (2) 診療所において生じた事故処理に関すること。
 - (3) 診療所の事務改善に関すること。
 - (4) その他診療所の運営に必要な事項に関すること。
- 前条各号に掲げる事項を審議するため、協議会に次の各号に掲げる構成団体の区分に 第 応じ、当該各号に定める数の委員を置く。
 - 7人 (1) 盛岡市医師会
 - 2人 (2) 盛岡薬剤師会
 - (3) 岩手県看護協会 1人
 - (4) 盛岡市
 - 2人 委員の任期は、2年とする。ただし、補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 条 協議会に会長及び副会長1人を置く。 第 5
 - (1) 会長及び副会長は、委員の互選とする。
 - (2) 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
 - (3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。 第 6
- 協議会の事務を処理させるため、協議会に事務局長及び事務局職員を置く。 第 7
 - 事務局長は盛岡市職員のうちから、事務局職員は構成団体職員のうちから会長が委嘱 する。
- この会則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮っ 籬 8 て定める。

附 則

- この規約は、昭和52年4月19日から施行する。 附 則
- この規約は、昭和55年12月1日から施行する。 附則
- この規約は、平成9年4月1日から施行する。 附 則
- この規約は、平成20年4月1日から施行する。 附則
- この規約は、平成22年4月1日から施行する。 附 則
- この規約は、平成24年6月1日から施行する。
- 第4条の2の規定によらず、平成24年6月1日から委嘱する委員の任期については、 平成24年6月1日から平成26年3月31日までの1年10か月とし、その後に委嘱する 委員の任期については、従前のとおりとする。

2. 災害時の医療救護活動に関する協定書

盛岡市医師会長 石川 育成

近時、集団災害時医療救助の体制確立は大きな社会問題であると同時に焦眉の急である。

外国に目を移すとその救助活動は目を見張るものであり、残念乍ら我が国は「富国日本は金も出さず人も出さず国際的役割を果たしていない」と批判の的であると言う。国内の体制が整備されない現実を視ればそれも頷かざるをえない事実であろう。

過去を省みるまでもなく、国内に発生した集団災害の医療救助体制は付け焼刃であり必ずしも満足出来るものではない。災害対策基本法に基づいて夫々の地方自治体に体制が現存するとは言え、過去においてその体制の本格的作動は皆無に近い。

地方小都市と言えども集団災害に無縁ではない。近年の高層ビルの林立は集団災害発生の素地を 有し、飛行機事故、大地震、津波等々の発生予見は不可能である。斯かる事態発生を想定しての医 師集団率先による具体的体制確立が急務であることは言を待たない。

盛岡市医師会は数年来、斯かる問題に鋭意検討、研究を重ねて来たところであるが、出動時の死傷補償が大きな壁であった。然し乍ら補償問題決着の待事では埒があかず、体制確立と平行しての行政接衡を条件とし、医道・医心を弁えた会員の総意による『盛岡市医師会災害救助隊設置要項』が昭和61年5月の総会承認を得たのである。

此の度盛岡市当局は勇断をもって盛岡市医師会との協定を締結したが、この協定は医師集団の理 念を充分理解したものであり、この実績が県内各市町村に波及する事によって15郡市医師会の足並 みが完全に揃い、岩手県医師会の提唱する大目的が達成される原動力になる事を期待するものであ る。

此の種の問題は画一的にとらえて実行に移す事は極めて困難な部分が多い。地域環境、会員数等々の地域事情も考慮しなければならないが、災害における人命救助活動は医師集団の組織活動力以外にない。地域事情の困難性を越えての体制作りこそ医師集団への期待と信頼が倍加する事になろう。

岩手県医師会は災害救助体制確立を急務としている。底辺からの対応策の集積が「岩手県と岩手県医師会」「岩手県医師会と郡市医師会」「郡市医師会と市町村」「岩手県と市町村」の協定図式の基盤となる事は明白である。

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 1988」より

①岩手県と岩手県医師会との協定書

岩手県(以下「甲」という。)と社団法人岩手県医師会(以下「乙」という。)は災害時における医療救護について、次のとおり協定を締結する。

(趣 旨)

第1条 この協定は岩手県地域防災計画に基づき、甲が行う医療救護に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

(医療班の派遣)

- 第2条 甲は、岩手県地域防災計画に基づき、医療救護活動を実施する必要が生じた場合は、乙に 対し医療班の編成及び派遣を要請するものとする。
- 2 乙は、前項の規定により甲から要請を受けた場合は、直ちに医療班を編成し災害現場等の救護 所等に派遣するものとする。

(自主出動)

- 第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に 被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主 的に医療班を編成して、派遣することができる。
- 2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。
- 3 乙が前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたと きは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

(災害医療救護計画)

第3条 乙は、前2条の規定により医療救護活動の円滑な実施を図るため、災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

(医療班に対する指揮)

第4条 医療救護活動の総合調整を図るため、乙が派遣する医療班に対する指揮は、甲が指定する ものが行う。

(医療班の業務)

- 第5条 乙が派遣する医療班は、甲または市町村が避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護活動を行うことを原則とする。
- 2 医療班の業務は次の通りとする。
 - (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
 - (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
 - (3) 被災者の死亡の確認

(医薬品等の供給)

第6条 乙が派遣する医療班が使用する医薬品等は、当該医療班が携行するもののほか、甲が供給 するものとする。

(収容医療機関の指定)

第7条 乙は、甲が傷病者の収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

- 第8条 救護所における医療費は無料とする。
- 2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用の弁償等)

- 第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用は、甲が負担する ものとする。
 - (1) 医療班の編成及び派遣に要する経費
 - (2) 医療班が携行した医薬品等を使用した場合の実費
 - (3) 医療班昌が医療救護活動において負傷し、疾病にかかりまたは死亡した場合の扶助金
 - (4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

(細 目)

第10条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

(協議)

第11条 この協定に定めのない事項、またはこの協定に関し疑義が生じた事項については、甲乙協 議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第12条 この協定の有効期間は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の 有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間 満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙者記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成10年3月19日

甲 岩 手 県 代表者 岩手県知事 増 田 寛 也

乙 盛岡市菜園二丁目 8 番20号 社団法人 岩手県医師会 会 長 石川 育 成

②岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書

社団法人岩手県医師会(以下「甲」という。)と社団法人盛岡市医師会(以下「乙」という。)とは、平成元年4月20日岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書」に基づき、災害時の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

(総 即)

第1条 この協定書は、岩手県地域防災計画に基づき、岩手県が行う医療救護活動に対し、岩手県 知事と岩手県医師会長との間に協定された災害時の医療救護活動についての乙の協力に関し、必 要な事項を定める。

(医療救護班の派遣)

- 第2条 甲は、医療救護活動を実施する必要が生じた場合は乙に対し、医療救護班の派遣を要請するものとする。
- 2 乙は、前項の協定により、甲から要請を受けたときは、直ちに乙の災害医療救護計画に基づき、 医療救護班を派遣するものとする。

(自主出動)

- 第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に 被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主 的に医療班を編成して、派遣することができる。
- 2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。
- 3 乙が、前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めた ときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

(災害医療救護計画)

第3条 乙は、医療救護活動の円滑な実施を図るため災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出 するものとする。

(指揮命令)

第4条 医療救護班に係る指揮命令及び医療救護活動の連絡調整は、甲の指定する者が行うものと する。

(医療救護班の業務)

- 第5条 乙が派遣する医療救護班は、岩手県または市町村が避難場所、避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護を行う。
- 2 医療救護班の業務は次のとおりとする。
 - (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
 - (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
 - (3) 被災者の死亡の確認

(医薬品等の供給)

第6条 乙が派遣する医療救護班が使用する医薬品等は、当該医療救護班が携行するもののほか、 原則として岩手県が供給するものとする。 (収容医療機関の指定)

第7条 乙は、岩手県が地域防災計画に基づく収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

- 第8条 救護所における医療費は無料とする。
- 2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用弁償等)

- 第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用については、乙が 甲に請求するものとする。
 - (1) 医療救護班の編成及び派遣に要する経費
 - (2) 医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費
 - (3) 医療救護班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、または死亡した場合の扶助金
 - (4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの
- 2 前項第1号、第2号の定めにより請求する費用弁償等の額については、岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書及び同実施細則」によるものとする。 (費用弁償等の請求、報告)
- 第10条 前条の定めによる費用弁償等の請求、報告については、医療救護活動終了後、速やかに乙が一括して別に定める方式により甲に請求、報告するものとする。

(費用弁償等の支払)

第11条 甲は、乙からの請求、報告に基づき費用弁償等を岩手県へ請求するものとし、岩手県から 入金後速やかに乙に支払うものとする。

(協議)

第12条 前各条に定めのない事項及び協定実施にあたって疑義を生じた場合には、甲乙協議のうえ 決定するものとする。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間(以下「協定機関」という。)は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙両者記名押印のうえ各自その1通を保有する。

平成10年3月31日

岩手県盛岡市菜園二丁目8番20号 甲 社団法人 岩手県医師会 会 長 石 川 育 成

乙 岩手県盛岡市愛宕町18番6号 社団法人 盛岡市医師会 会 長 小 林

髙

③盛岡市と盛岡市医師会との協定書

盛岡市(以下「甲」という。)と社団法人盛岡市医師会(以下「乙」という。)とは、災害が発生した場合の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

(趣 旨)

- 第1条 この協定は、盛岡市地域防災計画(以下「防災計画」という。)に基づき、甲が乙の協力 を得て行う医療救護活動を円滑に実施するため、その実施に関し必要な事項を定めるものとする。 (医療救護班の派遣)
- 第2条 甲は、防災計画に基づく医療救護活動を行う必要が生じたときは、乙に対し、医師、看護 婦等で編成する医療救護班(以下「医療救護班」という。)の派遣を要請するものとする。
- 2 乙は、前項の規定により甲の要請を受けたときは、直ちに、医療救護班を甲の指定する場所に 派遣するものとする。
- 第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に 被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療救護班を派遣する必要があると認めた場合は、 自主的に医療救護班を編成して、派遣することができる。
- 2 乙は、前項の規定により医療救護班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。 (医療救護班の業務)
- 第3条 医療救護班の業務は、次のとおりとする。
 - (1) 傷病者に対する応急処置
 - (2) 後送医療施設への転送の要否及び転送順位の決定
 - (3) 助産
 - (4) 死亡の確認

(医療救護班の輸送)

第4条 医療救護班の輸送は、原則として甲が行う。

(救護所の設置)

- 第5条 甲は、災害の状況により必要に応じて救護所を設置する。
- 2 甲は、前項に定めるもののほか、災害の状況により必要と認めたときは、医療救護活動が可能 な被災地周辺の医療施設に乙の協力を得て救護所を設置する。

(使用医薬品等)

- 第6条 医療救護活動に使用する医薬品、医療材料その他医療関係物品(以下「医療品等」という。) は、原則として甲が備える医薬品等とする。
- 2 前項の医薬品の輸送は、原則として甲が行う。

(救護所における給食等)

第7条 救護所において必要とする給食及び給水は、甲が行う。

(医療費)

- 第8条 救護所における医療費は、無料とし、患者に対しては請求しないものとする。
- 2 後送医療施設における医療費は、患者が負担する。

(費用弁償)

- 第9条 甲は、次の各号に掲げる費用について、当該各号に定める額を負担する。
 - (1) 医療救護班を派遣したときの人件費 災害救助法(昭和22年法律第118号)の規定に基づく 実費弁償の程度を基準として、甲、乙協議して定める額
 - (2) 医療救護班が調達した医薬品等を使用したときのその使用した医薬品等の費用実費の額
 - (3) 後送医療施設及び救護所において行った医療救護活動に伴い、当該後送医療施設及び救護所の施設又は設備を損傷したときの当該施設又は設備の現状回復に要する費用 実費の額
 - (4) 前各号に該当しない費用で、この協定実施のため要したもの 甲、乙協議して定める額 (扶助費)
- 第10条 甲は、医療救護班の医師、看護婦等が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、又は 死亡したときは、災害救助法の規定に基づき支給される扶助金の例により扶助費を支給する。 (医事紛争の措置)
- 第11条 医療救護班が医療活動により患者との間に医事紛争が生じたときは、乙は、直ちに甲に連絡するものとする。
- 2 甲は、前項の連絡を受けたときは速やかに調査し、乙と協議の上誠意をもって解決のため適当 な措置を講ずるものとする。

(報 告)

第12条 乙は、医療救護活動終了後速やかに甲の定めるところにより医療救護活動従事者の氏名及び人数その他医療救護活動の内容を、甲に報告するものとする。

(費用等の請求)

第13条 乙は、第9条の費用及び第10条の扶助費(以下「費用等」という。)を請求するときは、 甲の定めるところにより行うものとする。

(支 払)

第14条 甲は、前条の規定により費用等の請求があったときは、その内容を審査し、適当であると 認めたときは、その費用等を乙に支払うものとする。

(協 議)

第15条 この協定に定めのない事項又はこの協定について疑義が生じた事項については、甲、乙協 議して定める。

(協定機関)

第16条 この協定の有効期間は、昭和62年10月1日から昭和63年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了1月前までに甲、乙いずれかから何ら意思表示がないときは、更に期間満了の翌日から1年間この協定を更新するものとし、以後この例による。

この協定の締結の証として、本書 2 通を作成し、甲、乙記名押印して、それぞれの 1 通を保有するものとする。

平成11年11月15日

甲 盛岡市 代表者 盛岡市長 桑 島 博

乙 盛岡市愛宕町18番 6 号 社団法人盛岡市医師会 会 長 小 林

高

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会 設 置 要 項

(設置)

第1条 盛岡市医師会に二次救急医療対策委員会(以下委員会という)を置く。

(所 掌)

第2条 委員会は次に掲げる事項を審議する。

- (1)盛岡地区に於ける救急医療対策に関する事項
- (2)その他二次救急医療対策に伴う必要な事項

(構 成)

第3条 委員会は盛岡市医師会長が任命した委員をもって構成し、委員会に若干名の 常任委員を置く。

(任期)

第4条 委員の任期は盛岡市医師会役員の任期と同じとする。

(委 員 長)

- 第5条 委員会に委員長を置き委員長は盛岡市医師会長とする。
 - (1)委員長は会務を総括し会議の議長となる
 - (2)委員長が事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する

(会 識)

- 第6条 委員会の会議は必要に応じて委員長が招集する。
 - (1)会談は委員会と常任委員会の二種とする
 - (2)委員長は必要があるときは関係者を出席させ説明又は意見を求めることが出来る

(会議の結果)

- 第7条 委員会は必要に応じて審議した結果を速やかに医師会長に報告する。
- 第8条 本委員会の庶務は盛岡市医師会事務局に於いて処理する

(経 費)

第9条 委員会の経費は補助金、関連医療機関からの拠出金及びその他の収入金をもって充てる。

(1)拠出金の額は毎年3月に委員会に於いて審議決定する

附 則

第 10 条 この要項は昭和55年4月1日から施行する。

この会則は、平成2年4月1日一部改正する。 この会則は、平成7年4月1日一部改正する。 この会則は、平成8年4月1日一部改正する。 この会則は、平成9年4月1日一部改正する。 この会則は、平成12年4月1日一部改正する。 この会則は、平成20年4月1日一部改正する。 この会則は、平成20年4月1日一部改正する。 この会則は、平成22年4月1日一部改正する。

付 表

一委 員一

岩手医科大学附属病院 院長 他4名 岩手県立中央病院 院長 他1名 岡 赤 十 字 院長 他1名 胘 病 院 盛 市 立. 病 院長 他1名 窗 院 高 松 病 院 院長 1名 1名 栃 内 病 院 院長 1名 遊 山 病 院 院長 盛岡つなぎ温泉病院 院長 1名 盛 出 友 爱 病 院 院長 1名 久 院長 1名 Ш 保 病 院 長 独立行政法人国立病院機構盛岡病院 院長 1名 もりおかこども病院 院長 1名 病 八 角 院 院長 1名 夜間急患診療所運営委員 4名 8名 酩 岡市医師会理 事 岩 手 西 北 医 韶 会 会長 1名 医 会 会長 1名 紫 波 郡 師 そ の 他 若干名 以上 37名以内

Ⅲ 編集後記

平成29年を振り返ると、北朝鮮による度重なるミサイル発射など物騒なことはあったが、岩手では幸い大きな災害、感染症の流行もなく経過した。前年の2016年に生まれた子供の数が97万人余りと判明し、100万人割れは統計の残る1899年以来初とのことで、少子化がますます進んでいる。それを反映してか、ワクチンなど予防医療の発達、浸透による感染症の減少か、小児救急の受診者数は年々減少傾向である。それに対して二次救急の救急車搬送患者、入院患者が増加している。これは高齢者の増加に伴うものと思われ、このような傾向は今後とも続いていくであろう。

近年は異常気象と言われ、特に今年(2018年)は全国的に猛暑が続いている。北国岩手でも35度近くの気温が計測され、連日熱中症に注意するように多くの報道がなされているが、多くの患者が熱中症を起こし救急車で搬送されている。従来は冬場に多かった高齢者の大腿骨頸部骨折が、最近では夏場に、しかも室内で転倒し受傷することが多くなっているという。暑さで体調を壊し転倒する高齢者が増えているためと思われる。岩手は比較的涼しい為、これまでは冷房設備を備えている家庭が少なかったが、日中のみならず夜間も熱帯夜に近い状態の日々が続くようになった近況では、健康を守るため適切な環境整備、対策が必要となってきている。

最後に本年も「あゆみ」を発刊できました。寄稿していただきました各位様、貴重なデータを毎 月報告している各医療機関、保健所の事務職員の皆様、盛岡市医師会事務局の皆様に感謝申し上げ まして編集後記とします。

(久保直彦)

※盛岡地区救急医療体制のあゆみ編集委員

和 田 利 彦・小 山 耕太郎・近 藤 公 亮・野 崎 英 二 吉 田 耕太郎・金 子 博 純・本 間 博・橋 本 真 生 久保田 公 宣・金 濱 誠 己・小 林 有 一・臼 井 由紀子 久 保 直 彦

盛岡市地区救急医療体制のあゆみ

2018

発行日 平成30年9月9日

発行者 盛岡市

盛岡市医師会

盛岡市救急医療対策委員会

印刷所 (有) 博光 出版

